孫詒讓の「古今字」

森　賀　一　惠

一　はじめに

「古今字」は鄭玄も用いている[1]伝統的な訓詁學用語で，同一の語を表すのに古くは甲字が後代に乙字が用いられたという場合，それを「甲乙，古今字」と表現する。注釋では同じ事柄をほかに「甲，古（之）乙字」「甲，今（之）乙字」「甲，今字作乙」「乙，古作甲」などとも言い表すが，「古今字」とは，本來は，讀んで字のごとく，單に同じ語を古と今（時代の前後，相對的な古今で特定の時代を指さない）で異なる字を用いて表記する現象をいう語である。しかし，最近では，この語を文字の派生の觀點から，初文とそれから派生した字[2]を指して用いることがあり，清代以前の「古今字」解釋にも混亂が生じている[3]。古今字は當然，初文と派生字を含むが，必ずしも古字が初文で今字が派生字というわけではない。古今字と初文・派生字は全く別の概念である。この文章では，『周禮正義』を手がかりに清末の孫詒讓の「古今字」の内容を明らかにし，清代以前の「古今字」は歴史的同語異字現象のみを指すものだったことを確認しておきたいと思う。

二　『周禮正義』略例の古今字

孫詒讓は『周禮正義』略例第八に，古今字の例を48組擧げるが，そのうちの「壹」「一」と「參」「三」については以前に論じた[4]ことがあるので，以下，その他の46組についての調査結果を述べる。

1　『禮記』曲禮下「君天下曰天子，朝諸侯分職授政任功曰予一人。」注「余予，古今字。」

2　初文とそれから派生した字の關係をいう場合は，初文を「原字」、「本原字」，派生字を「後起字」、「區別字」、「分別字」などと呼ぶこともある。

3　例えば，洪成玉『古今字』（語文出版社　1995）は，段玉裁の古今字に關する觀點をまとめ，①古今字是古今用字不同、②古今字的古和今，是相對而言的、③古今字不是字的形體演變、④古今字没有造字相承的關係の四つを擧げるが（p. 8－21），③は本來古今字とは關わりのない概念であり，④は「造字相承的關係」がないとは限らないので誤りである。これは，文字の派生の觀點から用いられる「古今字」と清代以前の「古今字」を混同したものだが，段玉裁だけでなく，清代以前の「古今字」の定義は①と②で十分なのではないかと思われる。

4　「『周禮』の壹と參」（『富山大学人文学部紀要』43，p. 45－57）

(1)獻・漁

『周禮』経文に「漁」[5] は見えず，「獻」は官名「獻人」とその職掌を述べる部分４箇所に見える[6]。逆に注には「漁」のみで「獻」はない。[7] 「獻」は『説文』に見えないが，序官の『釋文』が「獻」の或體として「魰」を挙げることから，「籀」[8] の異体字だとされ，[9]「漁」の意味を表すのは假借である。孫詒讓は，「古用叚字，今用正字」といい，「經用古字，注用今字」の一例だと考える。

(2)灋・法

「法」は「灋」の略體である。[11]『周禮』以外の十二經には「灋」は見えないが，阮元本『周禮』の經文には「灋」が142、「法」が８出現する。注は原則として「法」に作るが，大宰注の小宰經文の引用では，例外的に「灋」に作る[12]。孫詒讓は，小宰經文の「灋」について，釋文の「灋，古法字」と『説文』の「灋」の説解を引き，「凡經皆作灋，注皆作法，經例用古字，注例用今字也」といい，注の小宰經文の引用も「法」に作る。また，注文が「法」に作る箇所で，「經用古字，注用今字」と繰り返し指摘するほか，阮元本で「法」に作る經文の8箇所をすべて「灋」に改め，それらについても注に「法」字が見える箇所では「此亦注用今字作法也」と指摘することを忘れない[13]。

5　『説文』十一篇下鱻部「灤，捕魚也，捕魚也，从灥从水，漁，篆文灤，从魚。」

6　天官序官「獻人中士二人。」經典釋文「獻，音魚，本又作魚，亦作魰同，又音御。」孫詒讓疏「此獻、魰，並魰之別體，古假爲捕魚字。」
獻人「獻人掌以時獻爲梁。」注「月令季冬，命漁師爲梁。」(『禮記』月令「季冬之月，……是月也，命漁師始漁。」) 孫詒讓疏「『掌以時獻爲梁』者，禮運注引獻並作漁，古用叚字，今用正字也。詳敍官疏。」(『禮記』禮運「用水火金木飲食必時」注「用水謂漁人以時漁爲梁。」)
獻人「凡獻者掌其政令，凡獻征入于玉府。」注「鄭司農云，漁征，漁者之租稅，漁人主收之入于玉府。」孫詒讓疏「注鄭司農云，……者，此亦注用今字作漁也。」

7　『周禮』の他の十二經に「獻」は見えず，「漁」のみ。「漁」は，『周易』繫辭下、『禮記』月令、坊記、『左傳』襄公傳二十五年、『孟子』公孫丑上などに見える。

8　『説文』五篇上「籀，禁苑也，从竹御聲，春秋傳曰，澤之目籀。魰，籀或从又魚聲。」なお「春秋傳」は左傳昭公二十年「澤之萑蒲，舟鮫守之。」に見える澤の番人の官名「舟鮫」。荘述祖（下注参照）は「鮫」を「魰」の誤りとする。

9　荘述祖『五經小學述』一（『皇清經解續編』巻238）参照。

10　獻人疏。注6参照。

11　『説文』十篇上鷹部「灋，刑也。平之如水，从水。鷹所以觸不直者去之，从去。法，今文省。」

12　天官・大宰「以八灋治官府。……六曰官灋，以正邦治。……」注「鄭司農云，……官法謂職所主之法度。官職主祭祀朝覲會同賓客者，則皆自有其法度。小宰職曰，以灋掌祭祀朝覲會同賓客之戒具。……」

13　地官・草人「掌土化之法，以物地，相其宜而爲之種。」注「土化之法，化之使美，若氾勝之術也。」孫詒讓疏は，經文の「法」を「灋」に作り，「注云『土化之法，化之使美』者，此亦注用今字作法也。」
夏官・諸子「若有兵甲之事，……合其卒伍，置其有司，以軍法治之。」注「軍法，百人爲卒，五人爲伍。」孫詒讓疏は，經文の「法」を「灋」に作り，「云『合其卒伍，置其有司，以軍灋治之』者，燕義灋作法，古今字。」

(3)聯・連

「連」は，『周禮』経文では[14]冬官に1例見える[15]ほか，前五篇では三易の一の名「連山」に用いられるのみ（2例）[16]で，連なる、連ねるの意味では「聯」を用いる（17例）[17]。

『説文』では「聯」は「連也」[18]であるが，「連」は「員連也」[19]と訓じられる。段玉裁は「連」を「輦」の古文だと考えたため，テキストを「負車也，从辵車，會意。」に改め，大宰の鄭衆注に関連して「漢以後，連貫字皆用連，故司農以今字易古字，而又明之曰，周秦古書連貫字皆用聯。（漢以後は，つらなるという意味では皆「連」字を用いたので，鄭司農注では古字のかわりに今字を使い，さらに周秦の古書はつらなるの意味ではみな「聯」を用いたと説明している。）」[21]といい，『説文解字注』[22]でも，大宰注「古書連作聯」を引き，「然則聯連爲古今

夏官・大僕「祭祀、賓客、喪紀，正王之服位，詔法儀，贊王牲事。……縣喪首服之法于宮門。……王燕飲，則相其法。」注「首服之法謂免髽、笄、總、廣狹長短之數。」孫詒讓疏は，經文の「法」をいずれも「灋」に作り，「注云『首服之法謂免髽、笄、總、廣狹長短之數』者，此亦注用今字作法也。」

夏官・小臣「掌王之小命，詔相王之小法儀。……小祭祀、賓客、饗食、賓射掌事，如大僕之法。」注「小法儀，趨行拱揖之容」孫詒讓疏は，經文の「法」をいずれも「灋」に作り，「注云『小法儀，趨行拱揖之容』者，此亦注用今字作法也。」

秋官・士師「掌國之五禁之灋以左右刑罰。……若邦凶荒，則以荒辯之法治之。」注「鄭司農云，……救荒之政十有二，而士師別受其數條。是爲荒別之法。玄謂，……遭飢荒不明判國事有所貶損，作權時法也。」孫詒讓疏は，經文の「法」を「灋」に作り，「『若邦凶荒，則以荒辯之法治之』者，灋，唐、蜀石經及宋大字本、明嘉靖本並作法，今依宋附釋音本、明注疏本正。凡經例用古字作灋，詳大宰疏。」

14　『周禮』のほかの十二經には「連」は見えるが，「聯」は見えない。

15　冬官・梓人「外骨，內骨，卻行，仄行，連行，紆行，以脰鳴者。以注鳴者。以旁鳴者。以翼鳴者。以股鳴者。以胸鳴者。謂之小蟲之屬，以爲雕琢。」注「連行，魚屬。」

16　春官・大卜「掌三易之灋。一曰連山，二曰歸藏，三曰周易。」

春官・簭人「掌三易，以辨九簭之名。一曰連山，二曰歸藏，三曰周易。」

17　天官・大宰「以八灋治官府。一曰官屬，以舉邦治。二曰官職，以辨邦治。三曰官聯，以會官治。……」注「官聯謂國有大事，一官不能獨共，則六官共舉之。聯讀爲連，古書連作聯。聯謂連事通職相佐助也。小宰職曰，（省略聯７見。下参照。），官常謂各自領其官之常職，非連事通職所共也。」『周禮漢讀考』巻一「漢以後，連貫字皆用連，不用聯，故司農以今字易古字，而又明之曰，周秦古書連貫字皆用聯。許叔重曰，……，此古書二字，與凡言故書者不同。」孫詒讓疏「云『聯讀爲連，古書連作聯』者，段玉裁云，……，案段説是也。」

天官・小宰「以官府之六聯合邦治。一曰祭祀之聯事。二曰賓客之聯事。三曰喪荒之聯事。四曰軍旅之聯事。五曰田役之聯事。六曰斂弛之聯事。凡小事皆有聯。」注「鄭司農云，…此所謂官聯。」孫詒讓疏「云『此所謂官聯』者，聯，黄丕烈校改連，是也。」

地官・大司徒「以本俗六安萬民。一曰媺宮室。二曰族墳墓。三曰聯兄弟。四曰聯師儒。五曰聯朋友。六曰同衣服。」注「連猶合也。」孫詒讓疏「云『連猶合也』者，此從今字讀聯爲連也。大宰八法三曰官聯，先鄭注云，『聯讀爲連，古書連作聯。』是聯連古今字。」

地官・族師「五家爲比，十家爲聯，五人爲伍，十人爲聯，四閭爲族，八閭爲聯。使之相保相受，刑罰慶賞，相及相共，以受邦職，以役國事，以相葬埋。」

地官・司關「掌國貨之節，以聯門市。」

秋官・士師「掌鄉合、州黨、族閭比之聯與其民人之什伍，使之相安相受，以比追胥之事，以施刑罰慶賞。」

18　十二篇上耳部「聯，連也。从耳，耳連於頰也。从絲，絲連不絶也。」

19　二篇下辵部「連，員連也，从辵从車。」

20　「輦」は十四篇上車部「輦，輓車也。从車扶。扶在車前引之也。」

21　『周禮漢讀考』巻一「大宰」

22　『説文解字注』二篇下辵部「連」注。

字。連輦爲古今字。假連爲聯，乃專用輦爲連。大鄭當云，連今之輦字，而云讀爲輦者，以今字易古字。令學者易曉也。（だとすれば，「聯」「連」は古今字で「連」「輦」も古今字である。「連」を假借して「聯」の意味で用い，「輦」を「連」（くるま）専用に用いる。鄭衆は「連は今の輦字」というべきところを，「輦」に読むといっているのは，学ぶ者がわかりやすいように，古字のかわりに今字を用いるのである。）」という。段玉裁は，つらなるの意味では「聯」「連」が古今字で，正字の「聯」が古字、假借字の「連」が今字だと考えているのである。孫詒讓は段説を是とする。

(4)頒・班

『周禮』の經文には「班」は見えず，55見える「頒」[23] はわかつの意である[24]。注は，數箇所

23　天官・大宰「以九式均節財用。……八曰匪頒之式。……」注「頒讀爲班布之班，謂班賜也。玄謂王所分賜羣臣也。」『周禮漢讀考』巻一「頒，大首皃，詩曰，有頒其首，司農謂非其義，故易爲分瑞玉之班，頒古音讀如汾，在十三部。班古音在十四部。合音最近。古相假借，若讀爲分，或讀爲攽，則同部假借。」孫詒讓疏「云『頒讀爲班布之班』者，宮伯、大宗伯注、大史先鄭注，讀並同。説文……，段玉裁云，……。」
天官・宮伯「以時頒其衣裘，掌其誅賞。」注「頒讀爲班。班，布也。」孫詒讓疏「此與大宰『匪頒』義同。」
天官・膳夫「凡肉脩之頒賜皆掌之。」
天官・酒正「掌酒之賜頒，皆有灋以行之。」
天官・凌人「夏，頒冰掌事。」注「暑氣盛，王以冰頒賜，則主爲之。」
天官・大府「掌九貢九賦九功之貳，以受其貨賄之入，頒其貨于受藏之府，頒其賄于受用之府。……凡頒財，以式灋授之。……家削之賦，以待匪頒。…」
天官・司裘「季秋獻功裘，以待頒賜。」
天官・掌皮「遂以式灋頒皮革于百工。」
天官・典婦功「以共王及后之用，頒之于内府。」
天官・典絲「頒絲于外内工，皆以物授之。」
天官・典枲「掌布緦縷紵之麻草之物，以待時頒功而授齎。及獻功，受苦功以其賈楬而藏之，以待時頒。頒衣服授之。賜予亦如之。」注「授之，授受班者。帛言待有司之政令，布言班衣服，互文。」校勘記「授受班者，諸本同，浦鏜云，頒誤班，非也。此經作頒，注作班，通書準此。」孫詒讓疏「注云『授之，授受班者』者，……經云頒注云班者，蓋亦讀頒爲班，詳大宰疏。」
地官・大司徒「乃分地職奠地守，制地貢而頒職事焉。以爲地而待政令。」注「頒職事者，分命使各爲其所職之事。」孫詒讓疏「云『頒職事者，分命使各爲其所職之事』者，説文攴部云，『攽，分也』，頒疏即攽之叚字。」
地官・大司徒「頒職事十有二于邦國都鄙，使以登萬民。」
地官・小司徒「乃頒比灋于六鄉之大夫，……」
地官・鄉大夫「正月之吉，受教灋于司徒，退而頒之于其鄉吏，……」
地官・遺人「凡委積之事，巡而比之以時頒之。」
地官・遂人「辨其野之土上地、中地、下地，以頒田里。……以歲時登其夫家之衆寡及其六畜、車輦，辨其老幼廢疾與其施舍者，以頒職作事，以令貢賦，以令師田，以起政役。」注「職謂民九職也。分其農牧、衡虞之職，使民爲其事也。」
地官・縣正「各掌其縣之政令徵比，以頒田里，以分職事，掌其治訟，趨其稼事而賞罰之。」
地官・旅師「而用之以質劑致民，平頒其興積，施其惠散其利，而均其政令。……凡用粟，春頒而秋斂之。」注「平頒之，不得偏頗有多少。」
地官・委人「凡其余聚以待頒賜。」
地官・澤虞「掌國澤之政令，爲之厲禁，使其地之人守其財物，以時入之于玉府，頒其餘于萬民。」
地官・掌染草「以權量受之，以待時而頒之。」

で，「頒」を「班」に讀むとするが，「班」に作るのは典籍注のみである。『説文』の「頒」と「班」の説解から，[25] 段玉裁は天官・大宰「匪頒之式」注の「頒讀爲班布之班，謂班賜也」について，「頒」を「班」の假借とするが，「頒」は十三部、「班」は十四部であることから，同部の「攽」[26] の假借である可能性にも言及する[27]。孫詒讓は大宰疏で『説文』と段説を引く[28]。

(5) 于・於

阮元本『周禮』の經文に「于」は218、「於」は94見える。「于」218のうち，214までは前五篇で，冬官の「于」4のうち3は助字ではなく[29]，1例は，王が侯を祝する辭の中に見え，地の文

地官・廩人「掌九穀之數，以待國之匪頒、賙賜、稍食。」注「鄭司農云，……頒讀爲班布之班，謂班賜也。」
地官・倉人「若穀不足則止餘灋用。有餘則藏之，以待凶而頒之。」
春官・大宗伯「王大封，則先告后土，乃頒祀于邦國都家鄉邑。」注「頒讀爲班，班其所當祀及其禮。」
春官・小宗伯「毛六牲，辨其名物，而頒之于五官，使共奉之。……若大甸，則帥有司而饁獸于郊，遂頒禽。」注「頒禽，謂以予羣臣。」
春官・肆師「大祭祀，展犧牲繫于牢，頒于職人。」
春官・大胥「秋頒學合聲。」注「春使之學，秋頒其才藝所爲。」
春官・大祝「頒祭號于邦國都鄙。」
春官・大史「正歲年以序事，頒之于官府及都鄙，頒告朔于邦國。」注「天子頒朔于諸侯。」
春官・司常「及國之大閱，贊司馬頒旗物。」
夏官・司勳「凡頒賞地，參之一食。」
夏官・掌固「掌脩城郭、溝池、樹渠之固。頒其士庶子及其衆庶之守。」
夏官・司士「國有故，則致士而頒其守。」
夏官・司兵「及授兵，從司馬之灋以頒之。」
夏官・司戈盾「掌戈盾之物而頒之。」
夏官・司弓矢「及其頒之，王弓、弧弓，以授射甲革椹質者。夾弓、庾弓，以授射豻侯鳥獸者。唐弓、大弓，以授學射者。……凡師役會同，頒弓弩，各以其物，從授兵至之儀。」
夏官・校人「凡頒良馬而養乘之。……夏祭先牧，頒馬攻特。」
夏官・校人「凡大祭祀朝覲會同，毛馬而頒之。」注「頒，授當乘之。」
夏官・校人「凡軍事，物馬而頒之。」「掌駕說之頒。」
夏官・牧師「掌牧地，皆有厲禁而頒之。」注「頒馬，授圉者所牧處。」
夏官・山師「掌山林之名，辨其物與其利害而頒之于邦國，使致其珍異之物。」
夏官・川師「掌川澤之名，辨其物與其利害而頒之于邦國，使致其珍異之物。」

24 『禮記』にもわかつの意の「頒」が見えるが（禮運、明堂位、祭義），「班」に作る例（檀弓上）もある。
禮運「合男女，頒爵位，必當年德。」疏「頒爵位者，頒，分也，……」
明堂位「周公踐天子之位，以治天下。六年，朝諸侯於明堂，制禮作樂，頒度量，而天下大服。」注「頒讀爲班。度謂丈尺高卑廣狹也。量謂豆區斗斛筐筥所容受。」
祭義「古之道，五十不爲甸徒，頒禽隆諸長者，而弟達乎獀狩矣。」注「頒之言分也。」
檀弓上「請班諸兄弟之貧者。」注「以分死者所矜也。」

25 『説文』九篇上頁部「頒，大頭也。」一篇上珏部「班，分瑞玉。」

26 『説文』三篇下攴部「攽，分也。从攴分聲。周書曰，乃惟孺子攽。」段注に「雒誥文。今尚書作頒。蓋孔安國以今文字易之。周禮亦作頒。當是攽爲正字。頒爲假借字。鄭司農云，……，據許所偁古文，則當云，頒當爲攽，不爾者，漢時攽字不行也。……」

27 『周禮漢讀考』巻一。注23参照。

28 原文は注23参照。

29 冬官・鳧氏「爲鍾。兩欒謂之銑，銑間謂之于，于上謂之鼓，…于上之擂謂之隧，…」。この「于」は「銑間」すなわち鐘口の兩角の間のこと。

ではない。冬官に助字の「于」はないに等しい。

『説文』では「于」は「於也」[30] だが，「於」は「孝鳥也」と訓じられる「烏」の或體である[31]。段玉裁は，「於」が既に「于」の訓として用いられていることを指摘し，「則又于於爲古今字。釋詁、毛傳、鄭注經皆云，『于，於也』。凡經多用于，凡傳多用於，而烏鳥不用此字。(つまり，「于」「於」も古今字である。『爾雅』釋詁、『詩』毛傳、三禮の鄭注の注釋はみな「于，於也」とする。經は「于」を，傳は「於」を用いることが多く，「烏」の意味では「於」を用いない。)」と注する。阮元本『周禮』經文の「於」64例について，孫詒讓疏は「于」に改めるか，改めない場合も誤りであるとする[32]。また，逆に注は「于」でなく「於」に作るべきだと考える[33]。冬官の「於」30例[34]については「於」の初出箇所で，前五篇と冬官は用字法が異なるので，誤りではないとし，以下の「於」については，疏は省いている。

30　五篇上于部「于，於也。象气之舒于。从丂从一。一者，其气平也。」

31　四篇上烏部「烏，孝鳥也。…於，象古文烏省。」

32　天官・内小臣「有好令於卿大夫，則亦如之。」孫詒讓疏「云『有好令於卿大夫，則亦如之』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
天官・寺人「若有喪紀賓客祭祀之事，則帥女宮而致於有司，佐世婦治禮事。」孫詒讓疏「云『則帥女宮而致於有司』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・大司徒「若國有大故，則致萬民於王門，令無節者不行於天下。」孫詒讓疏「云『則致萬民於王門』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。下同。」
地官・鄉師「凡四時之徵令有常者，以木鐸徇於市朝。」孫詒讓疏「云『以木鐸徇於市朝』者，於，經例當作于，唐石經及各本並誤。」
地官・鄉大夫「正歲，令羣吏攷灋于司徒，以退，各憲之於其所治。國大詢于衆庶，則各帥其鄉之衆寡，而致於朝。」孫詒讓疏「云『以退，各憲之於其所治』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・司諫「辨其能而可任於國事者，以攷鄉里之治，以詔廢置，以行赦宥。」孫詒讓は「於」を「于」に作る。
地官・司救「其有過失者，三讓而罰。三罰而歸於圜土。」孫詒讓は「於」を「于」に作る。
地官・媒氏「中春之月，令會男女。於是時也，奔者不禁。」孫詒讓疏「云『於是時也，奔者不禁』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・司市「凡萬民之期于市者，辟布者，量度者，刑戮者，各於其地之敘。」孫詒讓は「於」を「于」に作る。
地官・泉府「掌以市之征布斂市之不售貨之滯於民用者，以其賈買之，物楬而書之。」孫詒讓疏「云『斂市之不售貨之滯於民用者』者，於，段玉裁校改于，……，案段説是也。於，經例用古字，皆作于。」
地官・司關「凡貨不出於關者，舉其貨，罰其人。」孫詒讓疏「云『凡貨不出於關者』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・掌節「凡通達於天下者，必有節以傳輔之。」孫詒讓疏「云『凡通達於天下者，必有節以傳輔之』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・稍人「若有會同師田行役之事，……治其政令，以聽於司馬。大喪，帥蜃車與其役，以至掌其政令，以聽於司徒。」孫詒讓疏「云『以聽於司馬』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
地官・角人「凡骨物於山澤之農，以當邦賦之政令，以度量受之，以共財用。」孫詒讓は「於」を「于」に作る。
春官・小宗伯「兆五帝於四郊。」『周禮漢讀考』巻三「兆五帝於（當作于）四郊」孫詒讓疏「『兆五帝於四郊』者，段玉裁云『於當作于』。」
春官・典命「凡諸侯之適子誓於天子。」孫詒讓疏「云『凡諸侯之適子誓於天子，……』者，於，經例當作于，唐石經及各本並誤。」

春官・世婦「凡王后有先事於婦人，則詔相。凡內事有達於外官者，世婦掌之。」孫詒讓疏「云『凡王后有先事於婦人，則詔相』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
春官・冢人「凡死於兵者，不入兆域。……凡諸侯及諸臣葬於墓者，授之兆，爲之蹕，均其禁。」孫詒讓疏「云『凡死於兵者，不入兆域』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。……云『凡諸侯及諸臣葬於墓者，授之兆』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
春官・大司樂「凡有道者，有德者，使教焉，死則以爲樂祖，祭於瞽宗。……凡樂，圜鍾爲宮，……，於地上之圜丘奏之。……凡樂，函鍾爲宮，……，於澤中之方丘奏之。……凡樂，黃鍾爲宮，……於宗廟之中奏之。」孫詒讓疏「云『死則以爲樂祖，祭於瞽宗』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。……云『於地上之圜丘奏之』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。下『方丘』『宗廟』同。」
夏官序官「家司馬，各使其臣，以正於公司馬。」孫詒讓疏「云『家司馬，各使其臣，以正於公司馬』者，於，經例當作于，石經及舊本並誤。」
夏官・司勳「凡有功者，銘書於王之大常，祭於大烝。」孫詒讓疏「云『凡有功者，銘書於王之大常，祭於大烝』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
夏官・馬質「凡受馬於有司者，書其齒毛與其賈。」孫詒讓疏「云『凡受馬於有司者』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
夏官・諸子「國有大事，則帥國子而致於大子，惟所用之。」孫詒讓疏「云『國有大事，則帥國子而致於大子』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
夏官・虎賁氏「有徵事，則奉書以使於四方。」孫詒讓疏「云『則奉書以使於四方』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
夏官・大僕「王不眡朝，則辭於三公及孤卿。」孫詒讓は「於」を「于」に作る。
秋官・大司寇「以兩造禁民訟，入束矢於朝。然後聽之。……凡萬民之有罪過而未麗於灋而害於州里者，……凡遠近惸獨老幼之欲有復於上而其長弗達者，立於肺石，三日，士聽其辭，以告於上，而罪其長。……」孫詒讓疏「云『以兩造禁民訟，入束矢於朝，然後聽之』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」また，孫詒讓は「未麗於灋」の「於」を「于」に作り，「『凡萬民之有罪過而未麗于灋而害於州里者』者，……上「于」字石經誤於，今據嘉靖本正。下「於」字亦當作于，石經及各本並誤。」という。また「云『凡遠近惸獨老幼之欲有復於上而其長弗達者』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。下並同。」
秋官・小司寇「孟冬祀司民，獻民數於王，王拜受之。」孫詒讓疏「云『孟冬祀司民，獻民數於王』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
秋官・遂士「協日就郊而刑殺，各於其遂，肆之三日。」孫詒讓疏「云『協日就郊而刑殺，各於其遂，肆之三日』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
秋官・訝士「凡四方之有治於士者造焉，……邦有賓客，……，入於國，則爲之前驅而辟。」孫詒讓疏「云『凡四方之有治於士者造焉』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。下同。」
秋官・朝士「凡報仇讎者，書於士，殺之無罪。」孫詒讓疏「云『凡報仇讎者，書於士，殺之無罪』者，經例於當作于，石經及各本並誤。」
秋官・司民「掌登萬民之數，自生齒以上，皆書於版。」孫詒讓疏「云『掌登萬民之數，自生齒以上，皆書於版』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」
秋官・司約「凡大約劑，書於宗彝。小約劑，書於丹圖。」孫詒讓疏「云『凡大約劑，書於宗彝。小約劑，書於丹圖』者，於，經例並當作于，石經及各本並誤。」
秋官・掌戮「凡罪之麗於灋者，亦如之。」孫詒讓疏「云『凡罪之麗於灋者，亦如之』者，於，經例當皆作于，石經及各本並錯出，誤。」
秋官・蜡氏「若有死於道路者，……」孫詒讓疏「云『若有死於道路者，……』者，於，經例用古字，皆作于，不當錯出。」
秋官・雍氏「掌溝瀆澮池之禁，凡害於國稼者。春令爲阱，擭溝瀆之利於民者，……」孫詒讓疏「云『凡害於國稼者』者，於，經例當作于，下同，唐、蜀石經及各本並誤。」
秋官・司烜氏「掌以夫遂取明火於日，以鑒取明水於月，以共祭祀之明齍明燭共明水。」孫詒讓疏「云『掌以夫遂取明火於日，以鑒取明水於月』者，於，經例並當作于，石經及各本並誤。」
秋官・條狼氏「凡誓，執鞭以趨於前，……」孫詒讓疏「云『凡誓，執鞭以趨於前』者，於，經例當作于，唐石經及各本並誤。」
秋官・脩閭氏「禁徑踰者，與以兵革趨行者，與馳騁於國中者」孫詒讓疏「云『與馳騁於國中者』者，於，經

(6)攷・考

「考」は，阮元本『周禮』の經文では，考工記の「考」のほか，天官・宰夫[35]、冬官・匠人[36]に1例ずつ見えるのみであるのに對し，「攷」は30例あり[37]，また注が經を釋するときは必ず「考」に作る[38]。『説文』では，「攷」は「敏也」(「敏」は「擊也」)「考」は「老也」なので，段玉裁はしらべる、かんがえるなどの意は「攷」の引申義で，「考」は「攷」を借りてその義を表す

例當作于，唐、蜀石經及各本並誤。」

秋官・銜枚氏「禁謼乎歎嗚於國中者、行歌哭於國中之道者。」孫詒讓は二箇所の「於」をいずれも「于」に作り，「于，唐、蜀石經並誤於，今據宋附釋音本、嘉靖本正，下同。」という。

秋官・司儀「及其擯之，各以其禮。公於上等。侯伯於中等。子男於下等。」孫詒讓は三箇所の「於」をいずれも「于」に作る。

秋官・行夫「居於其國，則掌行人之勞辱事焉。使則介之。」孫詒讓疏「云『居於其國』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」

秋官・朝大夫「凡都家之治於國者，必因其朝大夫，然後聽之。」孫詒讓疏「『凡都家之治於國者，必因其朝大夫，然後聽之』者，於，經例當作于，石經及各本並誤。」

33　例えば，天官・獻人「凡獻者掌其政令，凡獻征入于玉府。」注「鄭司農云，漁征，漁者之租稅，漁人主收之入于玉府。」について，孫詒讓疏は「注鄭司農云，…，于，亦當作於。」

34　冬官總敍「戈柲六尺有六寸，既建而迤，崇於軫四尺，謂之二等。人長八尺，崇於戈四尺，謂之三等。殳長尋有四尺，崇於人四尺，謂之四等。車戟常，崇於殳四尺，謂之五等。酋矛常有四尺，崇於戟四尺，謂之六等。……凡察車之道，必自載於地者始也。……輪已庳，則於馬終古登阤也。」孫詒讓疏「云『戈柲六尺有六寸，既建而迤崇於軫四尺』者，……，於，前經五篇並用古字作于，此記上下篇並作於，疑經記字例本不同，鄭、賈各仍其舊，非傳寫之誤也。後不備校。」

冬官・輪人「輪雖敝，不甐於鑿。」、冬官・輈人「小於度，謂之無任。」

冬官・梓人「有力而不能走，則於任重宜。大聲而宏，則於鍾宜。……無力而輕，則於任輕宜。其聲清陽而遠聞，於磬宜。……深其爪，出其目，作其鱗之而，則於眡必撥爾而怒，苟撥爾而怒，則於任重宜。」

冬官・匠人「專達於川，各載其名。……欲爲淵，則句於矩。」

冬官・車人「自其庇緣其外，以至於首以弦其內，六尺有六寸，與步相中也。」

冬官・弓人「夫角之本，蹙於刀而休於氣。……夫角之末，遠於刀而不休於氣。……以爲弓，則豈異於其獸。……夫懷膠於內而摩其角。……於挺臂中有柎焉。故剽。……揉幹，欲孰於火而無贏。揉角，欲孰於火而無燂。……雖善於外，必動於內。……爲柎而發，必動於綱。」

35　天官・宰夫「掌治灋，以考百官府、羣都縣鄙之治，乘其財用之出入。」孫詒讓正義本は，「考」を「攷」に作る。

36　冬官・匠人「建國，水地以縣。置槷以縣，眡以景。爲規，識日出之景與日入之景。晝參諸日中之景，夜考之極星，以正朝夕。」

37　他の十二經に「攷」は見えない。

38　天官・大宰「乃施灋于官府，而建其正，立其貳，設其攷，陳其殷，置其輔。」注「考，成也，佐成事者，謂宰夫、鄉師、肆師、軍司馬、士師也。」孫詒讓「云『考，成也』者，爾雅釋詁文。説文攴部云，攷敏也，又老部云，考老也。凡訓考成、考課、考校者，皆攷敏引申之義，經典多借考爲之。此經皆作攷，注皆作考，亦經用古字，注用今字之例也。」

天官・小宰「令于百官府曰，各脩乃職，攷乃灋，待乃事，以聽王命。……」

天官・宰夫「旬終，則令正日成。而以攷其治。治不以時舉者，以告而誅之。」

天官・司會「以參互攷日成，以月要攷月成，以歲會攷歲成。」釈文「攷音考」

天官・司書「凡上之用財用，必攷于司會……凡邦治攷焉。」注「考其法於司書。」孫詒讓疏「注云『考其法於司書』者，經作攷，注作考，亦經用古字，注用今字也。」

天官・職歲「職歲掌邦之賦出，以貳官府都鄙之財，出賜之數，以待會計而攷之。」校勘記「唐石經諸本同，宋本攷作考，非。案經作攷用古字，注作考用今字。」

地官・小司徒「歲終，則攷其屬官之治成而誅賞。……及大比，六鄉四郊之吏，平教治，正政事，攷夫屋及其

と考える[39]。孫詒讓は前五篇については「經用古字，注用今字」の原則を通し，前五篇1例のみの「考」も「攷」に改めるが，「攷」は略例の「考工記字例，與五官又不盡同」の例[40]に擧げており，「經記字例之異」と見做してか，考工記の「考」については何もいわない。

(7)示・祇

『説文』によれば[41]，「地祇」、「神祇」の正字は「祇」で，「示」は本来しめすの意であり，「地示」「神示」の「示」は「祇」の假借である。『周禮』の經文に「祇」は見えず，19例の「示」[42]は，すべて本音の「神至切」ではなく，「祇」と同じ「巨支切」に讀むべきものである[43]。

衆寡六畜兵器，以待政令。」

地官・鄉師「大役，……既役，則受州里之役要，以攷司空之辟，以逆其役事。……歲終，則攷六鄉之治，以詔廢置。……若國大比，則攷教察辭，稽器展事，以詔誅賞。」注「考教，視賢能以知道藝與不。」孫詒讓疏「注云『考教，視賢能以知道藝與不』者，經作攷，注作考者，亦經用古字，注用今字也。」

地官・鄉大夫「正月之吉，受教灋于司徒，退而頒之于其鄉吏，使各以教其所治，以攷其德行，察其道藝。……三年則大比，攷其德行道藝，而興賢者能者。……正歲令羣吏攷灋于司徒，以退各憲之於其所治之國。」

地官・州長「正月之吉，各屬其州之民而讀灋，以攷其德行道藝而勸之，以糾其過惡而戒之。……三年大比，則大攷州里，以贊鄉大夫廢興。」

地官・縣師「三年大比，則以攷羣吏，而以詔廢置。」

地官・司諫「以攷鄉里之治，以詔廢置，以行赦宥。」注「因巡問勸強萬民，而考鄉里吏民罪過，以告王所當罪不。」孫詒讓疏「注云『因巡問勸強萬民，而考鄉里吏民罪過，以告王所當罪不』者，此亦注用今字作考也。」

地官・質人「掌稽市之書契，同其度量，壹其淳制，巡而攷之，犯禁者擧而罰之。」（参考）注「稽猶考也。」

春官・大史「凡辨灋者攷焉，不信者刑之。」釈文「攷音考。」「辨事者攷焉，不信者誅之。……凡喪事攷焉。」

春官・内史「執國灋及國令之貳，以攷政事，以逆會計。」

夏官・大司馬「大役與慮事，屬其植，受其要，以待攷而賞誅。」注「考謂考校其功。」校勘記「考謂考校其功，余本嘉靖本同，閩監毛本上考作攷，非。」孫詒讓疏「云『考謂考校其功』者，説文攴部云，……，引申爲考校。此經作攷，注作考者，亦經用古字，注用今字之例，詳大宰疏。」

夏官・諸子「凡國之政事，國子存遊倅，使之脩德學道。春合諸學，秋合諸射，以攷其藝而進退之。」

夏官・稾人「凡齎財與其出入皆在稾人，以待會而攷之。亡者闕之。」

夏官・職方氏「王將巡守，則戒于四方曰，各脩平乃守，攷乃職事，無敢不敬戒，國有大刑。」

39　三篇下攴部「攷，敏也。从攴丂聲。」段注「攷引申之義爲攷課。周禮多作攷。他經攷擊、攷課皆作考。假借也。攷敏疊韻」，「敏」下に「敏，擊也。从攴句聲。」八篇上老部「考，老也。从老省丂聲。」段注「凡言考校、考問字皆爲攷之假借也。」

40　『周禮正義』略例十二凡之八。

41　一篇上示部「示，天垂象，見吉凶，所以示人也。从二。三垂，日月星也。觀乎天文，以察時變示神事也。」，「祇，地祇提出萬物者也。从示氐聲。」

42　天官・大宰「祀大神示，亦如之。」注「大神祇謂天地。」釋文「神示，本又作祇，音畿。」孫詒讓疏「『祀大神示，亦如之』者，釋文云，……，案，説文示部云，……，此經皆借示爲祇，注皆作祇，亦經用古字，注用今字之例也。陸所見別本作祇，非經例，不足據。」

春官・大宗伯「掌建邦之天神、人鬼、地示之禮，以佐王建保邦國。」注「建，立也。立天神地祇人鬼之禮者，謂祀之祭之享之禮，吉禮是也。」釋文「地示，音祇，本或作祇。下神示、地示之例，皆放此。下卷亦然。」孫詒讓疏「『地示』者，釋文云，示，或本作祇，案説文，……，此經例用古字，通借示爲祇，注例則用今字作祇。」

春官・大宗伯「以吉禮事邦國之鬼神示。……凡祀大神、享大鬼、祭大示，帥執事而卜日，宿眡滌濯，涖玉鬯，省牲鑊，奉玉齍，詔大號，治其大禮，詔相王之大禮。」

春官・小宗伯「大裁及執事禱祠于上下神示。」注「鄭曰，『禱爾于上下神祇』。」

春官・大司樂「以六律、六同、五聲、八音、六舞大合樂，以致鬼神示，以和邦國，以諧萬民，……」注「以

孫詒讓は，「示」の初出箇所の大宰疏において，『説文』を引き，「示」が「祇」の假借であることと，『周禮』の經文は「祇」を「示」に作り，注は「祇」に作ることを指摘し，これも「經用古字，注用今字」の一例だというほか，經がの「示」を注が「祇」に作る箇所では，「經用古字，注用今字」の原則を繰り返し述べる[44]。

(8)眡・視

『説文』[45] に據れば，「眡」は「視」の古文で，『周禮』經文は，春官・大宗伯の「殷覜曰視」1例[46]を除いて，冬官も含め77例[47]すべて「眡」に作る[48]。孫詒讓は，「眡」初出箇所の大宰疏の

冬日至作之，致天神人鬼。以夏日至作之，致地祇物魃。」

同上「乃奏大蔟，歌應鍾，舞咸池，以祭地示。」注「地祇，所祭於北郊，謂神州之神及社稷。」孫詒讓疏「云『地祇，所祭於北郊，謂神州之神及社稷』者，此亦注用今字作祇也，下並同。」

同上「凡六樂者，一變而致羽物及川澤之示。再變而致蠃物及山林之示。三變而致鱗物及丘陵之示。四變而致毛物及墳衍之示。五變而致介物及土示。六變而致象物及天神。」注「地祇高下之甚者。……土祇，原隰及平地之神也。」孫詒讓疏「云『土祇，原隰及平地之神也』者，此亦注用今字作祇也。」

春官・大司樂「凡樂，圜鍾爲宮，……若樂六變，則天神皆降，可得而禮矣。凡樂函鍾爲宮，……若樂八變，則地示皆出，可得而禮矣。凡樂黃鍾爲宮，……若樂九變，則人鬼可得而禮矣。」注「天神則主北辰，地祇則主崐崘，人鬼則主后稷。」

春官・大祝「掌六祝之辭，以事鬼神示，祈福祥求永貞。……掌六祈，以同鬼神示。」注「天神、人鬼、地祇不和，則六癘作見，故以祈禮同之。」孫詒讓疏「云『天神、人鬼、地祇不和，則六癘作見，故以祈禮同之』者，此亦注用今字作祇也，下並同。」

春官・大祝「辨六號，……三曰示號。……」注「祇號，若云后土地祇。」釋文「示號，音祇，本又作祇。」孫詒讓疏「云『祇號，若云后土地祇』者，亦注用今字作祇也。」

春官・大祝「凡大禋祀、肆享、祭示，則執明水火而號祝。」注「故書祇爲祊，杜子春云，祊當爲祇。」『周禮漢讀考』巻三「案此字之誤也。杜改爲祇，又依全書之例作示。」孫詒讓疏「云『故書祇爲祊，杜子春云，祊當爲祇』者，段玉裁云，……，詒讓案，杜以禋祀爲天神，肆享爲人鬼，則不得獨遺地示，故破之。又案，杜意，祇祊字形相近故譌，然經例用古字作示，則與祊形仍遠。竊疑此經故書作『祭祊』，當與大司馬秋獮祀祊字同，祊即方之叚借字，……，於義亦自可通。鄭則以杜破祊爲祇，於文義尤明切，故從之也。」（『周禮』に見える「祊」は夏官・大司馬の1例のみ。「中秋，……，遂以獮田．如蒐田之灋，羅弊，致禽以祀祊。」）

春官・家宗人「凡以神仕者，掌三辰之灋，以猶鬼神示之居，辨其名物。」注「以此圖天神人鬼地祇之坐者，謂布祭衆寡與其居句。」孫詒讓疏「云『以此圖天神人鬼地祇之坐者，謂布祭衆寡與其居句』者，此亦注用今字作祇也，下同。」

春官・家宗人「以冬日至，致天神人鬼，以夏日至，致地示物魃，以禬國之凶荒、民之札喪。」注「陽氣升而祭鬼神，陰氣升而祭地祇。」

43　なお，他の十二經に「神示」など「巨支切」に讀む「示」は見えない。「神祇」は，『尚書』太甲上、微子、泰誓上，『毛詩』大雅・鳧鷖，『禮記』王制、月令，『論語』述而に見える。

44　注42参照。

45　八篇下見部「視，瞻也。从見示聲。……眡，亦古文視。」段注「眡見周禮。」

46　春官・大宗伯「時聘曰問，殷覜曰視。」孫詒讓疏「云『時聘曰問，殷覜曰視』者，經例凡視字並用古字作眡，唯此獨從今字作視，未詳其例。」

47　天官・大宰「及執事眡滌濯。……王眡治朝則贊聽治，眡四方之聽朝亦如之。」釋文「眡，音視，本又作視，後皆同。」孫詒讓疏「凡經皆作眡，注皆作視，亦經用古字，注用今字之例也。陸所見別本作視，非經例，不足據。」

天官・宰夫「以式灋掌祭祀之戒具與其薦羞，從大宰而眡滌濯。」

天官・內饔「辨腥臊羶香之不可食者。……豕盲眡而交睫，腥。……」注「杜子春云，盲眡當爲望視。」孫詒讓疏「杜子春云，『盲眡當爲望視』者，眡，注例用今字作視，述經亦然，此作眡，疑誤。」

天官・食醫「凡食眡齊春時，羹齊眡夏時，醬齊眡秋時，飲齊眡冬時。」
天官・疾醫「以五氣五聲五色眡其死生。」
地官・調人「凡和難，父之讎辟諸海外，兄弟之讎辟諸千里之外，從父兄弟之讎不同國。君之讎眡父，師長之讎眡兄弟，主友之讎眡從父兄弟。」
春官序官「眡祲中士二人，史二人，徒四人。」
春官・大宗伯「凡祀大神享大鬼祭大示，帥執事而卜日。宿，眡滌濯，涖玉鬯，省牲鑊，奉玉齍，詔大號，治其大禮，詔相王之大禮。」注「故書涖作立。鄭司農讀爲涖。涖，視也。」
春官・小宗伯「大祭祀省牲眡滌濯。祭之日逆齍省鑊，告時于王，告備于王。……及執事眡葬獻器，遂哭之。」注「省鑊，視亨腥孰。」
春官・肆師「凡祭祀之卜日宿爲期，詔相其禮。眡滌濯亦如之。」
春官・典命「公之孤四命，以皮帛眡小國之君。其卿三命，其大夫再命，其士一命。其宮室、車旗、衣服、禮儀，各眡其命之數。侯伯之卿大夫士亦如之。子男之卿再命，其大夫一命，其士不命。其宮室、車旗、衣服、禮儀，各眡其命之數。」注「視小國之君者，列於卿大夫之位，而禮如子男也。」孫詒讓疏「注云『視小國之君者，……』者，此亦注用今字作視也。」
春官・司服「眡朝則皮弁服。」注「視朝，視內外朝之事。」孫詒讓疏「注云『視朝，視內外朝之事』者，亦注用今字作視也。」
春官・外宗「掌宗廟之祭祀，佐王后薦玉豆眡豆籩。」注「視，視其實。」孫詒讓疏「注云『視，視其實』者，此亦注用今字作視也。」
春官・眡瞭「眡瞭掌凡樂事播鼗擊頌磬笙磬。」注「視瞭播鼗又擊磬。」孫詒讓疏「注云『視瞭播鼗又擊磬』者，此亦注用今字作視也。」
春官・大卜「凡國大貞卜立君、卜大封則眡高作龜。大祭祀則眡高命龜。」注「視高，以龜骨高者可灼處示宗伯也。」孫詒讓疏「注云『視高，以龜骨高者可灼處示宗伯也』者，注例用今字，故作視也。」
春官・卜師「凡卜事眡高。」
春官・占人「掌占龜，以八簭占八頌，以八卦占簭之八故，以眡吉凶。」
春官・眡祲「眡祲掌十輝之灋，以觀妖祥，辨吉凶。」
夏官・大司馬「及戰巡陳，眡事而賞罰。」
夏官・司勳「凡賞無常，輕重眡功。」
夏官・大僕「王眡朝則前正位而退，入亦如之。……王眡燕朝則正位，掌擯相。王不眡朝則辭於三公及孤卿。」注「辭謂以王不視朝之意告之。」孫詒讓疏「注云『辭謂以王不視朝之意告之』者，此亦注例用今字作視也。」
夏官・祭僕「掌受命于王以眡祭祀，而警戒祭祀有司，糾百官之戒具。」
秋官・大行人「凡大國之孤，執皮帛以繼小國之君。出入三積。……其他皆眡小國之君。」
秋官・小行人「及郊勞，眡館，將幣，爲承而擯。」注「眡館，致館也。」
秋官・掌客「王巡守殷國，則國君膳以牲犢。令百官百牲皆具。從者、三公眡上公之禮。卿眡侯伯之禮。大夫眡子男之禮。士眡諸侯之卿禮。庶子壹眡其大夫之禮。……凡諸侯之禮，上公五積，皆眡飧牽。……牽四牢，米百有二十筥，醯醢百有二十罋，車皆陳。車米眡生牢。牢十車，車乘有五籔，車禾眡死牢。……侯伯四積，皆眡飧牽。……子男三積，皆眡飧牽。……夫人致禮，六壺、六豆、六籩，膳眡致饗。」
冬官・輪人「爲輪。……望而眡其輪，欲其幎爾而下迆也。進而眡之，欲其微至也。無所取之，取諸圜也。望其輻，欲其掔爾而纖也。進而眡之，欲其肉稱也。無所取之，取諸易直也。望其轂，欲其眼也。進而眡之，欲其幬之廉也。無所取之，取諸急也。眡其綆，欲其蚤之正也。……凡揉牙，外不廉而內不挫，旁不腫，謂之用火之善。是故，規之以眡其圜也。萬之，以眡其匡也。縣之，以眡其輻之直也。水之，以眡其平沈之均也。量其藪以黍，以眡其同也。權之，以眡其輕重之侔也。故可規可萬可水可縣可量可權也，謂之國工。」
冬官・函人「凡察革之道，眡其鑽空，欲其愆也。眡其裏，欲其易也。眡其朕，欲其直也。橐之，欲其約也。舉而眡之，欲其豐也。衣之，欲其無齵也。眡其鑽空而愆，則革堅也。眡其裏而易，則材更也。眡其朕而直，則制善也。…」
冬官・鮑人「望而眡之，欲其荼白也。」注「韋革遠視之，當如茅莠之色。」孫詒讓疏「注云『韋革遠視之，當如茅莠之色』者，此亦注用今字作視也。」
同上「眡其著，欲其淺也。……眡其著而淺，則革信也。」
冬官・矢人「是故，夾而搖之，以眡其豐殺之節也。橈之，以眡其鴻殺之稱也。」
冬官・梓人「深其爪，出其目，作其鱗之而，則於眡必撥爾而怒。」

ほか，經の「眡」を注が「視」に作る箇所ではやはり「經用古字，注用今字」の例であると指摘するが，「殷覜を『視』と曰う」の經文唯一の「視」については，單にみるという意味でないためか，「未詳其例」として，是非の判断を保留する。[49]

(9)政・征

「政」は，『周禮』に136例見えるが，「征」に通用するのは「賦也」「税也」などと訓じられる「政」[50] のみで，「政令」(68例)、「政事」(８例)、「政教」(４例)、「政治」(3例)、「政典」(天

冬官・廬人「凡試廬事，置而搖之，以眡其蜎也。灸諸牆，以眡其橈之均也。横而搖之，以眡其勁也。」
冬官・匠人「置槷以縣，眡以景。」注「玄謂，槷，古文臬，假借字。於所平之地中央，樹八尺之臬，以縣正之，眡之以其景，將以正四方也。」孫詒讓疏「云『眡之以其景，將以正四方也』者，眡，詩鄘風定之方中孔疏引作視，是也。凡經作眡，注例用今字作視，各本並誤，詳大宰疏。」(『毛詩』鄘風・定之方中「揆之以日，作于楚室」傳「揆，度也。度日出日入，以知東西，南視定北，準極以正南北。」孔疏「匠人云，水地以縣置槷以縣，視以影，……注云，……，以縣正之，視之以其影，將以正四方也。」)

48　『儀禮』に1例「眡」が見えるが，40例は「視」に作り，『儀禮』以外の十一經は「視」のみ。

49　原文は注47参照。

50　天官・小宰「以官府之八成經邦治。一曰聽政役，以比居。……」注「注鄭司農云，政謂軍政也。役謂發兵起徒役也。比居謂伍籍也。……玄謂，政謂賦也。凡其字或作政，或作正，或作征。以多言之，宜從征。如孟子（梁恵王上）交征利云。」釋文「政役，鄭音征，司農如字。」孫詒讓疏「云『玄謂，政謂賦也』者，孟子盡心篇趙注云，『征，賦也』。廣雅釋詁云，『征、賦，税也。謂若大宰「九賦」之等』。云『凡其字或作政，或作正，或作征』者，謂政正征聲類同，經文三字錯出，皆謂賦也。或作政者，謂此經及遂人云『以起政役』，又若小司徒之『平其政』，均人之『地政』、『力政』，遂人之『平政』，羽人之『羽翮之政』，都司馬之『政學』是也。或作正者，若司書之『九正』，司門之『正其貨賄』，司勳之『無國正』，諸子之『司馬弗正』是也。或作征者，小司徒云『凡征役之施舍』，又旅師云『使無征役』，又若敺人之『敺征』，大司徒之『地征』、『薄征』等，經文常見，不復詳舉。云『以多言之，宜從征』者，以征賦無正字，故於三者之中，據其多者從之。此後鄭自著其發疑正讀之例也。」
地官・大司徒「以土均之灋，辨五物九等，制天下之地征，以作民職，以令地貢，以斂財賦，以均齊天下之政，……」
地官・小司徒「凡税斂之事，乃分地域，而辨其守，施其職而平其政。」注「政，税也。政當作征。」釋文「其政，依注音征。」孫詒讓疏「云『政，税也』者，與均人之『地政』、土均『土地之政』義同。大司徒作『地征』，彼注云，『征，税也』。云『政當作征』者，謂征税之字，不當作政教之政也。均人、土均諸職『地政』字，注並讀爲征。凡此經征政字多通用，詳小宰疏。」
地官・閭胥「凡春秋之祭祀、役政、喪紀之數，聚衆庶。」注「杜子春讀政爲征。」釋文「政役，如字，杜音征。」阮元「注先釋役，後釋政，釋文蓋誤倒。」孫詒讓疏「云『杜子春讀政爲征，……』者，皆依聲類破字。鄭讀政如字，不從杜。……政讀爲征，均人注義同，互詳小宰疏。」
地官・均人「掌均地政，均地守，均地職，均人民牛馬車輦之力政。凡均力政，以歲上下，豐年則公旬用三日焉。中年則公旬用二日焉。無年則公旬用一日焉。凶札則無力政，無財賦，不收地守地職，不均地政。」注「政讀爲征，地征謂地守地職之税也。地守衡虞之屬，地職農圃之屬。力征，人民則治城郭涂巷溝渠，牛馬車輦則轉委積之屬。……無力政，恤其勞也。」釋文「地政，音征，出注，下同。」
孫詒讓疏「注云『政讀爲征』者，土均注同。此據大司徒土均之法云地征，故讀從之。凡此職地政、力政，政並讀爲征，即小宰注所云『征字或作政』者也。」
地官・遂人「各掌其政令刑禁，以歲時稽其人民，而授之田野，……任甿以土均平政。」注「政讀爲征。」孫詒讓疏「云『政讀爲征』者，詳小宰疏。」
地官・遂人「以起政役。」注「政役，出士徒役。」釋文「政役，音征，注同。」孫詒讓疏「云『政役，出士徒役』者，政亦當讀爲征，與小司徒之『征役』及均人『力政』義同。」
地官・土均「掌平土地之政，以均地守，以均地事，以均地貢。」注「政讀爲征，所平之税，邦國都鄙也。」釋

官・大宰)、「内政」(天官・女史)など『周禮』に多く見られる「まつりごと」の「政」は今字でも「征」に置き換えられるわけではない。また，經文でも，鄭玄が小宰注で指摘するように，賦税の意味では「正」に作られる[51]こともあるが，「征」に作られることが最も多く，『周禮』の「征」(18例)は春官・大卜の例[52]が「征伐」の「征」であることを除けば，すべて賦税の「征」である[53](17例)。なお，『説文』[54]に據れば，「政」「正」「征」は，いずれも賦税の意

文「之政，音征，出注。」孫詒讓疏「云『政讀爲征』者，均人『掌均地政』，注亦云『政讀爲征』。地征謂地守地職之税也。詳小宰疏。」

地官・迹人「掌邦田之地政。」孫詒讓疏「云『掌邦田之地政』者，掌公私田獵之地之政令也。與均人『地政』，政爲征之借字異。」

夏官・都司馬「以國灋掌其政學，以聽國司馬。」注「政謂賦税也。」釋文「其正，音征，本亦作政，音下同。」孫詒讓疏「『以國灋掌其政學』者，釋文『政』作『正』，云『本亦作政』。案，政正字通。……注云『政謂賦税也』者，亦讀政爲征也。小宰注云，……又大司徒注云，……。」

51　天官・司書「掌邦之六典、八灋、八則、九職、九正、九事邦中之版，土地之圖，以周知入出百物，以敘其財，受其幣，使入于職幣。」注「九正謂九賦九貢。正，税也。」釋文「九正，音征，注同。」

孫詒讓疏「云『正，税也』者，讀正爲征也。釋文云，……，案陸音是也。司勳先鄭注云，……，司門注云，……，此不著其讀者，文略，與司勳注例同。九賦爲地税，故掌交謂之九税，征税義同。九貢雖出於邦國，亦征於民而共其物，故亦通謂之正。正征字通，詳小宰疏。……」

地官・司門「幾出入不物者正其貨賄凡財物犯禁者舉之」注「正讀爲征。征，税也。」釋文「正其，音征。」孫詒讓疏「云『正讀爲征』者，正征聲類同，詳小宰疏。……云『征，税也』者，大司徒注同。」

夏官・司勳「惟加田無國正」注「鄭司農云正謂税也」釋文「國正，音征，注同，本亦作征。」孫詒讓疏「『惟加田無國正』者，釋文云，……，案正征字通，詳小宰疏。……鄭司農云『正謂税也』者，司書注義同，亦讀正爲征也。司門注云，……，此不云『讀爲征』者，文略。」

夏官・諸子「國有大事，則帥國子而致於大子，惟所用之。……司馬弗正。」注「國子屬大子，司馬雖有軍事，不賦之。」釋文「弗正，音征，下國正同。」孫詒讓疏「云『司馬雖有軍事，不賦之』者，……，此讀正爲征也。凡此經征字，或作正，詳小宰疏。……」

52　「以邦事作龜之八命，一曰征，二曰象，三曰與，四曰謀，五曰果，六曰至，七曰雨，八曰瘳，」注「鄭司農云，征謂征伐人也。」

53　天官・敵人「凡敵征入于玉府」注「鄭司農云，漁征，漁者之租税，漁人主收之，入于玉府。」

地官・大司徒「制天下之地征，以作民職。」注「征，税也」

地官・大司徒「以荒政十有二，聚萬民，一曰散利，二曰薄征，三曰緩刑，……大荒，大札，則令邦國移民通財，舍禁，弛力，薄征，緩刑。」注「薄征，輕租税也。」

地官・小司徒「凡征役之施舍，與其祭祀飲食喪紀之禁令，乃頒比灋于六鄉之大夫，……」

地官・鄉大夫「國中自七尺以及六十，野自六尺以及六十有五，皆征之，」注「鄭司農云，征之者，給公上事也。」

地官・載師「凡任地，國宅無征，……甸稍縣都，皆無過十二，唯其漆林之征，二十而五，」注「征，税也。言征者以共國政也。鄭司農云，……無征，無税也。」

地官・載師「凡民無職事者，出夫家之征。」

地官・司市「國凶荒札喪，則市無征而作布。」注「有災害，物貴，市不税，爲民乏困也。」

地官・泉府「掌以市之征布，斂市之不售，貨之滯於民用者。」

(地官・司門「幾出入不物者，正其貨賄凡財物，犯禁者舉之。」注「正讀爲征，征税也。」釋文「正，其音征」)賈疏「云『正讀爲征，征税也』者，下文云，『國凶札無關門之征』，明無凶札之時有征税，故讀從征税之字也。」孫詒讓疏「云『正讀爲征』者，正征聲類同，詳小宰疏。鄭知此正當爲征者，以司關云『司貨賄之出入者，掌其治禁與其征廛』，門關職事略同，明此正即征字，……。云『征税也』者，大司徒注同。……」

地官・司關「司貨賄之出入者，掌其治禁與其征廛。」注「征廛者，貨賄之税與所止邸舍也。」

地官・司關「國凶札，則無關門之征，猶幾。」

地官・遂師「經牧其田野辨其可食者，周知其數而任之，以徵財征。」注「財征，賦税之事。」

味の正字ではないが，「征」については『廣雅』釋詁に「税也」という訓詁がある。孫詒讓は，經文では「政」「正」「征」の三字が賦税の意味で通用することは認めるが，賦税の意味の「政」「正」が注文で「征」に読み替えられたり，釋文に「音征」などとすることから，「政」「征」を古今字とする。言い換えれば，古字では「政」「正」「征」が通用したのに對し，今字では「征」に統一されたということである。

(10)敍・序

『説文』では「敍」は「次第也」、「序」は「東西牆也」なので，段玉裁のいうように「次序」の「序」は「敍」の假借ということになる[55]。『周禮』經文の「序」(19例) は，地官の2例[56]を除いた17例[57]は，すべて「敍」の假借であり，「敍」の37例[58]に數では及ばないものの用いられ

地官・旅師「凡新甿之治皆聽之，使無征役，以地之媺惡爲之等。」
地官・掌葛「掌以時徵絺綌之材于山農，凡葛征徵草貢之材于澤農，以當邦賦之政令。」
秋官・職金「掌凡金玉錫石丹青之戒令，受其入征者，辨其物之媺惡，與其數量，楬而璽之，」注「鄭司農云，受其入征者，謂主受采金玉錫石丹青者之租税也。」

54　三篇下攴部「政，正也。从攴正，正亦聲。」
二篇下「正，是也。从一，一以止。」
二篇下辵部「证，正行也。……征，延或从彳。」

55　三篇下攴部「敍，次第也。从攴余聲。」段注「古或假序爲之。」九篇下广部「序，東西牆也。从广予聲。」段注「經典多假序爲敍，周禮、儀禮序字多釋爲次弟是也。」

56　州長「春秋以禮會民，而射于州序。」注「序，州黨之學也。」
黨正「國索鬼神而祭祀，則以禮屬民而飲酒于序，以正齒位。」

57　春官・小宗伯「掌四時祭祀之序事與其禮。」注「序事，卜日省牲視滌濯饔爨之事，次序之時。」孫詒讓疏「云『掌四時祭祀之序事』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤，詳小宰疏。」
春官・肆師「以歲時序其祭祀及其祈珥。」注「序，第次其先後大小。」孫詒讓疏「云『以歲時序其祭祀』者，序，當作敍，石經及各本並誤。注云，『序，第次其先後大小』者，説文攴部云，……，序即敍之借字。經例用古字作敍，注例用今字作序，此經仍作序，疑後人以注改之，非其舊也。詳小宰疏。」
春官・肆師「大喪、大涸，……令外内命婦序哭。」注「序，使相次秩。」孫詒讓疏「云『令外内命婦序哭』者，序，經例當作敍，詳前疏。……注云『序，使相次秩』者，序亦敍之借字，詳前疏。」
春官・司服「大喪共其復衣服、斂衣服、奠衣服、廞衣服，皆掌其陳序。」孫詒讓疏「云『皆掌其陳序』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤，詳小宰疏。」
春官・内宗「大喪序哭者。」注「外内宗及命婦之哭王。」孫詒讓疏「序哭，序當作敍，石經及各本並誤。凡經例用古字作敍，注例用今字作序，此經作序者，後人以注改之。九嬪云，『大喪帥敍哭者』，外宗云，『大喪則敍外内朝莫哭者』，字並作敍可證。敍序古今字，詳小宰疏。」
春官・職喪「掌諸侯之喪及卿大夫士凡有爵者之喪。以國之喪禮涖其禁令，序其事。」孫詒讓疏「云『序其事』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤，詳小宰疏。」
春官・大司樂「乃分樂而序之，以祭以享以祀。」孫詒讓疏「云『乃分樂而序之』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤，詳小宰疏。」
春官・樂師「凡樂掌其序事，治其樂政。」注「序事，次序用樂之事。」孫詒讓疏「云『凡樂掌其序事』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤。」
春官・樂師「饗食諸侯，序其樂事，令奏鍾鼓，令相，如祭之儀。」孫詒讓疏「云『饗食諸侯，序其樂事』者，序，亦當作敍，石經及各本並誤。」
春官・樂師「凡喪陳樂器則帥樂官，及序哭亦如之。」孫詒讓疏「云『及序哭』者，序，亦當爲敍，九嬪、外宗經可證。石經及各本並誤。」

春官・大胥「以序出入舞者。……序宮中之事。」孫詒讓疏「云『以序出入舞者』者，序，經例當作敍，石經及各本並誤。……云『序宮中之事』者，序，亦當作敍。」
春官・大史「正歲年以序事，頒之于官府及都鄙。」注「定四時，以次序授民時之事。」孫詒讓疏「云『正歲年以序事』者，序，經例用古字當作敍，馮相氏、内史二職『敍事』，字並作敍可證。此作序者，後人誤以注改經，石經及各本並誤，詳小宰疏。」
春官・保章氏「凡此五物者，以詔救政，訪序事。」注「次序其事。」阮元校勘記「訪序事，唐石經、諸本同。按序當作敍。」孫詒讓疏「云『訪序事』者，阮元云，序當作敍，案，詳大史疏。」
夏官・挈壺氏「凡軍事，縣壺以序聚欜。」注「鄭司農云，……以序聚瞰，以次更聚，擊瞰備守也。」孫詒讓疏「云『凡軍事，縣壺以序聚欜』者，序，經例用古字當作敍，石經及各本並誤。」
夏官・御僕「以序守路鼓。」注「序，更。」孫詒讓疏「云『以序守路鼓』者，序，經例用古字當作敍，石經及各本並誤。」
冬官・鮑人「卷而搏之而不迤，則厚薄序也。」注「序，舒也，謂其革均也。」孫詒讓疏「云『則厚薄序也』者，序，前經例用古字並作敍，此作序，疑經記字例之異。」
58　天官・小宰「以官府之六敍正羣吏，一曰以敍正其位。二曰以敍進其治。三曰以敍作其事。四曰以敍制其食。五曰以敍受其會。六曰以敍聽其情。」注「敍，秩次也，謂先尊後卑也。」孫詒讓疏「注云『敍，秩次也，謂先尊後卑也』者，說文支部云，『敍，次第也』。秩次與次弟義同。經典多叚『東西牆』之序爲之。此經例用古字作敍，注例今字作序，雖述經文亦然。此注仍作敍，疑後人不知注例，依經文改之。」
天官・宰夫「敍羣吏之治，以待賓客之令、諸臣之復、萬民之逆。」
天官・宰夫「掌百官府之徵令，辨其八職，一曰正，掌官灋以治要。……七曰胥，掌官敍以治敍。……」注「治敍，次序官中，如今侍曹伍伯傳吏朝也。」孫詒讓「云『治敍，次序官中』者，敍，疑亦當作序，凡注例用今字，雖複述經文，亦不用古字，詳小宰疏。」
天官・宮伯「掌王宮之士庶子，凡在版者。掌其政令，行其秩敍，作其徒役之事。……月終則均秩，歲終則均敍。」注「秩，祿稟也。敍，才等也。」孫詒讓疏「云『敍，才等也』者，敍，注例當作序，詳小宰疏。」
天官・司書「掌邦之六典、八灋、八則、九職、九正、九事、邦中之版、土地之圖，以周知入出百物，以敍其財，受其幣，使人于職幣。」注「敍猶比次也，謂鉤考其財幣所給及其餘見爲之簿書。」孫詒讓疏「云『敍猶比次也』者，敍，注例當作序，詳小宰疏。說文云，……，敍，本爲事有次弟之義，引申之，凡比例次弟亦謂之敍，故云，『猶比次也』。」
天官・職内「及會以逆職歲與官府財用之出，而敍其財，以待邦之移用。」
天官・職歲「凡上之賜予，以敍與職幣授之。」注「敍，受賜者之尊卑。」孫詒讓疏「云『敍，受賜者之尊卑』者，敍，注例當作序，此與小宰『六敍』義同。」
天官・内宰「凡建國，佐后立市。設其次置其敍，正其肆陳其貨賄出其度量淳制，祭之以陰禮。」注「敍，介次也。」
天官・九嬪「掌婦學之灋，以教九御婦德、婦言、婦容、婦功，各帥其屬，而以時御敍于王所。」注「教各帥其屬者，使亦九九相與從於王所息之燕寢。御猶進也，勸也。進勸王息亦相次敍。」孫詒讓疏「云『亦相次敍』者，敍，注例當作序，此作敍者，蓋後人依經改，後『敍哭』注亦云次序可證，詳小宰疏。」
天官・九嬪「若有賓客則從后。大喪帥敍哭者亦如之。」注「后哭，衆之次敍者乃哭。」校勘記「衆之次敍者乃哭，宋本余本岳本同，嘉靖本作衆之次序者乃哭，經作敍，注作序，須人易曉是也。閩監毛本衆之誤倒作之衆。」孫詒讓疏「云『后哭，衆之次敍者乃哭』者，亦注用今字作序也。」
天官・女御「掌御敍于王之燕寢。」注「言掌御敍，防上之專妬者。」孫詒讓疏「云『言掌御敍，防上之專妬者』者，敍，注例當作序，各本並誤。」
地官・鄉師「凡邦事，令作秩敍。」注「秩，常也。敍，猶次也。」孫詒讓疏「云『敍，猶次也』者，說文支部云，…。」
地官・司市「掌市之治、教、政、刑、量度、禁令。以次敍分地而經市。」注「敍，肆行列也。」孫詒讓疏「云『敍，肆行列也』者，……，說文支部云，……。」
地官・司市「凡萬民之期于市者、辟布者、量度者、刑戮者，各於其地之敍。」
地官・遂師「軍旅田獵平野民，掌其禁令，比敍其事而賞罰。」
地官・里宰「以歲時合耦于耡，以治稼穡趨其耕耨，行其秩敍，以待有司之政令而徵斂其財賦。」注「玄謂，……秩敍，受耦相佐助之次第。」孫詒讓疏「云『秩敍，受耦相佐助之次第』者，秩敍即次第也，……」
春官・外宗「大喪則敍外内朝莫哭者。」

ないわけではなく，また注にも「序」だけでなく，「敍」が散見するので，經注ともに「次第也」の「敍」「序」が通用していることになる。しかし，阮元も春官・保章氏の校勘記で「按序當作敍」というように，「經用古字，注用今字」の原則に合わせるためには，經は「敍」、注は「序」に作るべきだと考えており，[59] 孫詒讓はその考えをさらに極端に押し進め，經文が「序」に作る箇所はすべて「當作敍」，注が「敍」に作る箇所はすべて「當作序」としている。[60] ただし，「敍」は略例の「考工記字例，與五官又不盡同」の例にも擧げられており，冬官經文の「序」については誤りとしない。

(11)袤・邪

「邪」は「琅邪」の「邪」の本字で，「邪悪」「奇邪」などの「邪」は「袤」の假借である[61]。が，段玉裁も「邪，古書用爲袤正字」というように，『周禮』以外の十二經に「袤」は見えず，「邪」が用いられる。『周禮』の「邪」は１例のみで孫詒讓も「與五官不盡同」とする冬官に見

春官・眡祲「掌十輝之灋，以觀妖祥辨吉凶。一曰祲，二曰象，三曰鐫，四曰監，五曰闇，六曰瞢，七曰彌，八曰敍，九曰隮，十曰想。」注「敍者雲有次序也，如山在日上也。」孫詒讓疏「云『敍者雲有次序也，如山在日上也』者，敍序古今字，敍者之敍，疑亦當作序。」

春官・眡祲「掌安宅敍降，正歲則行事，歲終則弊其事。」注「次序其凶禍所下，謂禳移之。」孫詒讓疏「云『次序其凶禍所下，謂禳移之』者，此亦注用今字作序也。」

春官・詛祝「作盟詛之載辭，以敍國之信用，以質邦國之劑信。」

春官・小史「大祭祀，讀禮灋。史以書敍昭穆之俎簋。」注「言讀定（有校勘記）灋者，小史敍俎簋以爲節。…鄭司農云，…祭祀，史主敍其昭穆，次其俎簋。」孫詒讓疏「云『言讀禮法者，小史敍俎簋以爲節』者，敍，注例今字當作序，下同，各本並同，詳小宰疏。」

春官・馮相氏「掌十有二歲、十有二月、十有二辰、十日、二十有八星之位，辨其敍事，以會天位。」注「辨其敍事謂若仲春辯秩東作，仲夏辯秩南譌，仲秋辯秩西成，仲冬辯在朔易。」孫詒讓は注の「敍」を「序」に作り，「云『辨其序事謂若仲春辯秩東作，……』者，序，舊本作敍，今據明監本正。凡注例用今字作序，詳小宰疏。」

春官・馮相氏「冬夏致日，春秋致月，以辨四時之敍。」注「春秋冬夏氣皆至，則是四時之敍正矣。」孫詒讓疏「云『春秋冬夏氣皆至，則是四時之敍正矣』者，敍，亦當作序。」

春官・内史「掌敍事之灋，受納訪，以詔王聽治。」注「敍，六敍也。…六敍，六曰以敍聽其情。」孫詒讓疏「云『敍，六敍也』者，……，敍，注例今字當作序，此注今本並作敍，疑誤，詳小宰疏。」

春官・巾車「掌公車之政令，辨其用與其旗物而等敍之，以治其出入。」注「等敍之，以封同姓異姓之次敍。」孫詒讓は「次敍」の「敍」を「序」に作り，「次序，序舊本作敍，今據余本及明注疏本正。凡經例用古字作敍，注例用今字作序，疑此注等敍之敍，亦當作序，詳小宰疏。」

夏官・大司馬「遂以狩田。以旌爲左右和之門。羣吏各帥其車徒，以敍和出。……」注「敍和出，用次第出和門也。」孫詒讓疏「云『敍和出，用次第出和門也』者，敍，注例今字當作序，各本並誤。說文攴部云，……。」

秋官・小司寇「小司寇擯以敍進而問焉。」注「敍，更也。」孫詒讓疏「云『敍，更也』者，經例用古字作敍，注用今字當作序，此疑後人誤以經改注也。說文攴部云，……」

秋官・野廬氏「凡道路之舟車擊互者，敍而行之。」注「車有轘轅坻閣，舟有砥柱之屬，其過之者，使以次敍之。」孫詒讓は注の「敍」を「序」に作り「云『其過之者，使以次序之』者，序，舊本並誤敍，今據蜀石經正。凡注例用今字作序。」

59　保章氏校勘記。原文は注57参照。

60　注57、58参照。

61　『說文』六篇下邑部「邪，郡也。从邑牙聲。」段注「邪，古書用爲袤正字，……」
八篇上衣部「袤，戈也。从衣牙聲。」段注「袤今字作邪。」

える[62]。その他5例はすべて「袤」に作られ[63]，經のみならず注も「袤」に作るが，孫詒讓はあくまでも「經用古字，注用今字」の原則に拘り，注の「袤」については，テキストを「邪」に改めるか，改めないまでも誤りと見做して「當作邪」とする。[64]

(12)栽・災

「栽」は，『説文』[65] では「天火」と釋されるが，段玉裁が「引申爲凡害之偁」[66] というように，經典では災害の類すべてを指して用いられる。「災」は「栽」の籀文の略體[67]である。他經にも「栽」は見えるが，『周禮』經文には「災」は見えず「栽」のみ16[68]見える。注も經文の

62　弓人「析角無邪。」釋文「邪，似嗟反。」

63　天官・宮正　「去其淫怠，與其奇袤之民。」注「奇袤，譎觚非常。」釋文「袤，似嗟反，亦作邪。」孫詒讓疏「『去其淫怠，與其奇袤之民』者，釋文云，……，案説文……，此經例用古字作袤，注例用今字，多借邪爲之。詳司諫（「司救」の誤りか）疏。……云『奇袤，譎觚非常』者，黄丕烈校改邪。……至此經奇袤文凡三見，而注悉小異。内宰『禁其奇袤』，注云『奇袤，若今媚道』。比長　『有辠奇袤相及』，注云『袤猶悪也』。蓋鄭君隨文立訓，總其大要，義並通也。又司救『掌萬民之袤惡過失而誅讓之』注云『袤惡，謂侮慢長老，語言無忌，而未麗於罪者』。奇袤、袤惡，義亦相近。」

天官・内宰　「以婦職之灋教九御，使各有屬以作二事。正其服禁其奇袤展其功緒。」注「奇袤，若今媚道。」釋文「袤，似嗟反，本亦作邪。」孫詒讓は注の「袤」を「邪」に作り，「云『禁其奇袤』者，釋文云，……。案，經例用古字作袤，注例用今字作邪，或本非是，詳宮正、司諫（「司救」の誤りか）疏。」

地官・比長　「各掌其比之治，五家相受相和親，有辠奇袤相及。」注「袤猶悪也。」經典釋文「袤，似嗟反」孫詒讓疏「注云『袤猶悪也』者，袤，注例用今字當作邪，各本並誤。」

地官・司救　「掌萬民之袤惡過失而誅讓之，以禮防禁而救之。凡民之有袤惡者，三讓而罰。」注「袤惡謂侮慢長老，語言無忌，而未麗於罪者。」經典釋文「之袤，似嗟反，注作邪同。」孫詒讓は注の「袤」を「邪」に作り，「注云『邪悪……』，邪，宋本及舊注疏本並作袤。今從嘉靖本正，下並同。阮元云，『釋文……，此經作古袤字，注作今邪字之明證。今本皆依經改作袤矣。下同。』案，阮説是也。此亦經用古字，注例用今字之例，大司寇注亦並作「邪悪」可證，互詳宮正疏。」という。

64　注63参照。

65　『説文』十篇上火部「栽，天火曰栽。从火𢦏聲。災，籀文从巛。」

66　『説文』「栽」字注。

67　『説文』「栽」の説解。注65参照。

68　天官・膳夫「大喪則不舉。大荒則不舉。大札則不舉。天地有栽則不舉。邦有大故則不舉。」注「天栽，日月晦食。」孫詒讓疏「云『天栽，日月晦食』者，説文火部云「栽，天火曰栽。重文灾，或从宀火。災，籀文从巛。此經例作栽，注例作災，亦或作灾。蓋漢時通用災字，亦注從今字之例也。此注各本並作栽，疑後人依經改之。……」

天官・甸師「喪事代王受眚栽。」注「既殯，大祝作禱辭授甸人，使以禱藉田之神，受眚栽弭後殃。」孫詒讓疏「云『受眚栽，弭後殃』者，栽，注例用今字，當作災，大祝注可證。今本並作栽，疑後人誤依經改。」

春官・大宗伯「以弔禮哀禍栽。」注「禍栽謂遭水火。」孫詒讓疏「注云『禍栽謂遭水火』者，小行人注義同。栽，注例亦當作災，宮正注可證。」（「宮正注」とは，天官・宮正「國有故，則令宿其比亦如之」の注だが，阮元本は「鄭司農云，故謂禍栽。」校勘記に「禍栽，諸本栽作災，此蓋俗省，疏中栽災錯出，此本補刻多不足據。」）

春官・小宗伯「大栽，及執事禱祠于上下神示。……國有禍栽，則亦如之。……凡天地之大栽，類社稷宗廟則爲位。」

春官・司服「大札、大荒、大栽，素服。」注「大栽，水火爲害。」

春官・大司樂「凡日月食、四鎮五嶽崩、大傀異栽、諸侯薨，令去樂。」

春官・大司樂「大札、大凶、大栽、大臣死，凡國之大憂，令弛縣。」注「栽，水火也。」

春官・大祝「國有大故天栽，彌祀社稷禱祠。」注「天栽，疫癘水旱也。」

「栽」を引く箇所ではやはり「栽」に作るが，経文に「栽」がなく「注」にのみ見える箇所では「災」に作る[69]。孫詒讓は注の「栽」について経文の引用であるか否かに關らず，すべて「災」に作るべきだとする。

(13)鱻・鮮

「鱻」「鮮」ともに『説文』の魚部[70]に見え，「鱻」は「新魚精也」、「鮮」は「鮮魚也」である。「鮮」は魚名である。「新魚精」の「精」は段注によれば，『廣韻』下平十三耕・征（諸盈切）に「煮魚煎食曰五侯鯖」と釋される「鯖」で，「新魚精」は新魚で肴を作るもので，義の引申により新しいもの全般を指すようになったという。「新魚精」のままでも新鮮の意に讀むこともできると思われるが，いずれにしろ，新鮮の意では「鱻」が正字で，「鮮」は假借字である。しかし，「鮮」字段注も指摘するように，經典では古くから，「尠」「鱻」の意味では，假借字の「鮮」に作られることが殆どで，『爾雅』にも「鱻」は見えず，「鮮」については經典に常見する「罕也」「寡也」（釋詁下）のほかに，「善也」（釋詁上）という訓がみえる。阮元本十三經注疏でも，『周禮』以外の十二經には「鱻」は見えない[71]。しかし，『周禮』經文には逆

春官・小祝「小祝掌小祭祀將事，侯、禳、禱、祠之祝號，以祈福祥，順豐年，逆時雨，寧風旱，彌栽疾，遠臯疾。」
春官・司巫「國有大栽，則帥巫而造巫恒。」
春官・女巫「凡邦之大栽，歌哭而請。」
秋官・大行人「間問以諭諸侯之志，歸脤以交諸侯之福，賀慶以贊諸侯之喜，致禬以補諸侯之栽。」注「補諸侯栽者，若春秋澶淵之會謀歸宋財。」
秋官・小行人「若國有禍栽，則令哀弔之。」注「禍栽，水火。」
秋官・掌客「凡禮賓客。國新殺禮。凶荒殺禮。札喪殺禮。禍栽殺禮。在野在外殺禮。」注「禍栽，新有兵寇水火也」

69　地官・大司徒「令五家爲比，…。五比爲閭，…。四閭爲族，…。五族爲黨，使之相救。……」注「救，救凶災也。」
同上「大荒、大札，則令邦國，移民通財，……。」注「移民辟災就賤。」
地官・小司徒「凡國之大事致民，大故致餘子。」注「大故謂災寇也。」
地官・司市「國凶荒札喪，則市無征而作布。」注「有災害物貴，市不税，爲民乏困也。」
地官・賈師「凡天患禁貴儥者，使有恒賈。」注「……，因天災害阨民，使之重困。」
春官・大卜「以邦事作龜之八命，一曰征，二曰象，……」注「象謂災變雲物，如衆赤烏之屬，有所象似。」
春官・大祝「掌六祝之辭，……四曰化祝，……」注「鄭司農云，……化祝，弭災兵也。」
同上「掌六祈以同鬼神示，……」注「祈，嗥也，謂爲有災變，號呼告神，以求福。……」
同上「言甸人讀禱。」注「玄謂，……甸人喪事代王受眚災。」
夏官・司爟「季春出火，民咸從之。季秋内火，民亦如之。」注「鄭人鑄刑書，火星未出而出火，後有災。」（左傳昭公六年）
夏官・司險「國有故，則藩塞阻路而止行者。」注「有故，喪災及兵也。」
夏官・司士「國有故，則致士而頒其守。」注「故，非喪則兵災。」
夏官・校人「冬祭馬步，獻馬講馭夫。」注「馬步，神爲災害馬者。」

70　十一篇下魚部「鱻，新魚精也。从三魚。」，「鮮，鮮魚也，出貉國。从魚䲹省聲。」段注「案此乃魚名。經典乃叚爲新鱻字，又叚爲尠少字，而本義廢。」

71　「新鮮」の意味では，『儀礼』も（士昏禮「腊必用鮮」、聘禮「鮮魚鮮腊」、既夕禮「魚腊鮮獸」、「特鮮獸」など），『禮記』も（曲禮下「鮮魚曰脡祭」、内則「冬宜鮮羽，膳膏臛」など）「鮮」に作る。

に「鮮」は見えず，「𩸞」が4例[72]ある。注はすべて「鮮」に作られ，孫詒讓も「注」が經の「𩸞」を「鮮」に作る箇所では必ず「經用古字，注用今字」を持ち出す。

(14)齍・粢

「齍」は十三經中『周禮』にのみ13例[73]見える。逆に「粢」は『周禮』經文に見えず，『尚書』、

72　天官・庖人「凡其死生𩸞薨之物，以共王之膳與其薦羞之物，及后世子之膳羞。」注「鄭司農云，鮮謂生肉，薨謂乾肉。」孫詒讓疏「『鄭司農云，鮮謂生肉，薨謂乾肉』者，說文魚部云，……，經典多借鮮爲𩸞。此經皆作𩸞，注皆作鮮，亦經用古字，注用今字之例。」
天官・庖人「凡用禽獻，春行羔豚膳膏香，夏行腒鱐膳膏臊，秋行犢麛膳膏腥，冬行𩸞羽，膳膏羶。」注「杜子春云，……鮮，魚也。羽，鴈也。膏羶，羊脂也。」孫詒讓疏「云『鮮，魚也』者，此亦注用今字也。」
天官・獻人「辨魚物爲𩸞薨，以共王膳羞。」注「鮮，生也。薨，乾也。」孫詒讓疏「注云『鮮，生也』者，……，經作中作鮮者，亦經用古字，注用今字之例，詳庖人疏。」
天官・獻人「凡祭祀、賓客、喪紀，共其魚之𩸞薨。凡獻者掌其政令。凡獻征入于玉府。」

73　天官・甸師「掌帥其屬而耕耨王藉，以時入之，以共齍盛。」注「齍盛，祭祀所用穀也。粢，稷也，穀者稷為長，是以名云。在器曰盛。」釋文「齍盛，音資。」阮元校勘記「案齍亦當為粢，肆師表齍盛，注粢六穀也，在器曰盛，是經作齍盛，注皆作粢盛。疏云六穀曰粢，在器曰盛，以共祭祀，故云粢盛。易齍盛為粢盛本注也。此及春人注同。經作齍非。漢讀考云，小宗伯辨六齍之名物，注曰齍讀為粢，六粢謂六穀，黍稷稻粱麥苽。全經內齍字當以此例之。案甸師注粢盛者祭祀之主也。」段玉裁『周禮漢讀考』巻一「按粢即齍字，小宗伯辨六齍之名物，注曰，齍讀爲粢，六粢謂六穀，黍、稷、稻、粱、麥、苽。全經內齍字，當以此例之。此注上云『齍盛』，下云『粢稷也』。春人『齍盛之米』，注云『齍盛謂黍稷稻粱之屬』。可盛以爲簠簋實，肆師『表齍盛』，注云『粢，六穀也』。在器曰盛，明齍皆讀爲粢，全經之注，義多彼此互相足，學者必統觀之，九嬪『玉齍』注則云，『玉敦，受黍稷器』，與說文合。皿部云……。」孫詒讓疏「云『齍盛，祭祀所用穀也』者，……，阮元云『齍當爲粢，經作齍盛，注皆作粢盛』。案阮說是也。詳後。云『粢，稷也』者，爾雅釋詁文（釋草の文の誤りか。『爾雅』釋草に「粢，稷。」注「今江東人呼粟為粢。」）。說文　禾部云，……，又食部云，……，又皿部云，……。據許書，則齍爲齍盛正字，粢爲粢稷字，粢爲𥑮之或體，三字迥別。依鄭說，則經典齍盛字並當爲粢，粢即稷也。今本爾雅粢稷字亦从米。蓋許、鄭二家說本不同。段玉裁云，……。案，段謂此經齍盛字鄭皆讀爲粢是也。此注絶不及从禾之粢，明與許說不同。說文齍字說解，與下注盛訓義正同，蓋亦即指祭穀，猶毛詩小雅甫田傳云『器實曰齊』，器實即謂六穀也。蓋許並不以齍爲器名，韻會引作黍稷器，非也。九嬪注因玉敦所以盛祭穀，故以玉敦釋玉齍，猶圭瓚所以盛鬯，大宗伯謂之玉鬯，非以鬯爲器也。」
天官・九嬪「凡祭祀，贊玉齍，贊后薦徹豆籩。」注「玉齍，玉敦，受黍稷器。」釋文「玉齍，音咨，劉祖稽反。」孫詒讓疏「注云『玉齍，玉敦受黍稷器』者，鄭亦讀齍爲粢。六粢爲祭穀，故以玉飾受黍稷之器，即謂之玉粢，猶圭瓚盛鬯，謂之玉鬯也。詳甸師及宗伯疏。」
天官・世婦「掌祭祀、賓客、喪紀之事，帥女宮而濯摡為齍盛。」
地官・春人「祭祀共其齍盛之米。」注「齍盛謂黍稷稻粱之屬。」釋文「其齍，音資，注同，本亦作粢。」孫詒讓疏「云『齍盛謂黍稷稻粱之屬』者，……釋文云，……，案，經當作齍，注當作粢。陸、賈本經注並作齍，或本經注並作粢，皆非也。詳甸師疏、小宗伯疏。」
春官・大宗伯「凡祀大神，享大鬼，祭大示，帥執事而卜日，宿眡滌濯，涖玉鬯，省牲鑊，奉玉齍，詔大號，治其大禮，詔相王之大禮。」釋文「玉齍，音咨，下同。」
春官・小宗伯「辨六齍之名物與其用，使六宮之人共奉之。」注「齍讀為粢，六粢謂六穀，黍、稷、稻、粱、麥、苽。」孫詒讓疏「注云『齍讀為粢』者，鄭意『齍』非穀名，故依聲類讀爲『粢』，詳甸師疏。」
春官・小宗伯「祭之日，逆齍省鑊，告時于王，告備于王。」注「逆齍，受饎人之盛以入。」
春官・肆師「祭之日，表齍盛，告絜展器陳，告備，及果築鬻相治小禮，誅其慢怠者。」注「粢，六穀也。」孫詒讓疏「注云『粢，六穀也』者，此亦經作齍，注讀爲粢也。詳小宗伯疏。」
春官・世婦「帥六宮之人共齍盛。」釋文「齍盛，音咨，下文同。」
春官・外宗「王后以樂羞齍則贊。」釋文「羞齍，音咨。」
春官・職喪「凡其喪祭詔其號治其禮」注「玄謂告以牲號齍號之屬，當以祝之。」釋文「齍號，音咨。」

『禮記』、『春秋』三傳、『孟子』、『爾雅』などに見える。段玉裁は，『説文解字注』で，今本の『周禮』注や『禮記』、『左傳』などの經典に見える「粢」は「粢」の誤りであると主張する[74]。段は，二徐本では祭祀のために器に盛られた六穀とされる「齍」の説解を『古今韻會舉要』の引用によって，祭祀用に穀物が盛られた器そのものを意味するテキストに改め，「齍」は六穀を盛ることができるので，盛られた六穀をも指していうとする。そして，『周禮』の經文と注や他の經典の用字の違いから，これも「經用古字，注用今字」の一例だとするが，『説文』だと「粢」は「稻餅也」の「餈」の或體で，六穀の意味にならず，また六穀の代表格である「稷」と解される「齋」の或體「粢」と字形が似ていることから，今本の『周禮』注や『禮記』、『左傳』などの經典に見える「粢」は「粢」の誤りだとする。しかし，『周禮漢讀考』では，「粢」を誤りとはせず，甸師の「齍盛」について「按粢即齍字」とする[75]。

孫詒讓は，「齍」初出の甸師の疏で，阮元の「齍當爲粢」を是とし，その根據を詳細に述べ

春官・大祝「辨六號，一曰神號，二曰鬼號，三曰示號，四曰牲號，五曰齍號，六曰幣號。」注「粢號謂黍稷皆有名號也。」釋文「齍號，音咨。」孫詒讓疏「云『粢號謂黍稷皆有名號也』者，此亦經作齍，注讀爲粢也。詳小宗伯疏。」

春官・小祝「大祭祀，逆齍盛，送逆尸，沃尸盥，贊隋贊徹贊奠。」

秋官・司烜氏「掌以夫遂取明火於日，以鑒取明水於月，以共祭祀之明齍明燭共明水。」注「鄭司農云，…明齍謂以明水脩滌粢盛黍稷。」（孫詒讓正義本は「明齍」を「明粢」に作る。）釋文「明齍，音資，注作粢同。」孫詒讓疏「云『明粢謂以明水脩滌粢盛黍稷』者，明粢，舊本並誤作明齍，今依蜀石經正。釋文……，則注本不與經同，蜀石經與陸本正合。今本注亦作明齍，後人依經改也。此蓋亦讀齍爲粢，甸師注云，……，凡經齍盛字，鄭並讀爲粢，詳甸師、小宗伯疏。」

74 『説文』七篇上禾部「齋，稷也。从禾齊聲。粢，齋或从次作。」段注「釋艸曰，粢，稷也。周禮甸師『齍盛』注云，粢者，稷也。穀者稷爲長。按經作齍，注作粢。此經用古字，注用今字之例。周禮『齍盛』字，鄭易爲粢者三，甸師、肆師、大祝也。小宗伯六齍注云，齍讀爲粢。六粢謂六穀，黍、稷、稻、粱、麥、苽。云齍讀爲粢。此易齍爲粢之證也。粢本謂稷。何以六穀統名粢。則以稷爲穀之長。故得槩之。甸師注是其指也。米本爲禾，凡穀皆得名米。粢盛之粢猶是矣。甫田作齊，亦作齍。毛曰，『器實曰齍』。而左傳、禮記皆作粢盛。是可證齍粢之同字。穀名曰粢，用以祭祀則曰齍。別之者，貴之也。今經典粢皆譌粢。而齍字且不見於經典矣。廣韻曰，齍，祭飯也。玉篇曰，黍稷在器曰齍，知舊本經典故作齍盛。」

『説文』五篇上皿部「齍，黍稷在器以祀者。从皿齊聲。」（段注本は『古今韻會舉要』（平聲上・四支與脂之）「齍」義注の引く説文に據り「黍稷器，所以祀者」に改める。）段注「按周禮一書，或兼言齍盛，或單言齍、單言盛，皆言祭祀之事。他事絶不言齍盛。故許皆云『以祀』者，兼言齍盛。若甸師、舂人、肆師、小祝是也。單言齍，若大宗伯、小宗伯、大祝是也。單言盛，若饎人、廩人是也。小宗伯『逆齍』注云，『受饎人之盛以入』，然則齍盛可互偁也。甸師注云，『粢，稷也』。穀者稷爲長，是以名云。肆師注云，『粢，六穀也』。大祝注云，『粢號謂黍稷皆有名號也』。舂人注云『齍盛謂黍稷稻粱之屬，可盛以爲簠簋實』。經文齍字，注三易爲粢。而小宗伯『六齍』注云『齍讀為粢，六粢謂六穀，黍、稷、稻、粱、麥、苽』。此則易齍爲粢之恉，謂齍粢古今字憭然。左傳作粢盛，則用今字之始。左傳曰，『絜粢豐盛』，毛曰，『器實曰齍』，在器曰齍，實之則曰盛。似與毛、鄭異。蓋許主説字。其字从皿，故謂其器可盛黍稷曰齍。要之，齍可盛黍稷，而因謂其所盛黍稷曰齍。凡文字故訓引伸每多如是。説經與説字不相妨也。」

『説文』五篇下食部「餈，稻餅也。从食次聲。鮆，餈或从齊，粢，餈或从米。」段注「按粢與禾部粢各義。」なお，小雅・甫田「以我齊明與我犧羊以社以方」毛傳「器實曰齊，在器曰盛」。

『左傳』は，桓公傳六年「粢盛豐備」、莊公傳十一年「天作淫雨，害於粢盛」、閔公傳二年「祀社稷之粢盛」、文公傳二年「以奉粢盛」。今本は「粢」に作る。

『禮記』は郊特牲、雜記下「共粢盛」、表記「粢盛秬鬯」。今本は「粢」に作る。

75 原文は注73參照。

る。まず，鄭注の「粢，稷也」は『爾雅』の文であることを指摘し，『説文』の「粢」「粢」「齍」の説解を引いて，孫詒讓はいう。許愼の説だと「齍」が正字，「粢」が稷の意，「粢」が「粢」の或體で，三字はまったく別の字であるが，鄭玄は「粢」を「稷也」と訓じて經文の「齍」をみな「粢」に讀み，今本の爾雅も稷と訓じられる字を「粢」に作る。おそらく，許、鄭の説は本来異なっていたのだろう。『周禮漢讀考』が「齍盛」の「齍」を鄭玄がみな「粢」に讀むとしているのは正しい。鄭玄の注は決して「粢」に觸れない。許愼と説が異なるのは明らかだ。以上が孫詒讓の説である。甸師以降の疏では，「齍」「粢」が本来別の字であるためか，注は「齍」を「粢」に讀むとはいうが，地官・春人と秋官・司烜氏以外では，阮元本の注が「齍」に作る箇所を「粢」に作るべきだとはいわない。

(15) 辠・罪

『説文』の説解は，「罪」を「捕魚竹网」とするが，「秦以罪爲辠字」と補足し，「辠」の下にも「秦以辠似皇字，改爲罪」という[76]。段玉裁は[77]，「罪」注で，『文字音義』[78] の秦始皇は「辠」が「皇」の字に似ていたので「罪」に改めたという説を引き[79]，「經典多出秦後，故皆作罪」といい，「辠」注でも「漢後經典多從之，非古也」という。『爾雅』には「罪」は見えず，「辜」、「辟」、「戾」三字が「辠也」と訓じられる（釋詁上）が，阮元本十三經でも，「辠」は「罪」に比べて壓倒的に少なく，『爾雅』のほか，『周禮』に3例，『穀梁傳』に１例[80]見えるのみで，しかも『穀梁傳』の例は地名である。「犯法」の意味では『爾雅』釋詁の文と『周禮』の例しかない。ただし，『周禮』經文でも，「辠」の3例[81]に對し，「罪」は36例[82]あり，夏官以降，

76　十四篇下辛部「辠，犯灋也。从辛自，言辠人戚鼻苦辛之悳，秦以辠似皇字，改爲罪。」段注「此志改字之始也。古有叚借而無改字。罪本訓捕魚竹网，从网非聲。始皇易形聲爲會意，而漢後經典多從之，非古也。」七篇下网部「罪，捕魚竹网。从网非。秦以罪爲辠字。」（段注本は「从网非聲。秦以爲辠字。」）段注「本形聲字，始皇改爲會意字也。」「文字音義云，始皇以辠字似皇，乃改爲罪。按經典多出秦後，故皆作罪。罪之本義少見於竹帛，小雅畏此罪罟，大雅天降罪罟，亦辠罟也。」

77　前注參照。

78　唐玄宗『開元文字音義』。『唐書』藝文志・甲部經録小學類には「三十卷」、『宋史』藝文志・經小學類には「二十五卷」と著録される。

79　『廣韻』上聲十四賄・辠（徂賄切）の義注に據ったか。

80　哀公十二年「公會吳于橐皐」注「橐皐，在淮南逡遒縣東南」。

81　天官・大宰「以八灋治官府，……七曰官刑，以糾邦治。」注「鄭司農云，……，官刑謂司刑所掌墨辠、劓辠、宮辠、刖辠、殺辠也。」孫詒讓疏「『官刑謂司刑所掌墨辠、劓辠、宮辠、刖辠、殺辠』者，司刑五刑文。辠，古罪字。凡經例用古字，或作辠，注例用今字，皆作罪。今司刑經並作罪，而此注引乃作辠，與例不合，疑誤。詳甸師及司刑疏。」
天官・甸師「王之同姓有辠，則死刑焉。」注「鄭司農云，王同姓有罪當刑者，斷其獄於甸師之官也。文王世子曰，公族有死罪，則磬於甸人。」孫詒讓疏「案辠罪古今字。此經辠罪錯出，蓋非其舊。注則皆作罪，注例用今字也。」
地官・比長「比長各掌其比之治。五家相受相和親，有辠奇衺則相及。」釋文「辠本亦作罪。」孫詒讓疏「案辠罪古今字，經例用古字作辠，或本非。」

春官・小祝「小祝掌小祭祀將事，侯、禳、禱祠之祝號，以祈福祥，順豐年，逆時雨，寧風旱，彌栽兵，遠辠疾。」

82天官・大宰「以八柄詔王馭羣臣。一曰爵，以馭其貴。二曰祿，以馭其富。三曰予，以馭其幸。四曰置，以馭其行。五曰生，以馭其福。六曰奪，以馭其貧。七曰廢，以馭其罪。八曰誅，以馭其過。」注「奪謂臣有大罪沒入家財者。」孫詒讓疏「云『七曰廢，以馭其罪』者，罪疑當作辠，詳前疏（大宰「官刑」鄭司農注に對する疏。前注參照）。」

地官・胥「凡有罪者，撻戮而罰之。」孫詒讓疏「云『凡有罪者，撻戮而罰之』者，罪，經例用古字當作辠，詳甸師疏。」

夏官・大司馬「及師，大合軍以行禁令，以救無辜，伐有罪。」孫詒讓疏「云『以救無辜，伐有罪』者，罪，經例用古字當作辠，石經及各本並誤，詳甸師疏。」

秋官・序官「罪隸百有二十人。」孫詒讓疏「云『罪隸』者，罪，經例用古字當作辠，石經及各本並誤，詳甸師疏。」

秋官・大司寇「凡萬民之有罪過而未麗於灋而害於州里者，桎梏而坐諸嘉石，役諸司空。重罪旬有三日坐，朞役。……其下罪三日坐，三月役。……」注「有罪過謂邪悪之人所罪過者也。」孫詒讓疏「云『凡萬民之有罪過……』者，罪當作辠，凡經例用古字作辠，注例用今字作罪，前四篇並如是。惟秋官、冬官二篇經並作罪，疑傳寫之誤，詳甸師疏。」

秋官・大司寇「凡遠近惸獨老幼之欲有復於上，而其長弗達者，立於肺石三日。士聽其辭，以告於上而罪其長。」孫詒讓疏「云『以告於上而罪其長』者，罪，亦當作辠。」

秋官・小司寇「凡王之同族有罪，不即市。」孫詒讓疏「云『凡王之同族有罪，不即市』者，罪當作辠。」

秋官・士師「以五戒先後刑罰，毋使罪麗于民。」孫詒讓疏「云『……毋使罪麗于民』者，罪，經例用古字當作辠，石經及各本並誤，詳甸師疏。」

秋官・鄉士「辯其獄訟，異其死刑之罪而要之，旬而職聽于朝。」注「要之，爲其罪法之要辭。」孫詒讓疏「『異其死刑之罪而要之』者，罪當作辠，後遂士、縣士、方士、訝士、朝士並同。」

秋官・遂士「聽其獄訟，察其辭，辨其獄訟，異其死刑之罪而要之，二旬而職聽于朝。」

秋官・縣士「各掌其縣之民數，糾其戒令而聽其獄訟，察其辭，辨其獄訟，異其死刑之罪而要之，三旬而職聽于朝。」

秋官・方士「掌都家。聽其獄訟之辭，辨其死刑之罪而要之，三月而上獄訟于國。」

秋官・訝士「掌四方之獄訟，諭罪刑于邦國。」注「告曉以麗罪及制刑之本意。」

秋官・朝士「凡盜賊軍鄉邑及家人，殺之無罪。凡報仇讎者，書於士，殺之無罪。」注「鄭司農云，謂盜賊羣輩若軍，共攻盜鄉邑及家人者，殺之無罪。若今時無故入人室宅廬舍，上人車船，牽引人欲犯法者，其時格殺之無罪。」

秋官・司刑「掌五刑之灋，以麗萬民之罪。墨罪五百。劓罪五百。宮罪五百。刖罪五百。殺罪五百。」注「書傳曰，……，此二千五百罪之目略也。」孫詒讓疏「云『……以麗萬民之罪』者，罪，經例用古字當作辠，後及司刺、司厲、司圜、掌囚、掌戮、罪隸並同。……云『墨罪五百，劓罪五百，宮罪五百，刖罪五百，殺罪五百』者，大宰先鄭注引並作辠，當據正。」

秋官・司刑「若司寇斷獄弊訟，則以五刑之灋詔刑罰，而以辨罪之輕重。」

秋官・司刺「以此三灋者求民情，斷民中而施上服下服之罪，然後刑殺。」

秋官・司厲「其奴男子入于罪隸，女子入于舂稾。」注「鄭司農云，謂坐爲盜賊而爲奴者，輸於罪隸舂人稾人之官也。由是觀之，今之爲奴婢，古之罪人也。」阮元校勘記「男子入于罪隸……，……說文女部（十二篇下）云，奴，奴婢皆古之辠人也，周禮曰，其奴男子入于辠隸，……，又按，罪當從許引作古辠字。」孫詒讓疏「案阮說是也。」

秋官・司圜「掌收教罷民。……能改者，上罪三年而舍。中罪二年而舍。下罪一年而舍。」

秋官・掌囚「掌守盜賊、凡囚者。上罪梏拲而桎。中罪桎梏。下罪梏。王之同族拲。有爵者桎。以待弊罪。」注「凡囚者謂非盜賊自以他罪拘者也。……玄謂，…，中罪不拲手，…下罪又去桎，王同族及命士以上雖有上罪，或拲或桎而已。」孫詒讓疏「云『上罪梏拲而桎』者，罪，說文手部引作辠，當據正。石經及各本並誤，下三罪字同。」（「說文手部」は，十二篇上手部「拲，両手同械也。从手从共，共亦聲。周禮，上辠梏拲而桎。」）

秋官・掌戮「凡罪之麗於灋者亦如之。」

秋官・罪隸「罪隸掌役百官府與凡有守者，掌使令之小事。」

冬官・梓人「凡試梓飲器，鄉衡而實不盡，梓師罪之。」注「鄭司農云，梓師罪也。……玄謂，……平爵鄉口

「辠」「罪」に最も關わりの深い秋官の例も含めて，すべて「罪」に作る。なお，『周禮』注に「辠」に作る例が1つあり，これは『周禮』經注を通じての初出箇所で，孫詒讓疏は，その「辠」について「經用古字，注用今字」の觀點から誤りだとする。阮元本經文がすべて「罪」に作る秋官でも大司寇疏で「經用古字作辠，注用今字作罪」について「前四篇並如是。惟秋官、冬官二篇經並作罪，疑傳寫之誤」といい，すべて「當作辠」と考える。また，最後の冬官では「經記字例之異」という常套手段を持ち出し，「前經五篇並用古字作辠」と今本テキストとは食い違う事柄を述べ，事實を曲げてまで，「經用古字，注用今字」の原則に拘る。

(16)貍・埋

「貍」は獸名，音は「里之切」で[83]，經典に見える「貍」も多くは本義の獸名由来の例だが[84]，『周禮』の「貍」9例中4例には，釋文に「莫皆反」「亡皆反」などの音が附されている。これは，『説文』一篇下艸部「薶」と同音である。「薶」は「瘞（うずめる）」の意[85]で，「莫皆反」に讀む「貍」は呂飛鵬[86]の説に據れば「薶」の省略體で，うめるという意味を表すという。「薶」は，段注に「周禮假借貍字爲之。今俗作埋。」と指摘するように，十三經では『爾雅』[87]にしか見えず，『周禮』以外の經ではすべて「埋」が用いられ[88]，『周禮』の經文でも「埋」は3箇所に見える。孫詒讓は，『周禮』經文に見える「薶」の假借の「貍」4例[89]、「埋」3例[90]すべてと秋官・序

酒不盡，則梓人之長罪於梓人焉。」孫詒讓疏「云『…，梓師罪之』者，罪，前經五篇並用古字作辠，此作罪者，疑亦經記字例之異。」

83　『説文』九篇下豸部「貍，伏獸似貙。从豸里聲。」

84　『周禮』の「貍首」3例（春官・樂師、鍾師、夏官・射人）、「貍步」1例（夏官・射人）は本義に由来する用法。天官・內饔「鳥鷈色而沙鳴，貍。」の「貍」は釋文に「音鬱，徐於弗反」という音注があり，「鬱」に通じる。

85　『説文』一篇下艸部「薶，瘞也。从艸貍聲。」段注「周禮假借貍字爲之。今俗作埋。」

86　『周禮補注』巻一。詳細は鼈人の孫詒讓疏參照。

87　釋言「窒、薶，塞也」。釋天「祭地曰瘞薶」。

88　『儀禮』聘禮「埋于西階東」、士喪禮「埋于坎」、『禮記』曲禮上「祭器敝則埋之。龜筴敝則埋之。牲死則埋之。」、檀弓下「仲尼之畜狗死，使子貢埋之曰，……爲埋馬也，……爲埋狗也，……埋之以帷。」、月令「掩骼埋胔」、雜記上「重既虞而埋之。」、喪服大記「士埋之。」、祭法「瘞埋於泰折」「埋少牢於泰昭」、『春秋左傳』文公傳十一年「埋其首於子駒之門。……埋其首於周首之北門。」、文公傳十八年「殺而埋之馬矢之中」、昭公傳六年「乃坎用牲埋書」、昭公傳十三年「既乃與巴姬密埋璧於大室之庭。」、哀公傳五年「景公死乎不與埋。」など

89　天官・鼈人「以時簎魚鼈龜蜃、凡貍物。」注「鄭司農云，……，貍物，鼈龜之屬，自貍藏伏於泥中者，玄謂，貍物亦謂鱴刀含漿之屬。」釋文「貍物，莫皆反。」孫詒讓疏「云『貍物，鼈龜之屬，自貍藏伏於泥中者』者，呂飛鵬云『説文豸部，……。釋文，……，則讀如埋。説文無埋字，艸部「薶，瘞也」此經蓋省作貍。大宗伯「貍沈」，注云「祭山林曰埋」。此其例也。』。案呂説是也。凡此經薶藏字，皆借貍爲之，注或作埋，則薶之俗也。先鄭意經貍物，即謂龜鼈諸互物自貍者。然經前言龜鼈，後別言貍物，則貍物不止龜鼈之屬，故後鄭補其義。」

春官・大宗伯「以貍沈祭山林川澤。」注「祭山林曰埋，川澤曰沈，順其性之含藏。」釋文「以貍，亡皆反，劉莫拜反。」孫詒讓疏「云『祭山林曰埋，…』者，説文艸部云，……，水部云，『湛，没也』。經『貍沈』即『湛薶』之叚借字。貍，注例又並作埋，即薶之俗，詳鼈人疏。」

官注「埋」の釋文が「貍」に作る箇所[91]に疏を附すが，一貫して「經用古字當作蘊，注用今字當作埋」という主張は變わらない。

(17)劀・刮

『周禮』經文には「劀」が2例[92]、「刮」が2例[93]見える。「劀」はいずれも天官、「刮」はいずれも冬官の例である。「劀」「刮」は本来，別の字である[94]が，ともに刀に從い，大徐本の反切は「古鎋切」と「古八切」で音も近い。『説文』でも「劀」の説解に「刮」字が用いられているように通用したようで，天官・瘍醫の注では經の「劀」を注では「刮」に作る。テキストには異同があるが，阮元校勘記も「刮」を是とし，孫詒讓はそれをも根據にして，「劀」「刮」を古今字と判斷し，これも「經用古字，注用今字之例」という。ただし，冬官の「刮」は本義「掊把」の引申の義と考え，「經記字例之異」とはしない。なお，他の十二經に「劀」は見えない。[95]

春官・鬱人「大喪之涸共其肆器，及葬共其祼器，遂貍之。」注「貍之於祖廟階間，明奠終於此。」釋文「遂貍，亡皆反。」孫詒讓疏「云『遂貍之』者，貍，蘊之借字，詳鼈人疏。……云『貍之於祖廟階間』者，『貍』注例當作『埋』，各本並誤。貍埋古今字，詳鼈人疏。」

秋官・赤友氏「凡隙屋，除其貍蟲。」注「貍蟲，蟅、肌蛷之屬。」釋文「貍蟲，莫皆反，劉莫拜反」孫詒讓疏「云『貍蟲，蟅、肌蛷之屬』者，貍即蘊之借字，詳鼈人疏。」

90　地官・族師「五家爲比，十家爲聯，五人爲伍，十人爲聯，四閭爲族，八閭爲聯。使之相保相受，刑罰慶賞，相及相共，以受邦職，以役國事，以相葬埋。」釋文「埋，本或作貍，莫皆反。」阮元校勘記「以相葬埋，唐石經諸本同，釋文埋本或作貍。案經當用貍字，此淺人以俗字改之。」孫詒讓疏「云『以相葬埋』者，釋文云，…，阮元云，……，案阮説是也。埋正字當作蘊，經並借貍爲之，詳鼈人疏。」

夏官・校人「大喪飾遣車之馬，及葬埋之。」注「言埋之，則是馬塗車之」釋文「貍之，亡皆反，本亦作埋。」阮元校勘記「及葬埋之，唐石經諸本同，釋文，……，按經當作貍，注當作埋，此類皆援注所改。」孫詒讓疏「云『及葬埋之』者，埋，釋文……，阮元云，……，案阮説是也。貍即蘊之借字，注或從俗作埋，詳鼈人疏。」

秋官・蜡氏「若有死於道路者，則令埋而置楬焉。」孫詒讓疏「埋即蘊之俗，經例用古字當作蘊，唐、蜀石經及各本並誤，詳鼈人疏。」

91　秋官・序官「蜡氏，下士四人，徒四十人。」注「月令曰，掩骼埋胔。此官之職也。」釋文「貍，亡皆反，本又作埋。」孫詒讓疏「貍即蘊之借字，俗作埋。」

92　天官・瘍醫「掌腫瘍、潰瘍、金瘍、折瘍之祝藥劀殺之齊。」注「刮，刮去膿血。殺謂以藥食其惡肉。」釋文「劀，音刮，徐工滑反。」「刮去，羌吕反。」阮元校勘記「刮刮去膿血，嘉靖本同，閩監毛本上刮依經改劀，非。釋文劀音刮，本注也。説文，劀，刮去惡創肉也，周禮曰劀殺之齊，亦訓劀爲刮，與鄭義同。○按説文劀刮異義，鄭君謂爲一字。」孫詒讓疏「詒讓案，鄭蓋謂劀刮古今字，故經作劀，注並作刮，亦經用古字，注用今字之例也。下注直云『刮殺』可證。釋文出『刮去』二字，似陸本注上刮字作劀，則是以刮釋劀，殆非鄭本之舊。俗注疏本同，非也。」

天官・獸醫「凡療獸瘍，灌而劀之，以發其惡，然後藥之養之食之。」

93　冬官考工記「凡攻木之工七。攻金之工六。攻皮之工五。設色之工五。刮摩之工五。摶埴之工二。……刮摩之工，玉、椈、雕、矢、磬。……」注「故書七爲十，刮作挩。鄭司農云，十當爲七，挩摩之工謂玉工也，挩讀爲刮，其事亦是也。」孫詒讓疏「云『挩讀爲刮，……』者，説文刀部云，㓷，掊杷也，刷，㓷也，㓷刷即掊杷引申之義 。」（孫詒讓は段注本のテキストに據る。）

94　いずれも『説文』四篇下刀部に見える。「劀，刮去惡創肉也。从刀喬聲。周禮曰劀殺之齊。」段注「瘍醫，…，鄭云，『劀，刮去膿血。殺謂以藥食其惡肉。』與許異。刮劀爲疊韻。」、「㓷，掊杷也。从刀昏聲。」（段玉裁は「把」を「杷」に作る）段注「今字作刮。」

95　「刮」は1例。禮記・明堂位に「山節、藻梲、復廟、重檐、刮楹、達鄉、反坫、出尊、崇坫康圭、疏屏，天子之廟飾也。」注「刮，刮摩也」

(18)槑・栗

「栗」は「槑」の或體の隷變である[96]。「槑」は『周禮』以外の十二經には見えないが，阮元本『周禮』經文では冬官・弓人の1例[97]を除いて，すべて「槑」(8例)[98] に作る。孫詒讓は，冬官・弓人の「栗」も「槑」に改め，逆に注の「槑」は「栗」に作るべきだとする。「歴」に通じる「槑」も「裂」に讀む「槑」についても同様である。

(19)虣・暴

「虣」は『説文』には見えず，『周禮』以外の十二經にも見えないが，『文選』李善注[99]引く『字書』に「虣[100]，古文暴字」という。「暴」は隷體以降は字體に區別がなくなったが，もとは「暴(ボウ)」[101]「暴(バク)」[102] という別の二字に由来する字であり，「虣」は「暴(ボウ)」の古文である。『周禮』經文には，「虣」が5[103]、「暴」は12あるが，そのうち４例[104]は「暴(バク)」に由来する用例であり，考工

---

96 『説文』七篇上卤部「槑，木也。(段注本は「槑，栗木也。」)，从卤木。其實下垂，故从卤。𣏟，古文，从西从二卤。徐巡説木至西方戰栗也。」段注「隷變作栗者，竊取古文从西之意。」

97 冬官・弓人「凡析幹，射遠者用埶，射深者用直。居幹之道，菑栗不迤，則弓不發。」注「鄭司農云，……，栗讀爲榛栗之栗，……，玄謂，栗讀爲裂繻之裂。」孫詒讓は經文の「栗」を「槑」に作り，「云『居幹之道，菑栗不迤，則弓不發』者，槑，釋文作栗。案，陸本非也。凡經用古字，當作槑，注用今字，當作栗，詳籩人疏。……注鄭司農云『……，栗讀爲榛栗之栗』者，……，『栗讀』之栗舊本作槑。宋附釋音本、注疏本並作栗，今從之。槑栗古今字，注例用今字也。後鄭改讀亦作栗，可證。……」

98 天官・籩人「饋食之籩，其實棗、槑、桃、乾薸、榛實。」注「榛，似栗而小。」經典釋文「槑，古栗字」
天官・籩人「加籩之實，蔆、籩、槑、脯。蔆、芡、槑、脯。」注「栗與饋食同。」孫詒讓疏「云『栗與饋食同』者，……，經作槑，注作栗者，亦經用古字，注用今字之例。」
冬官「攻金之工，築、冶、鳧、槑、段、桃。」釋文「槑，古栗字」孫詒讓疏「釋文云，……，案，詳籩人疏。」
冬官・輈人「攻金之工，築氏執下齊。冶氏執上齊。鳧氏爲聲。槑氏爲量。……」
冬官・槑氏「槑氏爲量。」注「槑古文或作歴。」『周禮漢讀考』巻六「槑歴異部而雙聲，此可證。聘禮、燕禮曰栗階，檀弓之記曰歴階，其實一也。」孫詒讓疏「『槑氏爲量』者，槑，名義未詳，疑當從故書作歴，……，云『槑古文或作歴』者，段玉裁云，……，徐養原云，『古文猶古書也。周禮注内稱古文者，惟庖人及此經而已。又下有「玄謂」字，則此句乃司農、子春説』。案徐説是也。」
冬官・玉人「案十有二寸，棗槑十有二列，諸侯純九，大夫純五，夫人以勞諸侯。」注「玄謂，……，棗槑實於器，乃如於案聘禮曰，夫人使下大夫勞以二竹簋方，玄被纁裏，有蓋。其實棗烝槑擇，兼執之以進。」孫詒讓疏「籩人、弓人皆經用古字作槑，注用今字作栗，惟此職及矢人經注皆作槑，疑後人所改，下同。」
冬官・矢人「凡相笴，欲生而摶。同摶欲重，同重節欲疏，同疏欲槑。」注「鄭司農云，欲槑，欲其色如槑也。」孫詒讓疏「鄭司農云，『欲槑，欲其色如槑也』者，槑，注例用今字作栗，此經注皆作槑，疑亦後人所改。詳籩人、玉人疏。」

99 巻十一鮑昭・蕪城賦「伏虣藏虎」注および巻十七王褒・洞簫賦「剛毅彊虣反仁恩兮」注。

100 「虣」とは「武」「虎」の配置が左右入れ替わっている。

101 『説文』十篇下本部「暴，疾有所趣也。从日出本廾之。」段注「按此暴與暴二篆形義皆殊，而今隷不別。此篆主謂疾，故爲本之屬。暴主謂日晞，故爲日之屬。」

102 『説文』七篇上日部「暴，晞也。从日出艸米。」段注「攷工記『晝暴諸日』，孟子『一日暴之』，引申表暴、暴露之義，與本部暴義別。凡暴疾、暴虐、暴虎皆本部字也。而今隷一之。經典皆作暴。難於諟正。」

103 地官・序官「司虣」注「司暴，禁暴亂。」孫詒讓疏「云『司虣……』者，文選蕪城賦李注引字書云，『虣，古文暴字』。案，暴，説文本部作暴，重文無虣字。……云『司暴，禁暴亂』者，此注例用今字作暴也。」
地官・大司徒 「因此五物者民之常，而施十有二教焉。……七曰以刑教中，則民不虣。」孫詒讓疏「虣即暴字，詳敍官疏。」

記の例[105]は鄭衆注に「剥」に讀むということから，やはり「暴(バク)」由来だと考えられる。残りの7例[106]が「虣」の今字で「暴(ボウ)」由来の「暴」である。孫詒讓は，經文の「暴」7箇所すべてについて，經では古字を用いて「虣」に作るべきだとしている。

(20)覈・核

『周禮』經文に「核」は見えず，「覈」も1例[107]のみである[108]。經文の「覈物」を注は「核物」に作り，「李梅之屬」という。孫詒讓引く丁晏説は，『説文』の「覈」[109]、「核」[110] の説解に據っ

地官・司市「以刑罰禁虣而去盜。」孫詒讓疏「虣即暴字，詳敍官疏。」

地官・司虣「司虣掌憲市之禁令，禁其鬬囂者與其虣亂者，出入相陵犯者。」孫詒讓疏「虣，古暴字」。

104 天官・染人「凡染，春暴練，夏纁玄，秋染夏，冬獻功。」，釋文「春暴，步卜反，劉步落反，注同。」冬官・㡛氏 「㡛氏湅絲。以涑水漚其絲，七日，去地尺，暴之。晝暴諸日，夜宿諸井，七日七夜，是謂水湅。湅帛。……晝暴諸日，夜宿諸井，七日七夜，是謂水湅。」釋文「暴之，步卜反，劉步莫反，下同。」，旊人「旊人爲簋。實一觳崇尺。厚半寸。脣寸。豆實三而成觳。崇尺。凡陶旊之事。髻墾薛暴不入市。器中膊。豆中縣。膊崇四尺。方四寸。」注「鄭司農云，…暴讀爲剥」。

105 冬官考工記・旊人 「旊人為簋。實一觳崇尺。厚半寸。脣寸。豆實三而成觳。崇尺。凡陶旊之事。髻墾薛暴不入市。器中膊。豆中縣。膊崇四尺。方四寸。」注「鄭司農云，…暴読爲剥」。

106 夏官・大司馬 「暴內陵外，則壇之。」孫詒讓疏「云『暴內陵外，則壇之』者，暴，經用古字當作虣，石經及各本並誤。…暴，詳地官敍官及司虣疏。」

秋官・序官 「禁暴氏」孫詒讓疏「『禁暴氏』者，暴，經例用古字當作虣，石經及各本並誤，詳地官敍官疏。」

秋官・大司寇 「以五刑糾萬民。……五曰國刑，上愿糾暴。」注「暴當爲恭字之誤也。」釋文「糾暴，依注，暴作恭。」孫詒讓疏「云『五曰國刑，上愿糾暴』者，暴，經例用古字當作虣，此職作暴，鄭破爲恭，則漢時經本已如是，訝士、小行人、禁暴氏並同，皆與例不合，詳地官敍官疏。」

秋官・訝士 「邦有賓客，則與行人送逆之。……居館，則帥其屬而爲之蹕，誅戮暴客者。」 孫詒讓疏「云『誅戮暴客者』者，暴，經例用古字，疑當作虣，詳地官敍官疏。」

秋官・禁暴氏 「禁暴氏掌禁庶民之亂暴力正者，撟誣犯禁者作言語而不信者以告而誅之。」孫詒讓疏「云『禁暴氏掌禁庶民之亂暴力正者』者，暴，經例用古字當作虣，司虣云『禁其虣亂者』，與此義同。此作暴，疑誤，詳地官敍官疏。」

秋官・小行人 「其悖逆、暴亂、作慝猶犯令者爲一書」孫詒讓疏「云『其悖逆、暴亂、……』者，暴，經例用古字當作虣，詳地官敍官疏。」

107 地官・大司徒「以土會之灋，辨五地之物生。一曰山林。……。二曰川澤。……。三曰丘陵。其動物宜羽物，其植物宜覈物，其民專而長。四曰墳衍。……。五曰原隰。……。」注「核物，李梅之屬。」阮元校勘記「核物李梅之屬，宋本閩本監本同，毛本核作覈，爲依經所改，非也。」孫詒讓疏「云『核物，李梅之屬』者，丁晏云，『經文作覈，注作核。説文襾部……，木部，……，是果實之字當用覈。鄭君作核，從今文假借字也。曲禮、玉藻 皆作核，故鄭改从今字。毛詩「肴核維旅」，班固典引蔡邕注引詩「肴覈維旅」，是毛詩古文亦作覈。』案丁説是也。覈本訓實，引申爲果覈之名。注又從今字作核。」

『禮記』曲禮上に「賜果於君前．其有核者懷其核。」玉藻に「食棗桃李，弗致于核。」

『毛詩』『文選』は注111,112参照。

108 他經に「覈」は見えず，『爾雅』釋木なども「……桃李，醜核」のように，「核」に作る。

109 七篇下襾部「覈，實也。考事襾笮邀遮其辭得實曰覈。从襾敫聲。」

110 六篇上木部「核，蠻夷以木皮為篋，狀如籤尊。从木亥聲。」段注に「未詳所本。今字果實中曰核，而本義廢矣。按許不以核爲果實中者，許意果實中之字當用覈也。小雅『肴核維旅』，班固、蔡邕作『肴覈維旅』，是毛詩古文亦作覈。左思作肴榥，榥即覈也。今本毛詩作核，非古也。周禮，其植物宜覈物，覈猶骨也。廣韻云，㮚，果子㮚也。出聲譜。戸骨切。此字近是。玉篇亦云，核，戸骨切，果實中也。」。左思の「肴榥」は蜀都賦。『文選』巻四・蜀都賦「金罍中坐，肴榥四陳，……」李善注に「毛詩曰，肴核維旅，鄭玄曰，肴，菹醢也，核，桃梅之屬也。……榥與核義同。」

て「覈物」を正字、「核物」を假借字とし，『文選』李善注[111]が今本『毛詩』の「核」[112]を「覈」に作ることから，『毛詩』の古文も「覈」に作ったとする[113]。孫詒讓は丁説を是とし，注が「核」に作ることについては，「今字に從う」という。

(21)毓・育

「毓」は『説文』[114]によれば「育」の或體である。阮元本『周禮』經文に「育」はなく[115]，「毓」は2例[116]見え，注文は概ね「育」に作るが，「毓」が1例[117]ある。孫詒讓はその地官・大司徒注の「毓」を「育」を改め，「經用古字，注用今字」の例とする。

(22)眚・省

『説文』では，「眚」は「目病生翳也」，段注は引申義として「過誤」、「眚災」，假借義として「減省」を擧げる[118]。「省」は「視也」で，段注は「減省」の意を引申義とする[119]。『周禮』經文に「眚」は3例、「省」は6例見える。「省」はすべて本義で用いられている[120]。「眚」1例[121]

---

111 『文選』卷四十八・班固・典引「肴覈仁誼之林藪」李善注「肴覈，食也。肉曰肴，骨曰覈。……詩云，……又曰肴覈惟旅。」

112 『毛詩』小雅・賓之初筵に「賓之初筵，左右秩秩，籩豆有楚，殽核維旅。」傳「核，加籩也。」箋「豆實，菹醢也。籩實有桃梅之屬。」

113 前注に引く「核」段注も，丁晏説と趣旨は同じ。

114 十四篇下云部「育，養子使作善也。从云肉聲。虞書曰，教育子。毓，育或从每。」段注「周禮、周易蒙卦皆作此字。」段注の「周易蒙卦」は『周易』蒙・象辭「君子以果行育德」。今本は「育」に作る。

115 『周易』、『尚書』、『毛詩』、『禮記』、『左傳』、『爾雅』、『孟子』經文に「育」は見えるが，「毓」は見えない。

116 天官・大宰「以九職任萬民。……二曰園圃，毓草木。……」孫詒讓疏「大司徒注云，『育，生也』。毓育古今字。」
地官・大司徒「以土宜之灋，辨十有二土之名物，……以毓草木，以任土事。」注「育，生也。」阮元校勘記「育生也，嘉靖本育作毓，非，惠校本亦作毓，云，余本仍作育〇按此段玉裁經用古字注用今字之例。」孫詒讓疏「云『育生也』者，舊本育作毓，非。今據宋岳珂、余仁仲本正。説文云部，育，重文毓，云「育或从每」。漢時蓋習用育。此經作毓，注作育，亦經用古字，注用今字之例也。」

117 地官・大司徒「頒職事十有二于邦國都鄙，使以登萬民，一曰稼穡，二曰樹藝，……」注「鄭司農云，……樹藝謂園圃毓草木。」阮元校勘記「謂園圃毓草木，閩監毛本同，宋本作謂園囿育草木，嘉靖本毓作育，惠校本亦作囿育云，互注本、余本作圃毓。〇按毓育，亦經用古字，注用今字之證也。」孫詒讓疏「云『樹藝謂園圃育草木』者，大宰育作毓，此作育者，亦用今字也。宋本及俗本並作毓，非。」

118 『説文』四篇上目部「眚，目病生翳也。从目生聲。」段注「引伸爲過誤，…，又爲災眚，…，又假爲減省之省，周禮馮弱犯寡則眚之，……。」

119 『説文』四篇上眉部「省，視也。从𥃝省从屮。」段注「凡省必於微，故引伸爲減省字。説文有渻𡢁二字，然經典多作省，所景切，又息井切。」

120 春官・大宗伯「凡祀大神、享大鬼、祭大示，帥執事而卜日。宿，眂滌濯，涖玉鬯，省牲鑊，奉玉齍，詔大號，治其大禮，詔相王之大禮。」釋文「省牲，本又作眚，同，息井反，後省牲鑊皆同。」孫詒讓疏「案，省正字，眚叚借字。」
春官・小宗伯「大祭祀省牲眂滌濯。祭之日逆齍省鑊，告時于王，告備于王。」注「省鑊，視亨腥孰。」孫詒讓疏「云『省鑊，視亨腥孰』者，説文目部云，……。」
秋官・方士「以時脩其縣灋。若歲終，則省之而誅賞焉。」注「方士以四時脩此法，歲終又省之，則與掌民數亦相近。」

は段玉裁が引申義とするわざわいの意，2例は「減省」の意である[122]。「經用古字之例」に當たるのは，後の2例，つまり「減省」の意味で經文に見える大司徒[123]と大司馬[124]の「眚」[125]であるが，今本では注も「眚」に作る。孫詒讓は，大司徒の疏で，「眚」は減省の意であるとし，釋文のテキストに注を引いて「省」に作るものがあることから，阮元の「經作眚，注作省」を是とする。大司馬の疏では，その大司徒の注を根據に「經例作眚，注例作省」といい，呂飛鵬の「眚省古通用字」説を引き，「省」段注も擧げる「媤」「渻」二字との音義の近さを指摘して締めくくる。實際には，今本『周禮』では經注ともに「眚」に作るにも關わらず，孫詒讓は「經例作眚，注例作省」を主張する。

(23)媺・美

「媺」は『説文』に見えないが，錢大昕は，「美」の古字で『説文』の「娓」[126]がこれに當

秋官・大行人「王之所以撫邦國諸侯者，歲徧存。三歲徧覜。五歲徧省。七歲屬象胥，諭言語，協辭命。九歲屬瞽史，諭書名，聽聲音。十有一歲達瑞節，同度量，成牢禮，同數器，脩灋則。十有二歲，王巡守殷國。」
注「存、覜、省，王使臣於諸侯之禮，所謂間問也。……自五歲之後，遂間歲徧省也。七歲省而召其象胥，九歲省而召其瞽史，皆聚於天子之宮，教習之也。……至十一歲又徧省焉。……」
秋官・小行人「使適四方，協九儀賓客之禮。朝、覲、宗、遇、會、同，君之禮也。存、覜、省、聘、問，臣之禮也。」

121 天官・甸師「喪事，代王受眚栽。」注「既殯，大祝作禱辭，授甸人，使以禱藉田之神，受眚栽，弭後殃。」釋文「眚，生景反。」孫詒讓疏「説文目部云，……，引申爲災眚。」

122 「眚」は『周易』訟、復、无妄、震、小過、説卦傳、『尚書』舜典、康誥、『春秋左傳』莊公經二十二年、傳二十五年、僖公傳三十三年、襄公傳九年、『穀梁傳』莊公二十二年などにも見えるが，すべて段玉裁が本義の引申とするわざわい、あやまちなどの意味で用いられている。

123 地官・大司徒「以荒政十有二聚萬民，……七曰眚禮。……」注「鄭司農云，……眚禮，掌客職所謂『凶荒殺禮』者也，……。玄謂，……，眚禮謂殺吉禮也，……。」釋文「眚禮，所景反，注同。」阮元校勘記「七曰眚禮，唐石經諸本同，監本毛本閩誤靑，閩本誤靑，注及疏準此。」
孫詒讓疏「云『眚禮，掌客職所謂凶荒殺禮者也』者，葉鈔釋文引注眚作省。阮元云，『注訓殺禮，明眚爲省殺之意，故經作眚，注作省。陸所見注是省禮。今本注皆改作「眚禮」，非。』 案，阮説是也。此經作眚，注作省，蓋亦經用古字，注用今字之例。眚即省之借字。釋名釋天云，『眚，省也』。公羊僖二十二年何注云『殺，省也』。是眚殺同爲省減之義，故引掌客文爲證。但彼專據省賓禮，故後鄭補其義。賈疏謂後鄭不從先鄭，非。眚，互詳大司馬疏。」

124 夏官・大司馬「馮弱犯寡，則眚之。」注「眚猶人眚瘦也。」釋文「眚，所景反。瘦，所又反。」阮元校勘記「馮弱犯寡則眚之，閩監本眚誤靑，禮説云，靑公羊作省，省與眚通。○按字書韻書無靑字」
呂飛鵬『周禮補注』「眚省古通用字。春秋莊二十年『肆大眚』，公羊作『肆大省』。大司徒眚禮，即省禮。」
孫詒讓疏「云『眚猶人眚瘦也』者，眚即省之叚字。經例作眚，注例作省，大司徒注可證。此疑當作『眚猶人省瘦也』。釋名釋天云，『眚，省也，如病者之省瘦也』，又釋言語云，『省，瘦也，臞瘦約少之言也』。……呂飛鵬云，……，詒讓案，説文女部云，『媤，減云也。』水部云，『渻，少減也。』凡眚瘦・省瘠字，並減少之義，蓋與媤渻，聲義略同。」

125 阮元本十三經注疏に附刻される校勘記では「眚」の字形を誤るテキストもある。注124大司馬校勘記參照。

126 十二篇下女部「娓，順也。从女尾聲。讀若媚。」

たるとし[127]，段玉裁は本字は「媄」で，「媺」はその古文だとする[128]。十三經では『周禮』以外には「媺」の用例はない。前五篇の經文には「美」は見えず，「媺」は8例[129]で，注があればすべて「美」に作る。例外なしの「經用古字，注用今字」である。ただし，考工記は輈人の1例のみ「媺」に作る[130]が，残りの4例はすべて「美」に作る[131]。孫詒讓は，「經記字例之異」とは考えず，4例の「美」の方を字例に合わないとして，誤りであろうとする。

(24)媚・姻

「媚」は「姻」の籀文である[132]。『周禮』經文に「姻」は見えず，「媚」は3例[133]見える[134]。注

---

127 錢大昕『十駕齋養新録』巻二・媺「『師氏掌以媺詔王』，媺古美字。此字不見説文，非漏落也。古文微與尾通。堯典『孳尾』，史記作『字微』。論語『微生畝』，漢書作『尾生晦』，媺从微，當與娓通。詩『誰侜予美』，韓詩美作娓，説文女部有娓字，則該乎媺矣。」

128 『説文』十二篇下女部「媄，色好也。从女美聲。」段注「按凡美悪字可作此，周禮作媺，蓋其古文。」なお，「美」は『説文』四篇上羊部に見え，「甘也」。

129 地官・大司徒「以本俗六，安萬民。一曰媺宮室，二曰族墳墓，三曰聯兄弟，四曰聯師儒，五曰聯朋友，六曰同衣服。」注「美，善也。」孫詒讓疏「云『美，善也』者，士喪禮注同。經作媺，注作美者，亦經用古字，注用今字之例也。廣韻五旨云，『美媺同』。錢大昕云，……，案錢説是也。説文女部云，『娓，順也。』順善義亦相近。」

地官・師氏「師氏掌以媺詔王。」（注「告王以善道也。」）孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

地官・鄙師「以時數其衆庶，而察其媺惡而誅賞。」孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

地官・旅師「凡新甿之治皆聽之，使無征役，以地之媺惡為之等。」注「以地美惡為之等，七人以上授以上地，六口授以中地，五口以下授以下地，與舊民同。」孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

地官・土均「以和邦國、都鄙之政令、刑禁與其施舍、禮俗喪紀祭祀。皆以地媺惡為輕重之灋而行之，掌其禁令。」（注「君子行禮，不求變俗，隨其土地厚薄，為之制豐省之節耳。」）孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

春官・天府「季冬陳玉，以貞來歲之媺惡。」注「問歲之美惡謂問於龜。」孫詒讓疏「媺美古今字，凡經作媺者，注並作美，詳大司徒疏。」

秋官・職金「辨其物之媺惡與其數量，楬而璽之。」孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

秋官・行夫「行夫掌邦國傳遞之小事，媺惡而無禮者。」注「美，福慶也。惡，喪荒也。」孫詒讓疏「媺，古美字，詳大司徒疏。」

130 冬官・輈人「軸有三理。一者以為媺也。二者以為久也。三者以為利也。」（注「無節目也。」）孫詒讓疏「媺美古今字，大司徒『媺宮室』，注云『美，善也』。」

131 冬官考工記「天有時，地有氣，材有美，工有巧。合此四者，然後可以為良。材美工巧，然而不良，則不時，不得地氣也。……燕之角、荊之幹、妢胡之笴、吳粵之金錫，此材之美者也。」孫詒讓疏「『材有美』者，前經五篇，凡美字並用古字作媺，輈人經同。惟此及弓人作美，與字例不合，疑誤。」

冬官・弓人「材美、工巧為之時，謂之參均。」

132 『説文』十二篇下女部「姻，壻家也。女之所因，故曰姻。从女从因，因亦聲。媚，籀文姻从㒸。」

133 地官・大司徒「以鄉三物教萬民而賓興之。……二曰六行，孝、友、睦、媚、任、恤。……以鄉八刑糾萬民。一曰不孝之刑。二曰不睦之刑。三曰不媚之刑。……」注「姻，親於外親。」孫詒讓疏「説文女部云，……，此經作媚，注作姻，蓋亦經用古字，注用今字之例。」

地官・族師「月吉，則屬民而讀邦法，書其孝弟、睦媚、有學者。」

134 他の十二經に「媚」は見えず，『爾雅』釋親に「壻之父為姻」「婦之父母、壻之父母相謂為婚姻」「壻之黨為姻兄弟」「婚姻」などすべて「姻」に作るほか，「姻」は『毛詩』周南・桃夭、鄘風・蝃蝀、鄭風・丰、唐風・綢繆、陳風・東門之楊、小雅・我行其野、節南山、正月、角弓、『儀禮』士喪禮、『禮記』大傳、樂記、經解、哀公問、『左傳』隱公傳元年、僖公傳五年、二十二年、二十五年、文公傳二年、成公傳十三年、襄公傳二十三年、二十五年、二十六年、二十九年、昭公傳五年、九年、二十五年、定公傳十三年、哀公傳三年、十五年、『穀梁傳』莊公元年に見える。

に「媚」は見えず，すべて「姻」に作る[135]。例外のない「經用古字，注用今字」の例である。

(25)匷・柩

『説文』に據れば，「匷」は「柩」の籀文である[136]。『周禮』經文には「匷」は6例[137]見えるが「柩」は見えず，逆に注には「柩」のみで「匷」は見えない[138]。これも例外のない「經用古字，注用今字」の例である。

(26)囍・艱

『説文』に據れば，「囍」は「艱」の籀文である[139]。『周禮』經文には「艱」は見えず，「囍」が2例[140]あり[141]，注は概ね「艱」に作る[142]が，阮元本では鄉師の注1例のみ「囍」に作る。阮元

---

135 經文に「媚」が見えない箇所の注も以下の通り，すべて「姻」に作る。
天官・大宰「以八則治都鄙，……六曰禮俗，以馭其民。……」注「禮俗，昏姻喪紀，舊所行也。」
地官・大司徒「因此五物者民之常，而施十有二教焉。……，三曰，以陰禮教親則民不怨。……」注「陰禮謂男女之禮，昏姻以時，則男不曠女不怨。」
地官・大司徒「以本俗六安萬民。……三曰聯兄弟。……」注「兄弟，昏姻嫁娶也。」
地官・遂人「凡治野以下劑致甿，以田里安甿，以樂昏擾甿，以土宜教甿稼穡，以興耡利甿，以時器勸甿，以疆予任甿，以土均平政。」注「樂昏，勸其昏姻，如媒氏會男女也。」
春官・大宗伯「以飲食之禮親宗族兄弟。」注「大傳曰，……百世而昏姻不通者周道然也。」
春官・大宗伯「以賀慶之禮親異姓之國。」注「異姓，王昏姻甥舅。」
司儀「詔王儀。南鄉見諸侯，土揖庶姓，時揖異姓，天揖同姓。」注「庶姓，無親者也。……異姓，昏姻也。……」
136 『説文』十二篇下匚部「柩，棺也。从匚从木久聲。(段注本は「匜，棺也。从匚久聲。柩，匜或从木。匷，籀文从舊。」) 匷，籀文柩。」
137 地官・鄉師「及葬，執纛以與匠師御匷而治役。」注「雜記曰，升正柩，諸侯執綍五百人，四綍皆銜枚。司馬執鐸，左八人，右八人。匠人執翣以御柩。……鄭司農云，……以指麾輓柩之役，正其行列進退。」孫詒讓疏「云『以與匠師御匷而治役』者，説文匚部云，……，案經作匷，注並作柩，亦經用古字，注用今字之例。」
春官・大師「大喪，帥瞽而廞。作匷，諡。」孫詒讓疏「匷，籀文柩，詳鄉師疏。」
春官・喪祝「及朝，御匷，乃奠。」注「鄭司農云，朝謂將葬朝於祖考之廟而後行，則喪祝爲御柩也。」孫詒讓疏「云『則喪祝爲御柩也』者，經作匷，注作柩，亦經用古字，注用今字之例，詳鄉師疏。」
春官・喪祝「及葬，御匷，出宮乃代。」
春官・巾車「小喪，共匷路與其飾。」注「柩路，載柩車也。」阮元校勘記「柩路載柩車也，余本、岳本、嘉靖本同。閩、監、毛本依經改匷路，非。疏中標起訖及引注準此。○按此亦經作古字，注作今字之一證。」孫詒讓疏「注云『柩路，載柩車也』者，經作匷，注作柩，阮元云，此亦經作古字，注作今字之例，是也。詳鄉師疏。」
夏官・方相氏「大喪，先匷。」
138 巾車注が「匷」に作るテキストもあるというが，阮元は非とする。巾車校勘記參照。
139 『説文』十二篇下堇部「艱，土難治也，從堇艮声，囍，籀文艱从喜。」段注「必有喜悅之心，而後不畏其艱，而後無不治也。故从喜，此字見周禮。」
140 地官・鄉師「以歲時巡國及野，而賙萬民之囍阨，以王命施惠。」注「囍阨，飢乏也。」釋文「之囍，古艱字，本亦作艱。」阮元校勘記「而賙萬民之囍阨，釋文，……，案經當作囍，注當作艱。」孫詒讓疏「釋文云，……，阮元云，……，案阮説是也。」
地官・遺人「掌邦之委積，以待施惠，鄉里之委積，以恤民之囍阨，門關之委積，以養老孤，郊里之委積，以待賓客，野鄙之委積，以待羇旅，縣都之委積，以待凶荒。」注「艱阨猶困乏也。……故書艱阨作撙阨，……杜子春云，撙阨當爲艱阨，……。」釋文「作撙，音艱，又音謹。」阮元校勘記「艱阨猶困乏也，宋本、岳本、

は釋文に「艱」に作るテキストがあるとすることから，「經當作囏，注當作艱」とする。孫詒讓は阮説を是とし，遺人の疏でも，注が「囏」に作るテキストを「俗本」と呼び非とする。

(27)馭・御

『説文』では，「馭」は「御」の古文である[143]。しかし，『周禮』經文では，「馭」が40例、「御」が21例あるが，一部を除いて二字の使い分けははっきりしている。孫詒讓も大司徒の疏でいうように，大雑把にいえば，「馭」は「馭車」の「馭」、「御」は「侍御」の「御」に用いられるのである。實際，「馭」40例は車馬を御する意味やその引申義に用いられており[144]，「女

嘉靖本同，閩、監、毛本艱作囏，下同。按此亦段玉裁經用古字，注用今字之證 。」「故書艱阨作撘阨，釋文作撘，音艱，又音謹。宋本、閩、監、毛本作撘，岳本、嘉靖本作槿，宋本載音義作僅，皆非。」
孫詒讓疏「云『艱阨猶困乏也』者，……，經作囏注作艱者，阮元云，『亦經用古字，注用今字之證』，……云『故書囏阨作撘阨，……杜子春云，撘阨當爲囏阨，……』者，段玉裁云，……，詒讓案，子春易經字爲囏，而注仍作艱者，亦用今字也。俗本注亦作囏，非。」

141 他の十二經には「囏」は見えず，『爾雅』釋詁下に「阻、艱，難也」と「艱」に作るほか，『周易』『尚書』『毛詩』『儀禮』『左傳』も「艱」に作る。

142 遺人の注のほか，經文に「囏」が見えない箇所も注は「艱」に作る。地官・旅師「而用之以質劑致民，平頒其興積，施其惠散其利，而均其政令。」注「若用之謂恤民之艱阨。」、地官・司稼「掌均萬民之食而賙其急而平其興。」注「均謂度其多少。賙稟其艱阨興所徵賦。」

143 『説文』二篇下彳部「御，使馬也。从彳从卸，馭，古文御，从又馬。」

144 天官・大宰「以八則治都鄙，一曰祭祀，以馭其神。二曰灋則，以馭其官。三曰廢置，以馭其吏。四曰祿位，以馭其士。五曰賦貢，以馭其用。六曰禮俗，以馭其民。七曰刑賞，以馭其威。八曰田役，以馭其衆。以八柄詔王馭羣臣，一曰爵，以馭其貴。二曰祿，以馭其富。三曰予，以馭其幸。四曰置，以馭其行。五曰生，以馭其福。六曰奪，以馭其貧。七曰廢，以馭其罪。八曰誅，以馭其過。以八統詔王馭萬民，……。」注「凡言馭者，所以敺之内之於善。」孫詒讓疏「云『凡言馭者，所以敺之内之於善』者，……，案，説文彳部云，……，大戴禮記盛德篇云，『德法者，御民之銜勒也。吏者，轡也。刑者，筴也。天子，御者。内史、太史，左右手也。』晏子春秋諫下篇云『禮者所以御民也，轡者所以御馬也。』蓋使馬之策敺之使行，引申之，凡有所敺使皆曰御。經例，凡言馭者，並有予奪勸懲之誼。……」
地官・保氏「而養國子以道，乃教之六藝。……四曰五馭，……」注「五馭，鳴和鸞、逐水曲、過君表、舞交衢、逐禽左。」釋文「五馭，音御。」
夏官「大馭，中大夫二人」注「馭之最尊。」釋文「大馭，音御。」
夏官「馭夫，中士二十人，下士四十人。」
夏官・大僕「王出入，則自左馭而前驅。」注「前驅，如今道引也。道而居左自馭不參乘，辟王也。亦有車右焉。」
夏官・大馭「掌馭王路以祀。及犯軷，王自左馭，馭下祝。登，受轡犯軷遂驅之。」注「王由左馭，禁制馬使不行也。」
夏官・大馭「凡馭路，行以肆夏，趨以采薺。」注「凡馭路謂五路也。」
夏官・大馭「凡馭路儀，以鸞和為節。」
夏官・戎僕「掌馭戎軍。」
夏官・齊僕「掌馭金路以賓。」
夏官・道僕「掌馭象路。」
夏官・田僕「掌馭田路，以田以鄙。」
夏官・馭夫「掌馭貳車、從車、使車。」
夏官・校人「凡頒良馬而養乘之。乘馬一師四圉。三乘為皁。皁一趣馬。三皁為繫。繫一馭夫。六繫為廐。廐一僕夫。六廐成校。校有左右。駑馬三良馬之數。麗馬一圉。八麗一師。八師一趣馬。八趣馬一馭夫。」注「玄謂……師、趣馬、馭夫、僕夫，帥之名也。……馭夫，中士。……駑馬自圉至馭夫，凡馬千二十四匹。……

御」(5例)[145]、「御僕」(3例)[146]「御史」(2例)[147]「九御」(2例)[148]「御敘」(2例)[149]「御庶子」(1例)など「御」17例は「侍御」の「御」である。また，3例見える「御匱」および柩を御するの「御」[150]は「侍御」の「御」ではないが，喪祝の疏[151]によると，柩を御正することも含み，車を馭する「馭」とは異なるという。残り2例，大司徒の「五御」[152]は保氏では「五馭」に作り[153]，冬官輈人の「終歳御」[154]も車の事をいうもので，いずれも「馭車」の「馭」である。孫詒讓は「五御」はテキストの誤りとし，「終歳御」は「經記字例之異」とする。

(28)毄・繫

孫詒讓は略例において「毄」「繫」を古今字の例に舉げるが，今本『周禮』では冬官にのみ見える「毄」2例[155]は「繫」でなく「擊」の意である[156]。前五篇に「毄」はなく，「繫」が14

師十二匹，趣馬七十二匹，則馭夫四百三十二匹矣。……」
夏官・校人「冬祭馬步，獻馬講馭夫。」注「馭夫，馭貳車、從車、使車者。講猶簡習。」
夏官・校人「等馭夫之祿」注「馭夫，於趣馬僕夫為中。舉中見上下。」
夏官・趣馬「辨四時之居治，以聽馭夫。」
秋官・條狼氏「凡誓，執鞭以趨於前且命之。誓僕右曰殺。誓馭曰車轘。誓大夫曰敢不關，鞭五百。誓師曰三百。誓邦之大史曰殺。誓小史曰墨。」注「出軍之誓，誓左右及馭，則書之甘誓備矣。」

145 天官序官「女御，女祝四人，奚八人，……内司服，奄一人，女御二人，奚八人。……縫人奄二人，女御八人，女工八十人。」、女御「掌御敘于王之燕寢。」、縫人「掌王宮之縫線之事，以役女御，以縫王及后之衣服。」

146 夏官序官「大僕。……祭僕。…御僕。下士十有二人，府二人，史四人，胥二人，徒二十人。」注「僕，侍御於尊者之名。大僕其長也。」夏官・御僕「御僕掌羣吏之逆及庶民之復與其弔勞。」夏官・大僕「以待達窮者與遽令。聞鼓聲則速逆御僕與御庶子。」

147 春官「御史。中士八人，下士十有六人，其史百有二十人，府四人，胥四人，徒四十人。」注「御猶侍也，進也。」春官・御史「御史掌邦國都鄙及萬民之治令，以贊冢宰。」

148 天官・内宰「以婦職之灋教九御，使各有屬以作二事。」注「九御，女御也。九九而御于王，因以號焉。使之九九爲屬，同時御，又同事也。」天官・九嬪「掌婦學之灋，以教九御婦德、婦言、婦容、婦功，……」

149 天官・女御「掌御敘于王之燕寢。」天官・九嬪「各帥其屬而以時御敘于王所。」

150 地官・鄉師「及葬，執纛以與匠師御匱而治役。」注「匠人執翿以御柩。」
春官・喪祝「及朝，御匱，乃奠。」注略（匱項参照）
春官・喪祝「及祖，飾棺，乃載，遂御。」注「鄭司農云，……，祖時，喪祝主飾棺乃載，遂御之，喪祝爲柩車御也。……玄謂，……其序載而後飾，既飾當還車，鄉外喪祝御之。御之者，執翿居前，卻行爲節度。」
孫詒讓疏「云『遂御之，喪祝爲柩車御也』者，既夕禮云『商祝御柩』。商祝、喪祝也。前朝廟遷柩，用輴不用車，此既載則柩在車，故云爲柩車御。御亦謂御正柩，與凡馭車異。」
春官・喪祝「及葬，御匱，出宮乃代。」注略（匱項参照）

151 前注参照。

152 地官・大司徒「以鄉三物教萬民而賓興之。一曰六德，知、仁、聖、義、忠、和。二曰六行，孝、友、睦、婣、任、恤。三曰六藝，禮、樂、射、御、書、數。」注「御，五御之節。」
孫詒讓疏「云『三曰六藝，禮、樂、射、御、書、數』者，與保氏同。御，羣書治要引作馭，與保氏『五與馭』字同，是也。此經例，凡馭車字作馭，侍御字作御，二字較然不同，石經及宋以来刻本並誤。」

153 注144参照。

154 冬官・輈人「終歳御，衣衽不敝。」孫詒讓疏「前經例馭車字作馭，此作御，疑亦經記字例之異。」

155 冬官・廬人「毄兵同強，舉圍欲細。」注「改句言毄容殳無刃。同強，上下同也」
孫詒讓疏「毄擊義同，亦古今字。前經五篇，如方相氏……，宮正……，大師、小師等……，字並作擊。而毄見司門、占人、校人釋文，則並以爲繫字，亦經記字例之異。但此記梓人『擊其所縣』，字兩見，亦作擊，未

例[157]、「擊」が12例[158]あり，「繫」はかけるの意、「擊」は（打樂器を）うつ意である。「擊」は考工記梓人にも1例[159]見える。『周禮』では，かけるの意では「繫」を，うつの意では前五篇は「擊」を用い，考工記は「殺」「擊」を併用していることになる。孫詒讓は，司門、占人、校人の釋文が阮元本の「擊」を「殺」に作ることや『漢書』景帝紀顔師古注の「殺，古繫字」などから，「殺」「繫」を古今字と判斷するのである。考工記に關しては，「經記字例之異」で説明しようとするが，「擊」が1例あることにより「未だその義例を審かにせず」と判斷を保留している。

(29)敏・叩

「敏」[160] は，十三經では『周禮』司關に1例[161]見えるのみである。「叩」は『説文』には見え

審其義例也。」
冬官・弓人「和弓殺摩。」注「和猶調也。殺，拂也。將用弓必先調之拂之摩之。」
孫詒讓疏「殺擊字通，詳廬人疏。」

156 『説文』の各字の説解は以下の通り。
三篇下殳部「殺，相擊中也。如車相擊。故从殳朁。」、十三篇上糸部「繫，繫緄也。一曰惡絮。从糸殺聲。」、十二編上手部「擊，支也。从手殺聲。」。
なお，孫詒讓が大宰疏で「繫」の正字とする「系」は，十二篇下系部に「系，繫也。从糸丿聲。」，司門疏で「繫」の正字とする「係」は八篇上人部に「係，絜束也。从人系聲。」

157 天官・大宰「以九兩繫邦國之民。」注「繫，聯綴也。」この注について孫詒讓は，廣雅釋詁の「聯、綴、系，連也」，説文糸部の「繫」「系」の説解を引き，「凡連綴字，當作系，經通叚繫爲之」とする。
地官・牧人「凡祭祀共其犧牲，以授充人繫之。凡牲不繫者共奉之。」
孫詒讓疏「『以授充人繫之』者，繫，疑當作殺，下同，詳司門疏。」
地官・充人「掌繫祭祀之牲牷。祀五帝，則繫于牢芻之三月。享先王亦如之。凡散祭祀之牲，繫于國門使養之。」
孫詒讓疏「『掌繫祭祀之牲牷』者，繫，疑當作殺，下同，詳司門疏。」
地官・司門「祭祀之牛牲繫焉，監門養之。」釋文「殺，音計，本又作繫。」阮元「唐石經諸本同，釋文繫作殺，云本又作繫，案古繫字多作殺，易繫辞，本作殺。」孫詒讓疏は『説文』「殺」「繫」「係」の説解を引き「凡繫縛字，正字當作係，殺繫並聲近假借字。此職及占人、校人繫字，釋文並作殺，疑經系束字本作殺，與大宰『繫聯』瞽矇、小史『世繫』字爲系之假字異，注則皆作繫字。漢書景帝紀『農桑殺畜』，顔注云『殺謂食養之。殺，古繫字。』蓋漢以後繫字通行，殺繫又爲古今字。此經作殺，注作繫，亦經用古字注用今字之例也。廬人、弓人又以殺爲擊，考工記字例與經不同也。」
春官・肆師「大祭祀，展犧牲繫于牢，頒于職人。」
春官・瞽矇「諷誦詩世奠繫，鼓琴瑟。」
春官・占人「凡卜筮，既事則繫幣以比其命。」釋文「則殺，音係。」
春官・小史「掌邦國之志，奠繫世，辨昭穆。」
夏官・校人「凡頒良馬而養乘之。乘馬一師四圉。三乘為皁。皁一趣馬。三皁為繫。繫一馭夫。六繫為廐。廐一僕夫。……」釋文「為殺，音計，本又作繫。」

158 天官・宮正「夕擊柝而比之。」
春官・大師「大祭祀，帥瞽登歌，令奏擊拊。」
春官・小師「大祭祀，登歌擊拊，下管擊應鼓。」
春官・瞽矇「擊頌磬笙磬。」
春官・磬師「磬師掌教擊磬，擊編鍾」
春官・籥章「中春，晝擊土鼓。……，擊土鼓，……擊土鼓。」
夏官・方相氏「以戈擊四隅。」

159 冬官・梓人「擊其所縣而由其虡鳴。……故擊其所縣而由其虡鳴。」

160 『説文』三篇下支部「敏，擊也。」

161 地官・司關「凡四方之賓客，敏關則為之告。」注「敏關猶謁關人也。」疏「案小行人云，凡諸侯入，王則逆勞於畿，聘禮使者至謁關人，此經亦揔云賓客敏關則為之告。是以鄭云謂朝聘者也。云叩關猶謁關人者，猶聘

ないが，『周禮』注には數見する[162]。孫詒讓は，テキストに異同があることや典同注[163]などが「叩」に作ることを根據に，漢には既に「叩」字があったとし，注は今字の「叩」を用いるべきだと考え，阮元本では「敏」に作る司關の注を「叩」に改める[164]。

(30)彊・強

「彊」「強」「勞」は同音で，『説文』の説解はそれぞれ「弓有力」「蚚」「迫」である[165]。つまり，「彊」はつよいという意味の本字，「強」は虫名，「勞」はしいるという意味の本字である。『周禮』經文には「彊」は2例、「強」は10例見えるが，前五篇と考工記で用字法が異なる。考工記には，「彊」は見えず，すべて「強」に作る[166]。前五篇の「彊」2例[167]はいずれも「有力」

禮關人也。」釋文「敏，音叩，苦狗反。」校勘記「敏關猶謁關人也，宋本嘉靖本敏作叩，案賈疏引注作叩關，是注本用叩字，此仍依經改敏，非。○按叩乃俗字，古祇作敏，不當云經敏注叩也。」釋文「敏，音叩，苦狗反。」

162 例えば，大司樂 「凡樂事，大祭祀宿縣，遂以聲展之」注「叩聽其聲，具陳次之，以知完不。」、典同「凡聲，……，薄聲甄，厚聲石。」注「鍾微薄則聲掉，鍾大厚則如石，叩之無聲。」、大祝「辨九拜，一曰稽首，二曰頓首，……」注「頓首，拜頭叩地也」。そのほか，テキストに異同はあるが，田僕注に「使人叩而舉之」，また肆師注の『公羊傳』僖十九年傳の引用中に「蓋叩其鼻以衈社也」など。「叩」は『禮記』學記、聘義、『公羊傳』『穀梁傳』僖公傳十九年、『論語』子罕、憲問、『孟子』離婁下、盡心上などの經典にも見える。

163 前注參照。

164 孫詒讓疏「『叩關猶謁關人也』者，叩，敏之俗。宋岳本、董本及注疏本並作敏。今從宋婺州本、建本、互注本、嘉靖本，與賈疏同。典同注亦作叩。疑漢時已有此字，注例用今字，不必與經同也。」

165 『説文』十二篇下弓部「彊，弓有力也。从弓畺聲。」段注「引申爲凡有力之稱。又叚爲勞迫之勞。」、十三篇上虫部「強，蚚也。从虫弘聲。」段注「叚借爲彊弱之彊。」、十三篇下力部「勞，迫也。从力强聲。勞，古文从彊。」段注「勞與彊義別，彊者有力，勞者以力相迫也。凡云勉勞者，當用此字。今則用強彊而勞勞廢矣。」なお，阮元本十三經では『禮記』『左傳』（注169參照）などのように「彊」を「疆」に作るテキストがあるが，「疆」は「界也」と釋される「畺」（『説文』十三篇下畕部）の或體である。

166 梓人の例を除き，すべて「有力」の意。輪人 「凡輻。量其鑿深以為輻廣。……鑿深而輻小。則是固有餘而強不足也。……」、矢人「前弱則俛。後弱則翔。中弱則紆。中強則揚。羽豐則遲。羽殺則趮。」、梓人 「祭侯之禮，以酒脯醢。其辭曰，惟若寧侯，毋或若女不寧侯不屬于王所，故抗而射女，強飲強食，詒女曾孫諸侯百福。」、廬人「殼兵同強，舉圍欲細，細則校。刺兵同強，舉圍欲重，重欲傅人，傅人則密，是故侵之。」注「同強，上下同也。」、弓人「夫目也者必強。強者在內而摩其筋。夫筋之所由幨，恒由此作。」「弓有六材焉。維幹強之，張如流水。」

167 地官・遂人「凡治野以下劑致甿，以田里安甿，以樂昏擾甿，以土宜教甿稼穡，以興耡利甿，以時器勸甿，以彊予任甿，以土均平政。」注「彊予謂民有餘力，復予之田，若餘夫然。」孫詒讓疏「詩周頌載芟篇 『侯彊侯以』，毛傳云，『彊，彊力也。以，用也。』鄭箋云『強，有餘力者』，引周禮曰『以彊予任甿』，以謂閒民今時傭賃也春秋之義能東西之……又案，詩箋宋本彊作強，疑此注例用今字，亦當作強，詳草人疏。」
地官・草人「凡糞種，騂剛用牛，赤緹用羊，墳壤用麋，渴澤用鹿，鹹潟用貆，勃壤用狐，埴壚用豕，彊檃用蕡，……。」注「強檃，強堅者。」校勘記「彊檃用蕡，唐石經、宋本、余本、嘉靖本同，閩監毛本彊作疆，注及疏同。案釋文、羣經音辨皆誤作疆，從土。宋本載音義作彊，不誤。」「強檃強堅者，宋本同，嘉靖本作彊檃強堅者。」孫詒讓疏「云『彊檃用蕡』者，彊檃，釋文作疆檃，……俗注疏本彊又作疆，羣經音辨同。嚴可均云，『釋文…，轉寫之誤，疆不得音「其兩」也。月令「可以美土彊」，鄭彼注引作「強檃」。強與彊同，蓋讀如倔強之強，故此注爲彊堅者矣。』案嚴説亦是也。……云『疆檃，強堅者』者，宋本及注疏本彊作強，宋婺州本強又作彊，未知孰是。惟嘉靖本述經作彊，釋義作強，今姑從之。……又案，此以強堅釋彊檃，經注字異。月令注強檃字同。攷説文弓部，……，今字並作強。通校全經六篇，遂人『彊予』字，經注並作彊。司諫『強之道藝』，車人『強不足』，弓人『目也者必強，強者在內』，『維幹強之』，經注並作強。梓人『強飲強食』經同。掌次、禁暴氏、輿人注亦並作強。諸文錯出，必有譌舛。以意求之，疑此及司諫、遂人皆當經作彊，注作強，即經用古字，注用今字之例。惟考工記字例，與五官不甚同，或自作強，則未可定耳。」

の意で，「強」1例[168]は注に「猶勸也」というように，しいるという意味である。例は少ないものの，前五篇の經文では，つよいの意では本字「彊」を，しいるの意では假借字「強」を用いるということになるが，注の用字は一定せず，遂人は經と同じく「彊」に作り[169]，草人注は「強」に作る。孫詒讓は，今のテキストには混亂があるが，前五篇の經文では意味に關らず「彊」に作り，注は「強」に作るべきで，「經用古字，注用今字」の例であるとし，考工記については，前五篇とは「字例」が異なると考え，その原則は適用しない。

(31)簭・筮

「簭」の本義はくらう、かむなどの意で[170]，「筮」の本義は「易卦用蓍」[171]，つまり筮竹の筮である。『周禮』經文には「筮」は見えず，「簭」は12例見える[172]。12例のうち，考工記の梓人の例のみ本義で用いられ，11例は春官の占卜の官の名や職掌を述べる箇所に見え，すべて「筮」の假借である[173]。孫詒讓の指摘するように，かむ、かじるの意では經は「簭」に，注は「噬」

---

168 地官・司諫「司諫掌糾萬民之德而勸之。朋友正其行而強之。道藝巡問而觀察之。以時書其德行道藝。辨其能而可任於國事者。」注「強猶勸也。」

169 宮正注の『禮記』文王世子引用、大司徒注『左傳』成公二年傳引用も「彊」に作る。ただし，今本『禮記』『左傳』は「疆」に作る。

170 『説文』二篇上口部「噬（段注は「簭」に作る），啗也，喙也。从口筮聲。」段注「周禮梓人攫鰍援簭，正作簭，……，又周禮卜筮字皆作簭，此則假借也。」

171 『説文』五篇上竹部「筮，易卦用蓍也。从竹从弜，弜，古文巫字。」

172 他の十三經に「簭」は見えず，「筮」は『周易』、『尚書』、『毛詩』、『儀禮』、『禮記』、『左傳』、『爾雅』などに見える。

173 春官序官「簭人。中士二人，府一人，史二人，徒四人。」注「問蓍曰筮。其占易。」
孫詒讓疏「案，筮即簭之隷省。簭爲梓人『攫鰍援簭』字，蓋噬之別體，此叚爲蓍筮字。經作簭，注並作筮，亦經用古字，注用今字之例也。」
春官・占人「掌占龜。以八簭占八頌，以八卦占簭之八故，以眡吉凶。」注「占人亦占筮。言掌占龜者，筮短，龜長，主於長者。以八簭占八頌謂將卜八事，先以筮筮之。言頌者同於龜占也。以八卦占筮之八故謂八事不卜而徒筮之也。其非八事，則用九筮。占人亦占焉。」孫詒讓疏「注云『占人亦占筮，……，筮短，……』者，此亦注用今字作筮也。」
春官・占人「凡卜簭，君占體，大夫占色，史占墨，卜人占坼。……凡卜簭，既事，則繫幣以比其命。歲終，則計其占之中否。」注「玄謂，既卜筮，史必書其命龜之事及兆於策，繫其禮神之幣而合藏焉。」
春官・簭人「掌三易，以辨九簭之名。一曰連山，二曰歸藏，三曰周易。九簭之名，一曰巫更，二曰巫咸，三曰巫式，四曰巫目，五曰巫易，六曰巫比，七曰巫祠，八曰巫參，九曰巫環，以辨吉凶。」注「此九巫讀皆當爲筮，字之誤也。更謂筮遷都邑也。咸猶僉也，謂筮衆心歡不也。式謂筮制作法式也。目謂事衆筮其要所當也。易謂民衆不説筮所改易也。此謂筮與民和比也。祠謂筮牲與日也。參謂筮御與右也。環謂筮可致師不也。」賈疏「此筮人掌筮，不主巫事，故從筮也。」
段玉裁『周禮漢讀考』巻六「筮之古文作簭，巫之古文作弜，蓋故書脱竹頭，今書又改爲小篆之巫矣。」孫詒讓疏「注云『此九巫讀皆當爲筮，字之誤也』者，此亦注用今字作筮也。下同。賈疏云，……，段玉裁云，……，案段説是也。鄭意巫皆簭之壞字。」
春官・簭人「凡國之大事，先簭而後卜。」注「當用卜者先筮之。即事漸也。於筮之凶則止不卜。」
春官・簭人「上春相簭。凡國事共簭。」
冬官・梓人「凡攫鰍援簭之類，必深其爪，出其目，作其鱗之而。」疏「攫鰍者，攫著則殺之，援攬則噬之。」
孫詒讓疏「詒讓案，……，廣雅釋詁云，『…，簭，齧也。』簭噬字同。春官以爲卜筮字，彼爲叚借，此用本義也。山師注作噬。簭噬古今字，詳春官序官疏。」

に作り，占筮の意では，經は假借字の「簭」，注は本字の「筮」に作る。どちらも例外なく「經用古字，注用今字」である。

(32)飄・風

『玉篇』、『九經字様』は「飄」を「風」の古文とするが，『周禮』大宗伯「飄師」[174] しか用例のない字である。大宗伯注では「風師」に作り，『周禮』經文でも，かぜ[175]、詩の六義の一[176]は「風」に作る。孫詒讓は『九經字様』が「飄」を「風」の古文とすること，『周禮』全編にわたって風雨の風はみな「風」に作り，「飄師」のみ「飄」に作ることを指摘し，「飄」については，構成要素「雚」は六書にも合わず（聲符でも義符でもなく），「未だ詳らかならざる所」だとする[177]。

(33)果・祼

「果」は「木實」の本字[178]で，「祼」は「灌祭」の本字[179]である。『周禮』經文には「果」が10例，「祼」が22例見え，「祼」はすべて本義で用いられている[180]が，「果」が本義で用いられる

---

174 春官・大宗伯「以禋祀祀昊天上帝，以實柴祀日月星辰，以槱燎祀司中司命飄師雨師。」注「鄭司農云……，風師箕也。雨師畢也。」

175 地官・大司徒「以土圭之灋，測土深，正日景以求地中。日南則景短多暑。日北則景長多寒。日東則景夕多風。日西則景朝多陰。日至之景尺有五寸，謂之地中。天地之所合也。四時之所交也。風雨之所會也。陰陽之所和也。」

春官・小祝「小祝，掌小祭祀將事，侯、禳、禱、祠之祝號，以祈福祥，順豐年，逆時雨，寧風旱，彌栽兵，遠辠疾。」

春官・保章氏「以十有二風，察天地之和，命乖別之妖祥。」

冬官・矢人「則雖有疾風，亦弗之能憚矣。」

176 春官・大師「教六詩，曰風，曰賦，曰比，曰興，曰雅，曰頌。」

177 大宗伯の疏。原文は「飄師者，九經字様虫部云，飄，古文風，全經六篇，風雨字皆作風，惟風師字作飄。説文無此字，从雚，與六書例亦不合，所未詳也。」

178 『説文』六篇上木部「果，木實也，从木象果形在木之上。」段注「引伸假借爲誠實勇敢之偁。」

179 『説文』一篇上示部「祼，灌祭也。从示果聲。」

180 天官・小宰「凡祭祀贊王幣爵之事、祼將之事。」注「又從大宰助王也。將，送也。祼送，送祼。謂贊王酌鬱鬯以獻尸謂之祼，祼之言灌也。明不為飲主以祭祀。唯人道宗廟有祼，天地大神至尊，不祼莫稱焉。」孫詒讓疏「此經祭祀、賓客之祼，通作祼，亦或借作果。」

同上「凡賓客贊祼、凡受爵之事、凡受幣之事。」注「唯祼助宗伯，其餘皆助大宰。……大宗伯職曰，大賓客則攝而載祼。」校勘記「大賓客則攝而載祼，浦鏜云經作果，注果讀為祼，案鄭既於彼注改讀，故於此引經，竟從其所讀，三禮注皆如是。」

天官・内宰「大祭祀，后祼獻則贊。瑤爵亦如之。」注「謂祭宗廟王。既祼而出迎牲。后乃從後祼也。祭統曰，君執圭瓚祼尸，大宗執璋瓚亞祼。此大宗亞祼謂夫人不與而攝耳。」

同上「凡賓客之祼獻瑤爵，皆贊。」注「祼之禮亞王而禮賓。」

春官・大宗伯「以肆獻祼享先王，以饋食享先王。以祠春享先王，以禴夏享先王，以嘗秋享先王，以烝冬享先王。」注「宗廟之祭有此六享。肆獻祼饋食在四時之上，則是祫也禘也。肆者進所解牲體，謂薦熟時也。獻獻醴，謂薦血腥也。祼之言灌，灌以鬱鬯。……祫言肆獻祼，禘言饋食者，著有黍稷，互相備也。」

春官・鬱人「鬱人掌祼器。」注「祼器謂彝及舟與瓚。」校勘記「掌祼器，唐石經諸本同，按大宗伯小宗伯肆師

のは3例[181]のみで，1例[182]は「誠實勇敢之偁」[183]，1例[184]は「贏」の假借で，残る5例[185]は，すべて「祼」の假借である。孫詒讓は，この5例の「果」について「祼」に讀むとするのみで，經注の用字については是非を論じない。

(34) 鬻・煮

『説文』では，「煑」は「鬻」の或體である[186]。『周禮』經文には「鬻」が4例[187]，「鬻」の誤

三職皆經作果，注作祼，此亦當同，今經不作果者，蓋因注言祼器，淺人遂據注以改經矣。」
春官・鬱人「凡祭祀，賓客之祼事，和鬱鬯，以實彝而陳之。」
同上「凡祼玉濯之陳之，以贊祼事。」注「祼玉謂圭瓚、璋瓚。」
同上「詔祼將之儀與其節。」注「節謂王奉玉送祼早晏之時。」
同上「凡祼事沃盥。……及葬共其祼器，遂貍之。」
春官・鬯人「廟用脩。凡山川四方用蜃。凡祼事用概。凡瓚事用散。」注「祼當爲貍，字之誤也。」
春官・司尊彝「春祠、夏禴，祼用瓚彝鳥彝。……秋嘗、冬烝，祼用斝彝黃彝。……凡四時之間祀，追享、朝享，祼用虎彝蜼彝。……」注「祼謂以圭瓚酌鬱鬯始獻尸也。后於是以璋瓚酌亞祼。……以今祭禮特牲少牢言之，二祼為奠而尸飲七矣。王可以獻諸臣。……尊以祼神，罍臣之所飲也。……」
春官・典瑞「祼圭有瓚，以肆先王，以祼賓客。」注「鄭司農云，於圭頭為器，可以挹鬯祼祭。謂之瓚。故詩曰，卹彼玉鄧，黃流在中。國語謂之鬯圭。以肆先王祼先王祭也。玄謂，……爵行曰祼。」
秋官・大行人「上公之禮執桓圭九寸，……王禮再祼而酢。……諸侯之禮執信圭七寸，……王禮壹祼而酢。……諸子執穀璧五寸，……王禮壹祼不酢。……」注「故書祼作果。鄭司農云，……祼讀為灌，再灌，再飲公也。而酢，報飲王也。……玄謂，……，鬱人職曰，凡祭祀賓客之祼事，和鬱鬯以實彝而陳之。禮者使宗伯攝酌圭瓚而祼。王既拜送爵。又攝酌璋瓚而祼。后又拜送爵。是謂再祼。再祼賓乃酢王也。禮侯伯，一祼而酢者，祼賓，賓酢王而已，后不祼也。禮子男，一祼不酢者，祼賓而已，不酢王也。不酢之禮聘禮禮賓是與。」
孫詒讓疏「云『故書祼作果』者，大宗伯『大賓客，則攝而載果』，祼亦作果，與此故書同。」
冬官・玉人「祼圭尺有二寸，有瓚，以祀廟。」注「注祼之言灌也，或作淉，或作果。祼謂始獻酌奠也。」
181 天官・甸師「祭祀共蕭茅，共野果蓏之薦。」注「果，桃李之屬。蓏，瓜瓞之屬。」
地官・場人「掌國之場圃，而樹之果蓏珍異之物，以時斂而藏之。凡祭祀賓客，共其果蓏。」注「果，棗李之屬。蓏，瓜瓠之屬。珍異，蒲桃枇杷之屬。」
182 春官・大卜「以邦事作龜之八命，一曰征，二曰象，三曰與，四曰謀，五曰果，六曰至，七曰雨，八曰瘳。」注「鄭司農云，……果謂事成與不也。……玄謂，……果謂以勇決為之。」
183 「果」段注の語。注178参照。
184 春官・龜人「掌六龜之屬，各有名物，天龜曰靈屬，地龜曰繹屬，東龜曰果屬，西龜曰靈屬，南龜曰獵屬，北龜曰若屬，各以其方之色與其體辨之。」注「杜子春讀果為贏。」
185 春官・大宗伯「大賓客，則攝而載果。」注「載為也。果讀為祼，代王祼賓客以鬯。」
『周禮漢讀考』巻三「案此古文叚借字也。祼從示果聲，古音在弟十七歌戈部。鄭君云，『祼之言灌』，祼與灌雙聲，非祼音同灌也。」孫詒讓疏「云『果讀為祼』者，祼果聲類同。大行人『王禮再祼而酢』，注亦云『故書祼作果』。段玉裁云，……。」
春官・小宗伯「辨六彝之名物，以待果將。」注「果讀為祼。」孫詒讓疏「云『果讀為祼』者，詳大宗伯疏。」
春官・小宗伯「凡祭祀賓客，以時將瓚果。」校勘記「以時將瓚果，唐石經岳本嘉靖本同。余本閩監毛本果改祼，非。上以待果將注云，果讀為祼。」孫詒讓疏「果亦讀爲祼，詳前疏。」
春官・肆師「祭之日表齍盛，告絜展器陳，告備，及果，築鬻。相治小禮，誅其慢怠者。」注「果築鬻者，所築鬻以祼也。」孫詒讓疏「大宗伯『大賓客，則攝而載果』注云『果讀為祼』。此注直釋爲祼，不改讀者，以彼注已詳，故不復釋。」
春官・肆師「贊果將。」注「酌鬱鬯，授大宗伯載祼。」孫詒讓疏「『贊果將』者，果亦當讀爲祼。」
186 『説文』三篇下鬲部「鬻，亯也。从鬲者聲。煑，鬻或从火。」
187 天官・鹽人「凡齊事，鬻鹽以待戒令。」注「鬻鹽涑治之。」釋文「鬻，音煑。」孫詒讓疏「云『鬻鹽涑治之』者，鬻，注例當作煮，凡注複述經文，亦不用古字。」（上文に「祭祀共其苦鹽散鹽」注「玄謂散鹽鬻水為鹽」孫詒讓疏「云『玄謂散鹽鬻水為鹽』者，釋文於下經鬻鹽，始發音，疑此注鬻字本作煮，注例用今字也。互詳肆師疏。」）
春官・肆師「祭之日表齍盛，告絜展器陳，告備，及果築鬻相治小禮，誅其慢怠者。」注「果築鬻者，所築鬻以祼也。……鄭司農云，築煮，築香草，煮以爲鬯。」釋文「鬻，音煑」孫詒讓疏「云『果築鬻者，所築鬻以祼也』者，……鬻並當作煮。凡經作鬻，注例用今字作煮。先鄭注及後注竝作煮，一職之中先後不宜錯異，足證其誤。亨人、草人、鬱人注亦並作煑，不作鬻。説文以煮爲鬻之或體。詳鹽人疏。」
春官・肆師「凡祭祀禮成則告事畢，大賓客涖筵几築鬻。……大喪大涑以鬯，則築鬻。」注「築香草煮以為鬯，以浴尸。」

りだと思われる「鬻」が1例[188]，「煮」が1例[189]見える。注も「鬻」に作るもの[190]と「煮」に作るもの[191]があり，肆師の注なども「鬻」にも「煮」にも作る。孫詒讓は，「煮」に作る亨人の經文も「鬻」に作る注も字例に合わず，改めるべきだとする。

(35)嘑・呼

『説文』に據れば，「嘑」[192] は呼号（よぶ）の意の本字，「呼」[193] は呼吸の呼の本字である。『周禮』經文では、「嘑」は春官に2例[194]，「呼」は夏官に1例[195]、秋官に2例[196]で3例見えるが，5例ともに呼号の意味である。孫詒讓は，經文の「呼」3例をすべて誤りだと考える。

(36)靁・雷

「靁」[197] はかみなりで，今は「雷」に作る。『周禮』經文では春官（大司樂2例[198]、鼈人1例[199]）は「靁」に作り，地官（鼓人1例[200]）は「雷」に作る。注は春官鼈人のみ「靁」に作り，大司

188 冬官・弓人「鬻膠欲孰而水火相得」（孫詒讓本は「鬻」に作る）釋文「鬻膠，章呂反。」校勘記「鬻膠欲孰而水火相得，嘉靖本同，誤也。唐石經余本閩監毛本鬻作鬻，當據以訂正。」孫詒讓疏「鬻，與鹽人『鬻鹽』之鬻同。」

189 天官・亨人「職外内饔之爨亨煮，辨膳羞之物。」注「爨、今之竈，主於其竈煮物。」孫詒讓疏「凡經亨煮字例作鬻，注乃作煮。此經作煮，與字例亦不合。詳肆師疏。」

190 鹽人、肆師などの注。下文參照。

191 經文に「鬻」が見えない箇所では，天官・亨人「掌共鼎鑊，以給水火之齊」注「鑊，所以煮肉及魚腊之器」、天官・内饔「掌王及后世子膳羞之割亨煎和之事，……」注「亨，煮也」、春官・鬱人「凡祭祀，賓客之祼事和鬱鬯，以實彝而陳之。」注「築鬱金煮之以和鬯酒。鄭司農云，鬱，草名，十葉為貫，百二十貫為築，以煮之鐎中，停於祭前。」、地官・草人「凡糞種，……」注「凡所以糞種者皆謂煮取汁也。」、弓人「鹿膠青白，馬膠赤白，牛膠火赤，鼠膠黑，魚膠餌，犀膠黄。」注「皆謂煮用其皮或用角。」など。

192 二篇上口部「嘑，嘑也。（小徐本、段注本「號也」）从口虖聲。」なお，「號」は，五篇上号部に「號，呼也。从号从虎。」

193 二篇上口部「呼，外息也。从口乎聲。」

194 春官・雞人「大祭祀，夜嘑旦，以䟽百官。」注「夜，夜漏未盡，雞鳴時也。呼旦以警起百官使夙興。」釋文「嘑，火吳反，本又作呼。」孫詒讓疏「『大祭祀，夜嘑旦，以䟽百官』者，釋文云，……。案，説文口部云，嘑，號也，呼，外息也。嘑正字，漢以後經典多叚呼爲之。此經作嘑，注作呼，亦經用古字，注用今字之例也。」春官・巾車「及墓，嘑啟關、陳車。」（注「關墓門也，車貳車也。」）

195 夏官・司士「凡祭祀掌士之戒令，詔相其灋事。及賜爵，呼昭穆而進之。」孫詒讓疏「云『及賜爵，呼昭穆而進之』者，呼，經例用古字，當作嘑，此疑誤，詳雞人疏。」

196 秋官・朝士「帥其屬而以鞭呼趨且辟。」孫詒讓疏「『帥其屬而以鞭呼趨且辟』者，呼，經例當作嘑，此疑誤，詳雞人疏。」

秋官・銜枚氏「禁䟽呼歎嗚於國中者、行歌哭於國中之道者。」孫詒讓疏「呼，經例當作嘑，此疑誤改從今字。」

197 『説文』十一篇下雨部「靁，陰陽薄動靁雨生物者也。从雨，畾象回轉形。」

198 春官・大司樂「凡樂，圜鍾為宮，黄鍾為角，大蔟為徵，姑洗為羽，靁鼓靁鼗，孤竹之管，雲和之琴瑟，雲門之舞，冬日至，於地上之圜丘奏之。」注「鄭司農云，雷鼓雷鼗皆謂六面有革，可擊者也。」

199 春官・鼈人「鼈人掌六鼈之屬。各有名物。天鼈曰靈屬，地鼈曰繹屬，東鼈曰果屬，西鼈曰靁屬，南鼈曰獵屬，北鼈曰若屬。」注「左倪，靁。」孫詒讓「云『左倪，靁』者，大司樂『靁鼓靁鼗』，注並從隷省作雷，此注疑亦當作雷，後人依經改爲靁。」

200 地官・鼓人「以雷鼓鼓神祀。」注「雷鼓，八面鼓也。」孫詒讓疏「云『以雷鼓鼓神祀』者，雷鼓爲鼓名，……，大司樂作『靁鼓』。説文鼓部引周禮同。雷即靁之隷省。此疑當經作靁，注省作雷，與大司樂經注字例同。今本蓋後人依注改經，非其舊也。」

樂、鼓人は「雷」に作る。孫詒讓は大司樂の經注により，龜人注の「靁」を「雷」に，鼓人經の「雷」を「靁」に作るべきだとする。

(37)磬・韶

「磬」[201] の本義は樂器，「韶」[202] の本義は「虞舜の樂」である。『周禮』經文には，「韶」はなく，「磬」は3例（すべて大司樂）[203] 見えるが，注に「舜樂也」というように，いずれも「韶」の假借である[204]。注は經の「磬」について釋する箇所ではやはり「磬」に作るが，經文を引かない場合は「韶」に作る[205]。孫詒讓は，「磬」「韶」は古今字であり，『周禮』の體例では經は「磬」に作り注は今字の「韶」に作るとする。

(38)侑・宥

「侑」は「耦也」の「姷」の或體[206]で，「宥」は「寬也」[207] である。段玉裁は，「助也」「勸也」などは「侑」の引申義で，「宥」に「勸也」という訓があるのは「侑」の假借だとするが，嚴

---

201 『説文』三篇下革部「鞀，鞀遼也。从革召聲。鞉，鞀或从兆。鼗，鞀或从鼓从兆，磬，籀文鞀。从殼召。」段玉裁は「鞀遼也」について「鞀」は衍字で，「遼也」は「鼓，郭也」「琴，禁也」などと同じく聲訓で，遠くてもその音が聞こえることをいうとし，「磬」については「周禮以爲韶字」という。

202 『説文』三篇上音部「韶，虞舜樂也。書曰，簫韶九成鳳皇來儀。从音召聲。」

203 春官・大司樂「以樂舞教國子。舞雲門、大卷、大咸、大磬、大夏、大濩、大武」注「此周所存六代之樂。……大磬，舜樂也，言其德能紹堯之道也。」釋文「大磬，上昭反」阮元校勘記「大磬，漢讀考云，經典舜樂字皆作韶。說文革部鞀或作鞉，或作鼗，籀文作磬，從殼召聲，是則周禮為古文假借字。」『周禮漢讀考』巻三「經典舜樂字皆作韶，惟此作磬。考說文革部……，是則周禮爲古文假借字也。」孫詒讓疏「案段說是也。後注及保氏注並作大韶，用正字也。」

春官・大司樂「乃奏姑洗，歌南呂，舞大磬，以祀四望。……凡樂黃鍾為宮，……九磬之舞，……」注「玄謂，……，九磬讀當為大韶，字之誤也。」釋文「九磬，依字，九音大，諸書所引皆依字。」校勘記「九磬讀當為大韶，字之誤也，惠校本無也，此本疏標起訖云注此三至之誤，亦無也字，漢讀考云，此謂九為大之字誤。」孫詒讓疏「云『九磬讀當為大韶』者，……磬韶古今字，經例作磬，注例用今字作韶。……曾釗云，『莊子至樂「九韶之樂」，史記五帝紀「禹乃興九招之樂」是也。韶招古今字耳，不必破九爲大也。』……九招亦見山海經大荒西經、墨子三辯篇，劉、王諸家讀九如字，亦通。」

204 以下のように，他經はすべて「韶」に作る。『尚書』益稷「簫韶九成」、『禮記』樂記「大章，章之也。咸池，備矣。韶，繼也。夏，大也。」、『左傳』襄公傳二十九年「見舞韶濩者」注「殷湯樂」、襄公傳二十九年「見舞韶箾者」注「舜樂」、『論語』八佾「子謂韶，盡美矣，又盡善也。謂武，盡美矣，未盡善也。」、述而「子在齊。聞韶，三月，不知肉味。」、靈公「樂則韶舞」

205 地官・大司徒「以六樂防萬民之情而教之和。」注「鄭司農云，六樂，雲門、大咸、大韶、大夏、大濩、大武也。」釋文「大招，上朝反，本亦作韶。」孫詒讓疏「鄭司農云『六樂，雲門、大咸、大韶、大夏、大濩、大武也』者，釋文……，案韶、紹，…字並通。」

地官・保氏「而養國子以道。乃教之六藝，一曰五禮，二曰六樂，三曰五射，四曰五馭，五曰六書，六曰九數。」注「六樂，雲門、大咸、大韶、大夏、大濩、大武也。」

206 『説文』十二篇下女部「姷，耦也。从女有聲。侑，姷或从人。」段注「耕有耦者，取相助也。故引伸之，凡相助曰耦，姷之義取乎此。周禮宮正『以樂侑食』，鄭曰，『侑猶勸也』。按勸即助。左傳『王享醴，命晉侯宥』，杜注『……，又命晉侯助以束帛』，以助釋宥。古經多叚宥爲侑。毛詩則叚右爲之。傳曰，『右，勸也。』」

207 『説文』七篇下宀部「宥，寬也。从宀有聲。」段注「宥爲寬，故貰罪曰宥，周禮大司樂假宥爲侑，王制假又爲宥。」

可均はいずれも假借だとする。『周禮』經文には「侑」が1例[208]，「宥」が8例見えるが，「宥」7例[209]は本義の「寛也」で，残りの1例[210]は「侑」1例と同じく「勸也」と注される。つまり「勸也」の意味で「侑」に作る例と「宥」に作る例が1つずつあることになる。嚴可均は，古文のテキストのある『儀禮』注が古文は「宥」に作るとすること、古文の『左傳』が「宥」に作ることを根據に，同じく古文の『周禮』經文も「宥」に作るべきだとし，孫詒讓は嚴説を是とする。

(39)歙・吹

孫詒讓は，笙師の疏[211]で，「歙」は「籥」[212] の省略體であり，經はすべて「歙」に作り，注はすべて「吹」[213] に作るとする。實際，「歙」は『周禮』經文に7例見えるが，注はそれをすべて「吹」に作り[214]，經文に「歙」字のない箇所も「吹」に作る[215]。孫詒讓の指摘通り，例外なく

---

208 天官・膳夫「以樂侑食，膳夫授祭，品嘗食，王乃食。」注「侑猶勸也。」
孫詒讓疏「『以樂侑食』者，侑，依大司樂『王大食三宥』，則字當作宥，此疑轉寫之誤。……云『侑猶勸也』者，…大司樂『三宥』注同。此亦當作宥，宥本訓寛，叚借爲勸助之義，詳大司樂疏。」

209 地官・司諫「以攷鄉里之治，以詔廢置，以行赦宥。」
秋官・大司寇「凡萬民之有罪過而未麗於灋而害於州里者，……役使州里任之，則宥而舍之。」注「宥，寛也」
秋官・小司寇「聽民之所刺宥，以施上服下服之刑。」注「宥，寛也。」
秋官・司刺「掌三刺、三宥、三赦之灋，以贊司寇聽獄訟。」注「宥，寛也。」
秋官・司刺「壹宥曰不識。再宥曰過失。三宥曰遺忘。」注「鄭司農云，不識謂愚民無所識，則宥之。」

210 春官・大司樂「王大食三宥，皆令奏鍾鼓。」注「宥猶勸也。」校勘記「王大食三宥，唐石經余本岳本嘉靖本同，閩監毛本宥改侑，注中同。余本岳本載音義作宥。葉鈔釋文同。石經考文提要云，宋本九經宋纂圖互注本、宋附釋音本皆作宥。漢讀考云，有司徹注曰，古文侑皆作宥，然則以宥為侑古文假借字。」『周禮漢讀考』巻三「釋文葉林宗抄本、唐石經、余仁仲本、岳珂本、嘉靖本、余氏注疏本、古今韻會皆作宥，余岳所載音義同。今各本及通志堂釋文作侑，非也。有司徹注曰，古文侑皆作宥，然則以宥爲侑，古文假借字。」嚴可均「説文，姷，或作侑，耦也。宥，寛也。以耦寛爲勸助，字本假借。儀禮聘禮『以侑幣』，有司徹『乃議侑于賓』，鄭彼注並云『古文侑皆作宥』。左莊十八，僖廿五年『傳命之宥』，廿八年『傳命晉公宥』。儀禮有古文，左傳、周禮亦爲古文，故統借宥字爲之。而膳夫『以樂侑食』，雜以今文，則轉寫失之耳。」孫詒讓疏「宥，明注疏本及盧本釋文並作侑，非。嚴可均云，……，案，嚴説是也。」

211 下注参照。

212 『説文』二篇下龠部「籥，籥音律管壎之樂也。从龠炊聲。」段注「以人氣作音曰吹」樂器を吹くこと。

213 『説文』では口部、欠部の二箇所に見える。二篇上口部「吹，噓也。从口从欠。」八篇下欠部「吹，出气也。从欠从口。」

214 春官・笙師「掌教歙竽、笙、塤、籥、簫、篪、篴、管，舂牘應雅，以教祓樂。」注「杜子春讀篴為蕩滌之滌，今時所吹五空竹篴。」釋文「歙，昌垂反」孫詒讓疏「『掌教歙竽、笙、塤、籥、簫、篪、篴、管』者，説文龠部云，……口部云，……，又欠部云，……。歙即籥之省。凡經皆作歙，注皆作吹，經例用古字，注例用今字也。」
春官・籥師「掌教國子舞羽歙籥。」注「文舞有持羽吹籥者，所謂籥舞也。」孫詒讓疏「注云『文舞有持羽吹籥者』者，此亦注用今字作吹也。」
春官・籥章「中春晝，繫土鼓歙豳詩，以逆暑。」注「豳詩，豳風七月也。吹之者以籥為之聲。」
孫詒讓疏「云『吹之者以籥為之聲』者，此亦經用古字作歙，注用今字作吹也，詳笙師疏。」
春官・籥章「凡國祈年于田祖，歙豳雅擊土鼓，以樂田畯。國祭蜡則歙豳頌擊土鼓，以息老物。」
春官・鞮鞻氏「祭祀則歙而歌之，燕亦如之。」注「吹之以管籥為之聲。」
孫詒讓疏「注云『吹之以管籥為之聲』者，此亦注用今字作吹也。」
春官・菙氏「凡卜，以明火爇燋，遂歙其焌契，以授卜師，遂役之。」注「玄謂，焌讀如戈鐏之鐏，謂以契柱燋火而吹之也。」

「經用古字，注用今字」である。

(40)豳・邠

『説文』に據れば，「邠」[216] は「周太王國」，「豳」[217] は「美陽亭即豳也」である。「豳」段注は「按此二篆説解可疑」としつつも，「蓋古地名作邠，山名作豳，而地名因於山名，同音通用，……，是以周禮籥師經文作豳，注作邠。漢人於地名用邠不用豳。（おそらく古の地名は「邠」に作り，山の名は「豳」に作るのだろう。そして地名は山の名に因み，同音による通用であろう。……それで，『周禮』籥師（籥章の誤りか）の經文は「豳」に作り，注は「邠」に作るのである。漢の人は地名に「邠」は用いず「豳」を用いた。）」とする。しかし，この地名は，『周禮』經文には4例（いずれも春官・籥章）[218] 見え，すべて「豳」に作る[219]が，今本では前五篇の注もすべて「豳」に作る[220]。ただし，『釋文』は「豳」を擧げて「彼貧反，注邠同」という。段玉裁はこれを根據に「經作豳，注作邠」という。阮元も『釋文』を引き，段玉裁の説に觸れ，「今本皆改爲豳矣」とする。孫詒讓は，段説、阮説に據り，注の「豳」字は「邠」に作るべきだとする。

(41)虡・鐻

「虡」は「鐘鼓之柎」（鐘鼓を掛ける器具）で，「鐻」はその或體，「虡」はその篆文である[221]。『周禮』經文には「鐻」がなく，「虡」が8例[222]あり，鄭注も概ね「虡」に作る[223]が，杜子

阮元校勘記「按今本籥作龡者，從炊省也。〇按説文，籥，從龠炊聲。」
孫詒讓疏「『遂龡其焌契，以授卜師』者，龡，説文引作籥。阮元云，……。云『謂以契柱燋火而吹之也』者，此亦注用今字作吹也。」

215 他の經典（『毛詩』『禮記』『爾雅』）も「吹」に作る。

216 六篇下邑部「邠，周太王國，在右扶風美陽。从邑分聲。」

217 六篇下邑部「豳，美陽亭即豳也。民俗以夜市。有豳山。从山从豩。闕。」

218 經「掌土鼓豳籥」注「鄭司農云，豳籥，豳國之地竹，豳詩亦如之。玄謂，豳籥，豳人吹籥之聲章。」釋文「籥章，豳，彼貧反，注邠同。」校勘記「豳籥，豳國之地竹，釋文音經豳籥云，注邠同。段玉裁取此為經用古字注用今字之一證。今本皆改為豳矣。」孫詒讓疏「鄭司農云『豳籥，邠國之地竹』者，釋文……，段玉裁、阮元並云，……。案，段、阮説是也。此注豳字並當作邠。」
經「中春晝擊土鼓龡豳詩以逆暑」注「豳詩，豳風七月也。」
經「凡國祈年于田祖龡豳雅擊土鼓以樂田畯」注「豳雅，亦七月也。」
經「國祭蜡則龡豳頌擊土鼓以息老物」注「豳頌，亦七月也。」

219 『毛詩』『左傳』も「豳」に作るが，『爾雅』釋地は「西至於邠國」と，國名を「邠」に作る。『孟子』（梁惠王下）も「邠」に作る。

220 考工記の注には「邠」が1例ある。總敍「燕之角、荆之幹、妘胡之笴、吳粤之金錫，此材之美者也。」注「杜子春云，妘讀為焚咸丘之焚，書或為邠。妘，胡地名也。」孫詒讓疏「云『書或為邠』者，妘邠同聲叚借字。」

221 『説文』五篇上虍部「虡，鐘鼓之柎也，飾為猛獸。从虍異聲，象其下足，鐻，虡或从金豦聲，虡，篆文，虡省」。

222 春官・典庸器「掌藏樂器庸器。及祭祀，帥其屬而設筍虡，陳庸器。」注「注設筍虡，眡瞭當以縣樂器焉。……杜子春云，筍讀為博選之選，横者為筍，從者為鐻。」經典釋文「鐻，音距。舊本作此字。今或作虡。」『周禮

春は「鐻」に作る[224]。段玉裁は，杜注を根據に「此亦經用古字注用今字之一證」とするが，孫詒讓は，鄭、杜の用字法が異なるとする。

(42)卟・兆

兆は，「灼龜坼」と釋される「卟」の古文の隷變である[225]。今本『周禮』經文には「卟」は見えず，「兆」は19例見えるが，うち８例[226]は「垗」に通ずる用例で「灼龜坼」ではない。11例[227]は大卜と卜師に見え，「灼龜坼」である。今本の經文に「卟」は見えないが，大卜の釋文に「三卟，音兆，亦作兆」とあることを根據に阮元は，「按古文經當作卟，注從今字作卟」としていたが，後に前説を訂正する。孫詒讓も略説では阮元の前説と同様，卟・兆を古今字としていたが，大卜疏では，阮元と同様，前説を翻し，『説文』を根據に，『周禮』經文は古文に作ることが多いので，釋文が誤りで，「兆」に作るべきだとする。

漢讀考』巻三「經作虡，注作鐻者，漢人多用鐻字。（詳説文解字讀）此亦經用古字注用今字之一證。説文虍部曰，虡或作鐻。」孫詒讓疏「云『横者為筍，從者為鐻』者，梓人注義同。釋文云，……。案，説文虍部云，……。此及梓人經注並作虡，即篆文之變體，杜作鐻，用或體也。段玉裁云，……。案，段説近是。但後鄭注仍作虡，小胥、梓人注同，然則惟杜作鐻，鄭自如經作虡，兩君字例不同也。」

春官・典庸器「大喪，廞筍虡。」

冬官・梓人「梓人爲筍虡」注「樂器所縣。横曰筍，植曰虡。」

冬官・梓人「贏者羽者鱗者以爲筍虡。……厚脣、弇口、出目、短耳、大胷、燿後、大體、短脰，若是者謂之贏屬。恒有力而不能走。其聲大而宏。有力而不能走，則於任重宜。大聲而宏則於鍾宜。若是者以爲鍾虡。是故繫其所縣，而由其虡鳴。……鋭喙、決吻、數目、顚脰、小體、騫腹，若是者謂之羽屬。……。若是者，以爲磬虡。故繫其所縣而由其虡鳴」

223 經文に「虡」がない箇所も，鄭注は「虡」に作る。

春官・小胥「凡縣鍾磬，半為堵，全為肆。」注「鍾磬者編縣之，二八十六枚而在一虡，謂之堵。鍾一堵，磬一堵，謂之肆。」

冬官・梓人「凡攫鷙援簴之類必深其爪出其目作其鱗之而」注「謂筍虡之獸也。」

224 春官・典庸器注１例のみ。

225 『説文』三篇下卜部「卟，灼龜坼也。从卜兆，象形。兆，古文卟省。」段注「按古文祇爲象形之字。小篆加卜，非古文減卜也。」

春官・小宗伯「兆五帝於四郊，四望四類亦如之。」注「兆爲壇之營域，……玄謂，四類日月星辰運行無常，以氣類爲之位。兆日於東郊，兆月與風師於西郊，兆司中司命於南郊，兆雨師於北郊。」

春官・小宗伯「卜兆山川、丘陵、墳衍，各因其方。……葬兆甫竈亦如之。」注「兆，墓塋域。」

春官・肆師「掌兆中廟中之禁令。」注「兆，壇塋域。」

春官・典祀「掌外祀之兆守。皆有域。掌其政令。」注「外祀謂所祀於四郊者。域，兆表之塋域。」

春官・冢人「掌公墓之地，辨其兆域而為之圖。先王之葬居中，以昭穆為左右。……凡死於兵者，不入兆域。……凡諸侯及諸臣葬於墓者，授之兆，為之蹕，均其禁。」

227 春官・大卜「掌三兆之灋。一曰玉兆。二曰瓦兆。三曰原兆。」注「兆者灼龜發於火其形可占者。……杜子春云，玉兆，帝顓頊之兆。瓦兆，帝堯之兆。原兆，有周之兆。」釋文「三卟，音兆，亦作兆。」校勘記「掌三兆之灋，唐石經諸本同，釋文作三卟云亦作兆。按古文經當作卟，注從今字作卟。今本後人援注所改〇謂前説非也。經注皆未嘗作卟，卟乃俗字後人所造竄入説文者。周禮有作卟者俗本耳。」孫詒讓疏「『掌三兆之灋』者，兆，釋文……。案，説文卜部云，……，此經多古文，則當以作兆爲正，釋文本非。」

春官・大卜「其經兆之體皆百有二十。……以八命者贊三兆三易三夢之占，以觀國家之吉凶，以詔救政。」

春官・卜師「掌開龜之四兆。一曰方兆。二曰功兆。三曰義兆。四曰弓兆。」

(43)寤・夢

『説文』[228] に據れば，ゆめの正字は「寤」で，「夢」がゆめの意を表すのは假借である。『説文』の「寤」の説解は『周禮』の占夢の文を引き，釋文は大卜の「三夢」の「夢」を「寤」の誤りまたは俗體であると考えられている「薔」に作るが，今本『周禮』に「寤」」は見えず，すべて「夢」に作る[229]。孫詒讓は，「寤」が正字であることを指摘し，『説文』の占夢の引用や釋文について觸れはするが，阮元本を改めることはしない。

(44)擛・拜

「拜」は「擛」の或體である[230]。『周禮』經文には「擛」は7例[231]、「拜」は33例[232]，注はすべ

---

228 『説文』七篇下寤部「寤，寐而有覺也。从宀从丬夢聲。周禮，以日月星辰占六寤之吉凶，一曰正寤，二曰噩寤，三曰思寤，四曰悟寤，五曰喜寤，六曰懼寤，凡寤之屬皆从寤。」
七篇下夕部「夢，不明也。」

229 16例見える。春官「占夢。中士二人，史二人，徒四人。」
春官・大卜「掌三夢之灋。一曰致夢。二曰觭夢。三曰咸陟。」釋文「三薔，音夢，本多作夢。」「觭夢，居綺反，注掎同，又紀宜反，杜其宜反。」阮元校勘記「掌三夢之灋，唐石經諸本同，釋文作三薔，不成字。蓋說文寤字之譌耳，寤者正字，夢者假借字也。」孫詒讓疏「『掌三夢之灋』者，釋文……。案，夢正字當作寤，薔即寤之俗。經凡寤字皆叚夢爲之。後占夢釋文載或本作寤，則用正字，詳彼疏。」
春官・大卜「以八命者贊三兆三易三夢之占，以觀國家之吉凶，以詔救政。」注「鄭司農云，以此八事命卜筮蓍龜參之以夢。故云以八命者贊三兆三易三夢之占。」
春官・占夢「占夢掌其歲時觀天地之會，辨陰陽之氣。」釋文「占夢，本又作寤，音同。」孫詒讓疏「『占夢』者，釋文云，……，案，說文寤部云，『寤，……』引此經文並作寤。又夕部云『夢，不明也。』是寤正字，夢叚借字。但敍官及大卜並不作寤，釋文或本不知是故書否也。廣韻一送引此經六夢，亦與說文同。」
春官・占夢「以日月星辰，占六夢之吉凶。」注「春秋昭三十一年十二月辛亥朔日，有食之，是夜也，晉趙簡子夢童子倮而轉以歌，旦而日食。……此以日月星辰占夢者，其術則今八會其遺象也。用占夢則亡。」
春官・占夢「一曰正夢。」注「無所感動，平安自夢。」
春官・占夢「二曰噩夢。」注「杜子春云，噩當為驚愕之愕，謂驚愕而夢。」（『周禮漢讀考』巻三は，この經注を引用し，いずれも「夢」を「寤」に作る。）
春官・占夢「三曰思夢。」注「覺時所思念之而夢。」
春官・占夢「四曰寤夢。」注「覺時道之而夢。」
春官・占夢「五曰喜夢。」注「喜悅而夢。」
春官・占夢「六曰懼夢。」注「恐懼而夢。」
春官・占夢「季冬聘王夢，獻吉夢于王，王拜而受之。」注「夢者，事之祥，吉凶之占，在日月星辰。……因獻羣臣之吉夢於王歸美焉。詩云牧人乃夢，衆維魚矣，旐維旟矣。此所獻吉夢。」
春官・占夢「乃舍萌于四方，以贈惡夢。」

230 『説文』十二篇上手部「擛，首至地也。从手桼，桼音忽。揚雄說，拜从兩手下，……」，「拜」は三上廾部にも見え，「拜，揚雄說廾从兩手」。

231 春官・世婦「凡王后有擛事於婦人則詔相。」注「玄謂，拜，拜謝之也。喪大記曰，夫人亦拜寄公夫人於堂上。」孫詒讓疏「擛・拜古今字，經例用古字作擛，注例用今字作拜，詳大祝疏。」
春官・大祝「辨九擛。一曰稽首。二曰頓首。三曰空首。四曰振動。五曰吉擛。六曰凶擛。七曰奇擛。八曰褒擛。九曰肅擛。以享右祭祀。」注「稽首，拜頭至地也。頓首，拜頭叩地也。空首，拜頭至手，所謂拜手也。吉拜，拜而后稽顙，謂齊衰不杖以下者。言吉者，此殷之凶拜，周以其拜與頓首相近，故謂之吉拜。云凶拜稽顙而后拜謂三年服者。杜子春云，……奇讀為奇偶之奇，謂擛屈一膝，今雅拜是也。或云奇讀曰倚，倚拜謂持節持戟拜，身倚之以拜。鄭大夫云，……奇拜謂一拜也。褒讀為報，報拜再拜是也。鄭司農云，褒拜，今時持節拜是也。肅拜但俯下手，今時揖是也。介者不拜，故曰為事故敢肅使者。玄謂，振動，戰栗變動之拜。書曰，

て「拜」に作る。孫詒讓は「唐石經及宋以来版本並誤」とし，經文の「拜」はすべて「擛」に作るべきだとする。

(45)䭫・稽

『説文』では「䭫」は「下首也」[233]，「稽」は「留止也」[234] で，「頁」[235] の説解にも「䭫首」の語が見える。つまり『周禮』九拜の「稽首」の正字は「䭫」だが，經文に「䭫」は見えず，

王動色變。一拜，答臣下拜。再拜，拜神與尸。」

孫詒讓疏「『辨九擛』者，説文手部云，……，案，此經例用古字，皆作擛，注例用今字，皆作拜。」

232 地官・鄉大夫「厥明，鄉老及鄉大夫、羣吏，獻賢能之書于王。王再拜受之，登于天府。内史貳之。」注「王受之，重得賢者。」孫詒讓疏「云『王再拜受之』者，拜，經例用古字當作擛。唐石經及宋以来版本並誤。詳大祝疏。」

春官・樂師「教樂儀，行以肆夏，趨以采齊，車亦如之。環拜以鍾鼓爲節。」注「拜，直拜也。」孫詒讓疏「云『環拜以鍾鼓爲節』者，拜，經例當作擛，詳前世婦疏。」

春官・占夢「季冬聘王夢，獻吉夢于王，王拜而受之。」孫詒讓疏「云『王拜而受之』者，拜，經例用古字當作擛。詳大祝疏。」

秋官・小司寇「孟冬祀司民獻民數於王。王拜受之，以圖國用而進退之。」孫詒讓疏「云『王拜受之』者，拜，經例用古字當作擛。石經及各本並誤。詳大祝疏。」

秋官・司民「及三年大比，以萬民之數詔司寇，司寇及孟冬祀司民之日，獻其數于王，王拜受之，登于天府。…」孫詒讓疏「云『王拜受之，登于天府』者，拜，經例當作擛。石經及各本並誤。詳春官世婦疏。」

秋官・司儀「凡諸公相為賓，主國五積、三問。皆三辭，拜受，皆旅擯，再勞。三辭、三揖，登，拜受，拜送。」注「玄謂，……，拜送，送使者。」孫詒讓疏「云『皆三辭，拜受』者，拜，經例用古字當作擛。石經及各本並誤，下同，詳春官世婦疏。」

秋官・司儀「主君郊勞，交擯三辭。車逆拜辱，三揖，三辭拜受。車送，三還再拜。」注「拜辱，賓拜謝辱也。玄謂，……車迎拜辱者，賓以主君親來乘車出舍門而迎之。若欲遠就之然。見之則下拜迎，謝其自屈辱來也。至去又出車。若欲遠送然。主君三還辭之，乃再拜送之也。」

秋官・司儀「及將幣，交擯三辭。車逆，拜辱。賓車進，荅拜。三揖三讓每門止一相。及廟，唯上相入。賓三揖三讓，登，再拜授幣。賓拜送幣。每事如初。賓亦如之。及出，車送，三請三進，再拜。賓三還三辭，告辟。」注「鄭司農云，……賓車進答拜，賓上車進主人乃答其拜也。……玄謂，既三辭，主君則乘車出大門，而迎賓見之，而下拜其辱。賓車乃前下答拜也。……登再拜授幣，授當為受，主人拜至且受玉也。」

秋官・司儀「賓之拜禮，拜饔餼，拜饗食。」注「鄭司農云，賓之拜禮者，因言賓所當拜者之禮也。所當拜者，拜饔餼拜饗食。玄謂，賓將去，就朝拜謝此三禮。三禮，禮之重者也。賓既拜，主君乃至館贈之，去又送之於郊。」

秋官・司儀「諸公之臣，相為國客，則三積。皆三辭，拜受。及大夫郊勞，旅擯，三辭，拜辱，三讓登，聽命。下拜，登受。賓使者如初之儀。及退，拜送。」

秋官・司儀「及將幣，旅擯三辭，拜逆，客辟。三揖，每門止一相。及廟，唯君相入。三讓，客登，拜。客三辟。授幣下出。每事如初之儀。」注「客辟，逡巡不答拜也。……拜，主君拜客至也。……」

秋官・司儀「及禮私面私獻，皆再拜稽首，君答拜。」

秋官・司儀「出，及中門之外，問君。客再拜，對。君拜。客辟而對。君問大夫。客對。君勞客。客再拜稽首。君答拜。客趨辟。」注「問君客再拜，對者為敬慎也。」

秋官・司儀「君館客。客辟，介受命。遂送。客從拜辱于朝。」注「遂送，君拜以送客。」

秋官・司儀「明日，客拜禮賜。」

233 九篇上首部「䭫，下首也。(段注は「䭫首也」)」

234 六篇下稽部「稽，留止也。从禾从尤旨聲。」

235 九篇上頁部「頁，頭也，从百从儿，古文䭫首如此。」

「稽」は24例のうち春官・大祝1例[236]，秋官・司儀2例[237]は「稽首」である[238]。ただし，大祝の釋文は「䭫首」に作るので，孫詒讓は大祝の疏に「經作䭫，注作稽，亦經用古字，注用今字之例」といい，司儀疏では「稽，疑當從大祝釋文作䭫」とする。

(46)遙・原

『説文』に據れば，「遙」[239] は「高平之野」，「原」[240] は「水泉本」なので，「遙」は，はら(高所の平地）の正字であり，「原」はみなもとの正字で，それが「高平之野」の意を表す場合は假借である。『周禮』經文は遙師の官名とその職掌を述べる箇所（3例）[241] は經注ともに「遙」

---

236 春官・大祝「辨九擂。一曰稽首。二曰頓首。三曰空首。四曰振動。五曰吉擂。六曰凶擂。七曰奇擂。八曰褒擂。九曰肅擂。以享右祭祀。」注「稽首，拜頭至地也。」釋文「䭫首，音啓，本又作稽。」賈疏「一曰稽首，其稽，稽留之字。」孫詒讓疏「云『一曰稽首』者，稽，釋文……，説文首部云，……，案，釋文本是也。經作䭫，注作稽，亦經用古字，注用今字之例。稽䭫同聲叚借字。賈疏説稽首爲稽留之字，則誤以叚字爲正字矣。」

237 秋官・司儀「及禮、私面、私獻，皆再拜稽首，君答拜。出，及中門之外，問君。客再拜對。君拜，客辟而對。君問大夫。客對。君勞客，客再拜稽首。君答拜。客趨辟。」孫詒讓疏「『皆再拜稽首，君答拜』者，稽，疑當從大祝釋文作䭫，下同。」

238 残りの21例は以下の通り。天官・小宰「以官府之八成經邦治。一曰聽政役以比居。二曰聽師田以簡稽。……」注「鄭司農云，……簡稽，士卒兵器簿書。簡猶閱也。稽猶計也。……故遂人職曰，稽其人民，簡其兵器。國語曰，黄池之會，吳陳其兵，皆官師擁鐸拱稽。」

天官・宮正「稽其功緒，糾其德行。」注「稽猶考也，計也。」

天官・醫師「歲終則稽其醫事，以制其食。」

天官・内宰「歲終則會内人之稍食，稽其功事。」

地官「司稽五肆則一人，」注「自胥師以及司稽，皆司市所自辟除也。……司稽，察留連不時去者。」

地官・小司徒「掌建邦之教灋，以稽國中及四郊都鄙之夫家九比之數，……」注「稽猶考也。」

地官・小司徒「乃均土地，以稽其人民，而周知其數。」

地官・鄉師「以國比之灋，以時稽其夫家衆寡，辨其老幼貴賤廢疾馬牛之物，……」

地官・鄉師「正歲，稽其鄉器。……若國大比，則攷教察辭，稽器展事，以詔誅賞。」

地官・縣師「掌邦國都鄙稍甸郊里之地域，而辨其夫家人民田萊之數及其六畜車輦之稽。」

地官・質人「掌稽市之書契，同其度量，壹其淳制。」注「稽猶考也，治也。」

地官・司稽「司稽掌巡市而察其犯禁者與其不物者而搏之。」

地官・遂人「以土地之圖經田野造縣鄙形體之灋。……使各掌其政令刑禁，以歲時稽其人民而授之田野，簡其兵器，教之稼穡。」

地官・遂大夫「各掌其遂之政令，以歲時稽其夫家之衆寡、六畜田野，辨其可任者與其可施舍者，以教稼穡，以稽功事，掌其政令戒禁，聽其治訟。」

地官・縣正「既役則稽功會事而誅賞。」

地官・酇長「凡歲時之戒令皆聽之。趨其耕耨，稽其女功。」

夏官・大司馬「簡稽鄉民，以用邦國。」注「簡謂比數之。稽猶計也。」

夏官・司士「凡邦國，三歲則稽士任，而進退其爵祿。」

夏官・職方氏「東南曰揚州。其山鎮曰會稽。」注「會稽在山陰。」

239 二篇下辵部「遙，高平之野，人所登。从辵夂田录。闕。（段注本は「高平曰遙」）」

240 二篇下厂部「原，水泉本也。从厂出厂下。原，篆文从泉。」（段注は「水本也」）

241 夏官序官「遙師，中士四人、下士八人、府四人、史八人、胥八人、徒八十人。」注「遙，地之廣平者。」孫詒讓疏「案，遙原古今字。經例用古字作遙，注例用今字當作原，詳大司徒疏。」

夏官・遙師「遙師掌四方之地名，辨其丘陵、墳衍、遙隰之名、物之可以封邑者。」

に作り，その他は經注とも「原」に作る。『周禮』經文に見える「原」5例のうち，3例[242]は「高平之野」の假借である[243]。孫詒讓は，經文の「原」は「邍」に，注の「邍」は「原」に作るのが正しいと考える[244]。

(47)まとめ

以上，孫詒讓が『周禮正義』略例に擧げる48中46組の古今字について，古今字と本義の關係、古字と今字の關係、阮元本における使用状況、それについての孫詒讓の見方について検討した。その結果，今字について略例のいう「漢人常用之字，不拘正叚借也」は，古字についても同様であることがわかった。「敵」「示」「政」「貍」「眚」「毂」「簒」「果」「磬」は明らかに假借で，その他にも正字ではないものは多い。古字と今字の關係も「灋」と「法」、「眡」と「視」、「烖」と「災」、「桌」と「栗」、「毓」と「育」、「媚」と「姻」、「匷」と「柩」、「囍」と「艱」、「馭」と「御」、「鬻」と「煮」、「虡」と「鐻」、「丱」と「兆」、「拜」と「擇」などのように本來の異体字もあれば，「敵」と「漁」、「聯」と「連」、「頒」と「班」、「于」と「於」、「攷」と「考」、「政」と「征」、「敍」と「序」、「袞」と「邪」、「覈」と「核」、「磬」と「韶」、「侑」と「宥」、「誚」と「稽」、「邍」と「原」などのように音が同じか近いというだけの字もある。要するに，『周禮正義』の「古今字」とは，經と注の用字の違いのみを指していう語なのである。46組の古今字の阮元本における使用状況は必ずしも「經用古字，注用今字」ではなかったが，孫詒讓は「經用古字，注用今字」の原則に執拗に固執し，原則に合わなければ，可能な限り據り所を探してテキストを改め，改めない場合も誤りとする。孫詒讓にとって，古字は經文の用字、今字は注の用字だった。

三　おわりに

前章の調査により明らかなように，『周禮正義』で「古今字」であるための必要十分條件は，

---

242 地官・大司徒「辨其山林川澤丘陵墳衍原隰之名物。」注「高平曰原。」釋文「原，本又作邍。」阮元校勘記「辨其山林川澤丘陵墳衍原隰之名物，唐石經諸本同，釋文原本亦作邍，案周禮原隰字多作邍，此當作古字，因注作原而改。」孫詒讓疏「案阮説是也。邍原古今字，經例用古字當作邍，注例用今字當作原，邍師、邍隰，字正作邍。今本此職誤以注改經作原，夏官敍官則又以經改注作邍，二者交失之矣。」
地官・大司徒「辨五地之物生，……五曰原隰，其動物宜贏物，其植物宜叢物，其民豐肉而庳。」孫詒讓疏「云『五曰原隰』者，原亦當作邍，詳前疏。」
春官・大卜「掌三兆之灋。一曰玉兆。二曰瓦兆。三曰原兆。」注「原，原田也」孫詒讓疏「云『原，原田也』者，讀原爲邍也，原即邍之借字，詳大司徒疏。」

243 残り2例は，地官・土訓「道地慝，以辨地物而原其生，以詔地求。」注「辨其物者，別其所有所無。原其生，生有時也。以此二者告王之求也。」孫詒讓疏「云『原其生，生有時也』者，原猶察度也。」、また夏官・馬質「禁原蠶者。」注「原，再也。」（「原，再也」は『爾雅』釋詁の文）

244 大司徒疏など。注242參照。

經と注で用字が異なるということである。『周禮正義』で「古今字」という場合，『周禮』經注の用字の違いのみを指していい，古字や今字の本義や古今字の關係は問題にしない。また，『周禮正義』の「古今字」が經注異字を指すのは，『周禮』について「古今字」を語るので，「古」は經文、「今」は注になるというだけで，絶對的なものでなく，「古」と「今」はその都度具體的な使用状況に應じて決まる。清代以前，「古今字」は純粋に歴史的同語異字現象のみを指す語だったのである。

使用テキスト

阮元本『十三經注疏』

通志堂本『經典釋文』

中華書局本『周禮正義』